

JA NANSAI

DISCLOSURE 2022

JA南彩のご案内

JA南彩をもっと知っていただくために



プロフィール

(令和4年3月31日現在)

なんさいのうきょうきょうどうくみあい 南彩農業協同組合 (JA南彩)

設立日	平成8年4月1日		
本店所在地	埼玉県春日部市南二丁目4番30号		
出資金	2,880百万円		
店舗等の状況	本支店 16	営農経済センター 5	ローンセンター 1
	農産物直売所 3		
	農機センター 1	燃料配送センター 1	
	ライスセンター 2	カントリーエレベーター 1	

従業員数 308名

・総資産	2,988億78百万円
・貸出金	644億13百万円
・貯金*1・譲渡性預金	2,814億19百万円
・純資産	152億53百万円
・経常利益	3億62百万円
・当期剰余金*2	1億61百万円
・自己資本比率(単体)	13.70%

*1 貯金とは、銀行等の預金に相当するものです。組合では利用者側に立った「貯える」という考えで使用しています。

*2 当期剰余金とは、銀行等の当期純利益に相当するものです。

株式会社 なんさい ふうあー夢

設立日	平成30年9月10日
本店所在地	埼玉県久喜市菖蒲町小林2302番地
出資金	3,000万円
組合が有する株式等の割合	100% (なお、組合の他の子会社等が有する株式等はありません。)

従業員数 8名

・総資産	5,014万円
・純資産	3,521万円
・経常利益	79万円
・当期純利益	61万円

※ 本誌に掲載してある計数は、原則として単位未満を切り捨てのうえ表示しており、金額千円未満の科目については「0」表示、残高がない科目は「-」で表示しています。

※ 本誌は、農業協同組合法第54条の3に基づき作成したディスクロージャー資料です。

目 次

	ページ
ごあいさつ	2
J A 綱領	3
経営方針	4
J A 南彩と地域社会	6
農業振興活動	7
地域社会貢献活動	7
リスク管理の状況	8
自己資本の状況	12
トピックス	13
【資料編】	14
J A 南彩の沿革（あゆみ）	88
店舗等一覧 （株式会社なんさい ふぁー夢の営業店舗等を含む。）	90
開示項目一覧	91

ごあいさつ

組合員の皆様及び地域の皆様には、平素より私どもＪＡ南彩をお引き立ていただきまして誠にありがとうございます。

このたび、当ＪＡは第26期の決算を迎えました。本ディスクロージャー誌では、令和3年度の当ＪＡの業績、経営課題への取組みや経営方針などをご紹介します。本誌を通じて皆様の私どもに対するご理解を一層深めていただけたら幸いです。

さて、わが国の経済は、依然として新型コロナウイルスの感染拡大により甚大な影響をおよぼしております。しかしながら、ワクチン接種による感染の収束、政府の金融政策や経済対策等により景気が持ち直し、今後回復していくものと見込まれておりますが「先行き不安感」は依然として残ったままです。世界経済におきましてもロシアのウクライナへの軍事侵攻により、エネルギーや資源価格等の高騰が米国や欧州、中国経済に与える影響ははかりしれません。

農業を取り巻く情勢についても、人口減少の進行と急速な高齢化に伴い基幹的農業従事者数は急速に減少しております。その一方で、ドローンや自動農機などを活用した省力化技術やデータ活用など、スマート農業の加速化やデジタル技術の活用が進んでいます。

ＪＡを取り巻く情勢は、超低金利環境の継続等の要因により資金運用環境の好転が見込めずさらに厳しい経営環境が見込まれます。経営の健全性の確保やさらなるガバナンス向上、内部統制強化をすすめ経営基盤の強化に取り組んでまいります。

このような状況において、令和3年度につきましては、令和3年産米の価格下落や農業資材価格（肥料・燃料）の高騰に対して組合員へ助成金の支援を行いました。また、ＪＡ南彩合併25周年を迎え記念イベントや「なんさいの日」を制定し、さらにはＪＡ南彩ロゴマークやキャッチコピーも新たに作成しました。組織整備におきましては、今年の3月に蓮田地区で蓮田支店と平野支店が、菖蒲地区でも菖蒲南支店と三箇支店が統合となりました。そして、組合員皆様の視点に立ち事業展開を行なった結果、主な事業実績につきましては、一部事業を除き概ね前年並みの成果を挙げさせていただくことができました。これも偏に組合員皆様方のご支援・ご協力の賜物と厚くお礼申し上げます。

なお、詳細につきましては、別記のとおりでございます。

結びに、食と農を基軸とし地域に根ざした協同組合として相互扶助の理念に基づき、地域の皆様に安全・安心な農産物を継続してお届けするため、3年に一度のＪＡ大会で決議されました「持続可能な農業・地域共生の未来づくり」をメインテーマとして『農業者の所得増大』『農業生産の拡大』『地域の活性化』の3つの基本目標に取組み「不断の自己改革によるさらなる進化」に挑戦します。

さらには、本格的な世代交代期のなか農業生産構造や実需の変化に対応した事業モデルの転換等を通じて組合員との対話を強化し、自己改革の実践と経済事業の収益力向上・収支改善の両立を進め、役職員一体となり取組んでいく所存でございますので、組合員皆様方のより一層のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和4年7月

代表理事組合長

菊池 義雄

J A 綱領

1 . J A 綱 領

J A 綱領とは、J A グループが活動を展開するにあたり、J A グループの価値観であり、基本的姿勢を示したものです。私ども J A 南彩は、次に記す「J A 綱領」を最も根本となる理念と位置づけ、遵守しております。

J A 綱領 —わたしたち J A のめざすもの—

わたしたち J A の組合員・役職員は、協同組合運動の基本的な定義・価値・原則（自主、自立、参加、民主的運営、公正、連帯等）に基づき行動します。そして、地球的視野に立って環境変化を見通し、組織・事業・経営の革新をはかります。さらに、地域・全国・世界の協同組合の仲間と連携し、より民主的で公正な社会の実現につとめます。

このため、わたしたちは次のことを通じ、農業と地域社会に根ざした組織としての社会的役割を誠実に果たします。

わたしたちは

1. 地域の農業を振興し、わが国の食と緑と水を守ろう。
1. 環境・文化・福祉への貢献を通じて、安心して暮らせる豊かな地域社会を築こう。
1. J A への積極的な参加と連帯によって、協同の成果を実現しよう。
1. 自主・自立と民主的運営の基本に立ち、J A を健全に経営し信頼を高めよう。
1. 協同の理念を学び実践を通じて、共に生きがいを追求しよう。

2 . J A 綱 領 の 解 説

J A 綱領は、J A の組合員、役職員が次の5つの対象に対して社会的役割・使命を果たすことを宣言したものです。1番目が消費者に対して、2番目が地域住民に対して、3番目が事業の利用者に対して、4番目が出資者に対して、5番目が協同活動の担い手に対して、となっています。

- ① 農業協同組合として農業を振興して、新鮮で安全な食糧（「食」）を安定供給する機能と自然環境（「緑と水」）が有する公益的な機能を守り、「消費者」と国民の期待にこたえていくこと。
- ② 緑豊かな地域循環型の環境づくり、地域の伝統文化や食文化の堅持とともに新しい地域文化の創造、農とのふれあい等を通じて、「地域住民」の生活を支援していくこと。
- ③ J A の「事業・活動への参加者（利用者）」の結集（「連帯」）と、他の J A、連合会や協同組合との「連帯」を力にして、適正な価格による質の高い商品とサービス（「協同の成果」）を実現し、人のふれあいを添えて「事業・活動への参加者（利用者）」に提供していくこと。
- ④ 「出資者」が管理する「自主・自立」の組織として、自己責任経営のもとで「出資者」やその代表によりの確に管理監督できる「民主主義」が有効に機能する情報開示（信用の確保）、安定した財務構造の確立、企業家精神を鼓舞した積極的な挑戦（「健全な経営」）を実践することで、役職員・経営方針・施策などの「信頼」を高めていくこと。
- ⑤ ①から④までに掲げた価値観（「協同の理念」）に賛同（堅持）する組合員、役職員、地域住民の仲間と共に、広く情報を収集し、共に学び、J A の活動に積極的に参加することを通じて、一人ひとりの自己実現の欲求を充足し、「生きがい」や働きがいを将来に向かって追及すること。

経営方針

1. 経営理念

J A南彩は地域農業振興を通じて「食」と「農」と「環境」を守り、地域社会の発展に貢献する事業活動を展開します。

2. 経営方針

指導事業

新たな中期3か年計画の初年度として、持続可能な農業を目指すため、引き続きJ A自己改革の3つの基本目標「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」を継続し、担い手への対応力強化、農産物の販売拡大、豊かで暮らしやすい地域社会実現のために、これまでの取組みをさらに深化させます。

信用事業

J Aバンク埼玉中期戦略(2022~2024年度)で掲げる「10年後のJ Aグループのめざす姿の実現」に向け、本中期戦略期間の初年度・足がかりの年として、3つの実践事項（①金融仲介機能の発揮・②業務効率化・③不断の取組み）に着実に取組んでいくものです。

共済事業

令和4年度は、J A共済3か年計画の初年度にあたることから、同計画の基本方針を踏まえ「ひと・いえ・くるま・農業」の万全な保障提供につとめ、農業・地域への貢献活動を通じた新たなJ Aファンづくりを進めます。

また、新たな生活様式に対応するため、デジタル活用による利便性の向上と契約者対応力の強化につとめ、長期安定的な事業運営による健全性・信頼性の向上をはかります。

購買事業

新たな中期3か年計画の初年度として、持続可能な農業を目指すため、引き続きJ A自己改革の3つの基本目標「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」を継続し、生産資材関連事業においては、資材等におけるコスト低減や安定価格による取扱拡大への取組み、また生活関連事業においては、米の消費拡大や葬祭事業のPRにつとめるなど、組合員の暮らしをサポートする事業展開に取組みます。

販売事業

パートナー市場と連携し、安定的販売先の確保と価格や数量を事前に決めた契約取引を拡大し生産者手取りの安定化をはかります。また、量販店との連携によりインショップ取扱い拡大に取組みます。

宅地等供給事業

J Aの総合力を発揮した初期情報獲得運動や土地活用・家造り推進運動を実施し、組合員の土地活用に必要な情報提供や支援等を行ってまいります。

保管事業

米麦等の集約保管による効率的運営と集荷率向上につとめ、品質保持と事故防止に万全を期し安全・安心な農産物の保管管理等の徹底につとめます。

利用事業

それぞれの施設機能を最大限に活用し、農産物の有利販売につとめるとともに、円滑な施設運営に取組みます。

農産物直売所事業

生産者の所得向上のため、コロナ禍で増加した直売所利用客のリピート率向上をめざし、タイムサービス等の取組みや安全・安心な地場農産物を中心とした品揃え、イベント等の開催、また学校給食の取組み強化を行い、より良い店舗づくりにつとめます。

福祉事業

高齢者生活支援として、組合員高齢者やその家族などを対象に介護予防・認知症対策に取り組めます。

3 . 経営管理体制

◇経営執行体制

当J Aは農業者により組織された協同組織であり、正組合員の代表者で構成される「総代会」の決定事項を踏まえ、総代会において選出された理事により構成される「理事会」が業務執行を行なっています。また、総代会で選任された監事が理事会の決定や理事の業務執行全般の監査を行なっています。

組合の業務執行を行う理事には、組合員の各層の意思反映を行うため、女性部などから理事の登用を行なっています。また、信用事業については専任担当の理事を置くとともに、農業協同組合法第30条に規定する常勤監事及び員外監事を設置し、ガバナンスの強化をはかっています。

J A 南彩と地域社会

J A 南彩は、さいたま市岩槻区、春日部市（旧庄和町除く）、蓮田市、宮代町、白岡市、久喜市（旧栗橋町、旧鷲宮町を除く）を区域として、農業者を中心とした地域住民の方々が組合員となって、相互扶助（お互いに助け合い、お互いに発展していくこと）を共通の理念として運営される協同組織であり、地域農業の活性化に資する金融機関です。

当JAでは、皆様からお預かりした大切な財産である「貯金」を源泉として、資金を必要とする組合員の皆様方や、地方公共団体などにもご利用いただいております。

当JAは、地域の一員として、農業の発展と健康で豊かな地域社会の実現に向けて、事業活動を展開しています。

当JAは、組合員の皆様や地域のお客様の着実な資産づくりのお手伝いをさせていただきます。

組合員の皆様・地域のお客様
541,496人
 うち組合員数:28,637人

※JAにおける「組合員」とは？

地区内にお住まいや勤務の方は組合員になる資格があります。また、組合員以外のお客様へも一定の範囲内でJAのサービスをご利用頂けますので、お気軽にお声掛けください。

地域からの資金調達の状況

当JAでは、お客様のニーズにお応えするため、懸賞品付定期貯金や公的年金お受取りの方を対象とした優遇金利定期貯金など特徴ある商品をご用意していますが、今後も新商品の開発やサービスの一層の充実に向けて努力してまいります。

貯金・積金残高

281,419 百万円

出 資 金
 2,880百万円
 貯 金・積 金
 281,419百万円

地域への資金供給の状況 (貸出金に関する事項)

お客様からお預かりした大切な貯金積金を、資金を必要とされている組合員、地域にお住まいの方や事業者の方々へ資金を適正に供給し、農業や地域経済の活性化に寄与しています。

貸出金残高

64,413 百万円

(単位:百万円)

組 合 員 61,525
 地 公 体 等 2,634
 そ の 他 253

*制度融資の実績

農業近代化資金 12,444万円

*農業支援融資商品

営農ローンetc.

*個人向けローン、事業者向け融資についても各種ご用意しています。

文化的・社会的貢献に関する事項 (地域との繋がり)

(1)「地域との共生」を基本理念に小さな活動から合言葉に、福祉、スポーツや地域活動等の活動を通じて文化的・社会的貢献活動を展開しています。

(2)利用者ネットワークとして、各種友の会や部会を設置し、さまざまな活動を展開しています。

※(1)、(2)とも詳細は「トピックス・地域社会貢献活動」に掲載していますのでご覧ください。

(3)JAだより等の広報誌やホームページを通じて情報は供与您意見を承っていますのでご利用ください。

<http://www.ja-nansai.or.jp/>

J A 南 彩

常勤役員職員313名
 店舗数16店
 ATM設置台数26台
 経済センター5店舗等

貸 出 金

支 援 サ ー ビ ス

営 農 支 援

貸出金以外の運用に関する事項

安全性と流動性を重視した安定収益のためJA県信連預金や国債等の有価証券で運用しています。

JA県信連等預金残高 200,048 百万円
 有 価 証 券 残 高 16,140 百万円

組 合 員 の 皆 様 ・ 地 域 の お 客 様

※計数は、令和4年3月末現在です。なお、記載金額は、単位未満を切り捨てて表示しています。

※記載内容、商品についてご質問がございましたら、お気軽にお声掛けください。

農業振興活動

農業者の所得増大・農業生産の拡大に向けた取組み

J A南彩は、「農業者の所得増大」や「農業生産の拡大」を達成するため、増加している加工・業務用需要を取り込むべく、外食・中食業界に対する直接販売に取り組んでいます。また、生産資材価格の引き下げを実現するため、競合するホームセンター等の商品の価格・品質を把握し、同等の商品でJ Aの取扱価格が高い場合は、仕入先との協議等を行い、弾力的に価格・手数料設定を見直し、生産資材価格の引き下げに取り組めます。

農業の担い手育成に向けた取組み

J A南彩は、「新たな食料・農業・農村基本計画」（令和2年3月閣議決定）を踏まえ、将来の農業の持続的発展に向けて、農業担い手育成に、積極的に取り組んでいます。

また、農業担い手を金融面から支援するため、「担い手金融リーダー」の設置等、担い手金融機能強化に取り組めます。

地域社会貢献活動

社会的責任や社会的貢献に対する考え方

J A南彩は、貯金や融資等の信用事業から共済事業、購買事業、販売事業、指導事業、資産管理事業、営農・生活・相談事業、福祉事業など、各種事業の展開を通じて、組合員の皆様への奉仕はもとより、地域の皆様に様々な事業機能やサービスを提供することにより、農業や地域経済社会の健全な発展に寄与することで社会的・公共的使命を果たしてまいります。

当J Aは、2017年3月に金融庁より公表された「顧客本位の業務運営に関する原則」を採択するとともに組合員・利用者の皆様への安定的な資産形成に貢献するため、以下の取組み方針を策定いたしました。

1. お客様への最適な商品提供
2. お客様本位のご提案と情報提供
3. 利益相反の適切な管理
4. お客様本位の業務運営を実現するための人材の育成と態勢の構築

また、当J Aは、地域社会の一員としての責任を自覚し、地域の各種行事や催事等への参画やJ Aの社会・文化的活動を通じて、少しでも地域社会の発展や活性化のお役に立ちたいと思っています。

今後とも協同組合運動の理念である「一人は万人のために、万人は一人のために」を念頭におき、より良き地域社会人として、組合員の皆様をはじめ地域社会の皆様と一緒に歩んでいきたいと思っています。

リスク管理の状況

1. リスク管理の基本的な考え方

経済・金融の各種商品やシステムの複雑化と高度化が一段と進展し、IT技術の進歩が社会に大きな変革をもたらすようになった今日、JAを取り巻く経営環境は急速に変化しています。また、規制緩和の進展により、業態を超えた提携や異業種からの金融業務参入など、競争がますます厳しさを増しています。そのため、JAが抱えるリスクはかつてないほど大きく幅広いものとなっています。

JAが抱えるリスクには、信用リスクや市場リスクのように経営環境によるリスクと、事務リスクや情報資産リスクなどのように業務活動に伴い必然的に発生するリスクとがあります。JAは、とるべきリスクと回避すべきリスクとを的確に見極めて、安定的な経営を確保する必要があります。

当JAでは、JAバンクの基本方針に基づく「モニタリング」の実施や「各種のガイドライン」等を定めて内部統制を強化しています。

また、これらのリスクを総合的に管理、コントロールすべく、経営層をメンバーにした各種の委員会・会議等で組織横断的な協議ができるリスク管理体制としています。

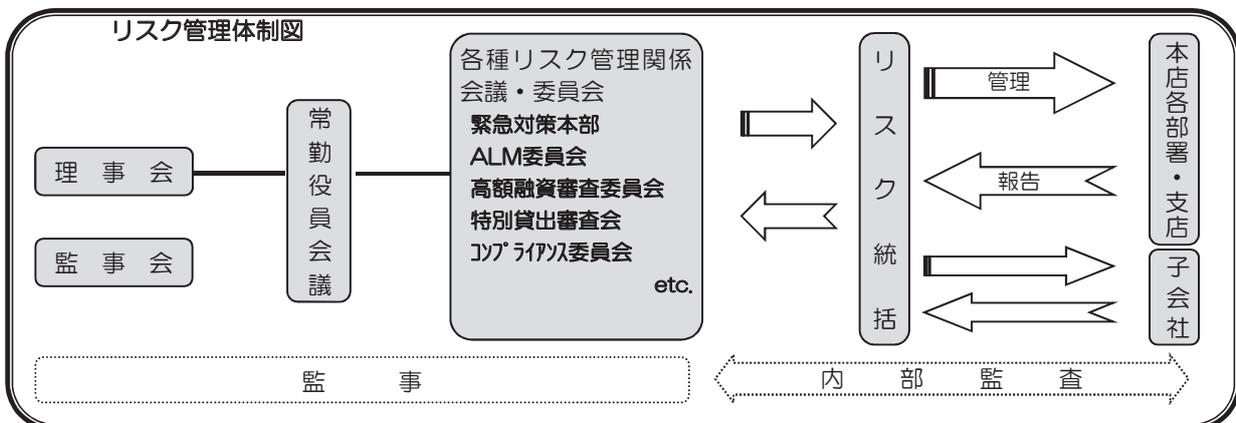
このように、当JAをご利用する皆様が安心してお付き合いいただけるJAをめざして日々リスク管理態勢の向上につとめております。

リスク管理体制

当JAでは、各種委員会・会議等でリスクの状況を検証するとともに、リスク管理・運営に関する方針を審議し、理事会で決定しています。

また、信用リスク管理の充実をはかるためのリスク管理課を設置し、オペレーショナルリスクへの対応強化をはかっております。

一方、当JA南彩グループ全体のリスク管理の基本的な方針は、当JAが決定し、子会社はその基本方針に則り、それぞれの管理体制を整備してリスク管理を行っています。



● 信用リスク管理 (信用リスク：与信取引先の財務状況悪化等により損失を被るリスク)

当JAでは、資産の健全性を維持・向上させ、組合員・地域の皆様方に積極的な事業運営をしていくことを最重要課題としています。規程に基づく自己査定制度を根幹に、融資（推進）と審査とを分離した個別案件の審査・与信管理により牽制が働く体制としています。また、貸出資産全体からのポートフ

オリオ管理を行い、信用リスクが集中しないよう適切な管理を行っています。さらに、経営陣を含めた高額融資審査委員会・特別貸出審査会を開催して重要案件を審議しています。

この審査体制を支える人材の育成については、融資・審査業務の専門家の育成とともに、職位に応じた実践的な教育研修プログラムを実施し、体制の強化につとめています。

● 市場リスク管理（市場リスク：金利、株価等の変動により損失を被るリスク）

当JAでは、このリスクに対しては、運用方針と資金バランスの適切な把握が最も重要であると考えています。よって、運用は、安全性と流動性を重視し、金利変動のヘッジ及び安定収益を確保するための資金ポートフォリオの構築という基本方針や取引極度を経営陣により決定し、定期的報告を実施するとともに、経営陣を含めたALM委員会等では、運用・調達構造の点検をして財務内容の安定につとめています。

また、運用においては、取引執行部門と事務・オペレーション部門とを分離し、牽制が効果的に働く体制を構築しています。

● オペレーショナルリスク管理

（オペレーショナルリスク：内部管理上の問題や外部要因により損失が発生するリスク）

当JAでは、オペレーショナルリスクを、流動性リスク、事務リスク、情報資産リスク、人事労務・不正に係るリスク、法務・コンプライアンスリスクに係るリスク、災害に伴うリスク、評判リスクなどを含む幅広いリスクであるとともに、このリスク管理がお取引いただく皆様との日々の信頼関係を築く上で最も基本となるものと考えております。

当JAでは、このリスクを適切に認識・コントロールする体制の整備・充実に積極的に取り組んでおります。

○ 流動性リスク管理：流動性リスクとは、財務内容の悪化などにより資金繰りがつかなくなるリスクです。当JAでは、資金調達の構成や資金の流動性をALM委員会で点検し、適正な資金流動性を確保しています。また、系統JAグループ全体で対応する体制も整えています。

○ 事務リスク管理：事務リスクとは、役職員の誤った事務処理や不正などにより損失を被るリスクです。当JAでは、貯金、為替、貸出などの金融業務に加え、共済業務や経済業務まで多種多様な業務について、手続・権限の厳格化、機械化による手作業事務処理の削減、現金・現物の管理体制の強化、事務事故のデータベース化、内部監査、事務指導の充実をはかり事務リスクの削減につとめています。

発生した事務事故などは、当JAの全業務部署で共有し、再発防止をはかっています。

○ 情報資産リスク管理：情報資産リスクとは、システム障害や情報漏洩などにより損失を被るリスクです。当JAでは、系統JAグループの全国システムにいち早く移行するとともに、重要なシステム導入に当たっては経営陣を含む特別委員会を設置するなどしてテスト経過などを慎重に検討しています。万一システム障害が発生した場合の影響を極小化するため、インフラの二重化や障害時対応訓練等の実施など必要な対策を講じています。

取引先の情報や個人情報については、情報保護のため、システムへの不正侵入の防止策を講じるとともに、情報の機密性に応じた管理を行っています。

発生したシステム障害や情報漏洩などは、当JAの全業務部署で共有し、再発防止をはかっています。

2. コンプライアンス（法令等遵守）態勢

「コンプライアンス」とは、一般的に「法令等遵守」と解釈され、JAが日常業務を遂行する上で関わってくる数多くの法令・規則等を遵守することはもちろんのこと社会的規範を全うし正しく行動することです。

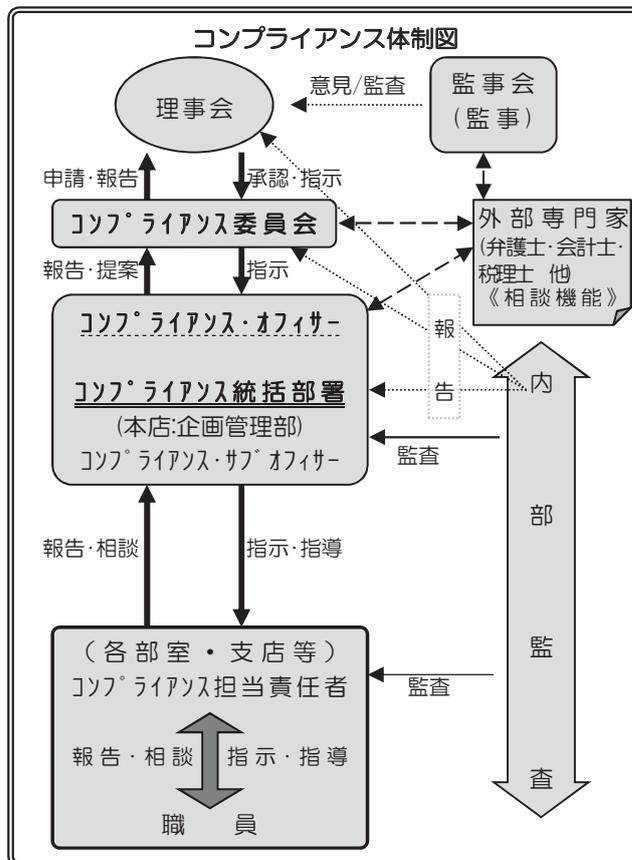
地域金融機関であり、農業者・組合員の相互扶助組織であるJAは、農業、地域経済・社会の健全な発展に寄与する使命を持っていることから、より高い公共性と社会的責任が求められています。

当JAでは、代表理事組合長以下役職員全員が日々の業務活動の中で「コンプライアンス」を着実に実践していくことが、組合員や地域社会から「信頼」される基本であると考え、経営の最重要課題と位置づけ取り組んでいます。

コンプライアンス体制と運営

当JAでは、コンプライアンス統括部署を企画管理部として、経営陣を含むコンプライアンス委員会を設置するとともに、すべての部課室、支店等にコンプライアンス担当責任者を設置し、コンプライアンスの啓発活動や遵守状況のモニタリングや自店検査等を行っています。

年度ごとにコンプライアンス委員会で策定した「コンプライアンス・プログラム」を理事会で決定し、コンプライアンスの実践に取り組んでいます。また、コンプライアンスの組織風土を役職員一人ひとりに浸透させることが重要であることから、コンプライアンス委員会は、「コンプライアンス・マニュアル」を策定し、全職員にこれを配布し周知させるよう各種会議や研修会等の機会を利用して指導しています。さらに、経営者自らも率先垂範してこの実践と指導に当たっています。



3. 金融ADR制度への対応

① 苦情処理措置の内容

当JAでは、苦情処理措置として、業務運営体制・内部規則等を整備のうえ、その内容をホームページ・チラシ等で公表するとともに、JAバンク相談所やJA共済連とも連携し、迅速かつ適切な対応につとめ、苦情等の解決をはかります。

当JAの苦情等受付窓口（電話：048-720-8053 月～金 午前9時～午後5時）

② 紛争解決措置の内容

当JAでは、紛争解決措置として、次の外部機関を利用しています。

- ・信用事業
埼玉弁護士会示談あっせん・仲裁センター

①の窓口または一般社団法人JAバンク相談所（電話：03-6837-1359）にお申し出ください。

・共済事業

一般社団法人 日本共済協会 共済相談所（電話：03-5368-5757）

<https://www.jcia.or.jp/advisory/index.html>

一般財団法人 自賠償保険・共済紛争処理機構

<http://www.jibai-adr.or.jp/>

公益財団法人 日弁連交通事故相談センター

<http://www.n-tacc.or.jp/>

公益財団法人 交通事故紛争処理センター

<http://www.jcstad.or.jp/>

日本弁護士連合会 弁護士保険ADR

<https://www.nichibenren.or.jp/activity/resolution/lac.html>

各機関の連絡先(住所・電話番号)につきましては、上記ホームページをご覧くださいか、①の窓口にお問い合わせ下さい。

4. 内部監査

内部監査は、経営目的を達成するための内部管理体制の適切性や有効性を、業務部門から独立した部門が検証し、必要に応じて問題点の改善・是正に関する提言を行うプロセスです。

当JAでは、法令等を遵守し、適切なリスク管理体制を整備するうえで、内部監査機能の整備が必要不可欠との認識のもと、監査室を設置し、リスクの種類・程度に応じた監査計画に基づき、効率的かつ実効性のある内部監査の実現につとめています。

また、JA南彩では、同監査室による子会社についても計画的に内部監査を実施し、グループ全体の健全性確保に向けた取組みを行っています。

自己資本の状況

自己資本比率の状況

当JAでは、多様化するリスクに対応するとともに、組合員や利用者のニーズに応えるため、財務基盤の強化を経営の重要課題として取り組んでいます。内部留保につとめるとともに、不良債権処理及び業務の効率化等に取り組んだ結果、令和4年3月末における自己資本比率は、13.70%となりました。

当JAは、「自己資本比率算出要領」を制定し、適正なプロセスにより正確な自己資本比率を算出して、当JAが抱える信用リスクやオペレーショナル・リスクの管理及びこれらのリスクに対応した十分な自己資本の維持をはかるとともに、内部留保の積み増しにより自己資本の充実につとめています。

令和3年度末の出資金額は、28億80百万円となっています。

(注) 以下で使用している用語については、64ページの「自己資本比率の算定に関する用語解説一覧」をご参照下さい。

経営の健全性の確保と自己資本の充実

当JAの自己資本は、組合員の普通出資によっています。

- 資本調達手段の種類 普通出資
コア資本に係る基礎項目に算入した額 2,880,076千円 (前年度2,845,715千円)
(令和4年3月31日 現在)

トピックス



〈秋の稲刈り体験〉

JA南彩では農業体験を通じて食料の大切さと農作業の大変さを学ぶことに協力しています。今年も各地区の小学校で自分たちが田植えをした稲を刈り取りました。児童たちは普段できない農業体験を楽しんでいました。

〈米価下落による生産者への支援を要望〉

令和3年産米は、大幅な価格下落となったことから菊池組合長、各地区代表理事が、各自治体を訪問し米生産者に対する支援についての要望書を手渡しました。今後もJAとして生産者の一助となるよう積極的に取り組みます。



〈農産物で社会貢献〉

12月3日本店会議室で県が進める学習支援事業、困窮世帯の子どもたちへの学習・生活支援教室のアポート事業への贈呈式が行われお米等を寄贈しました。生活困難にある子供や家庭の食支援を行い応援する活動を通じて社会貢献に取り組んでいます。



〈横断旗を寄贈〉

子供たちが安全に登下校できるように願いを込めて、さいたま市と久喜市へ、学童用横断旗を300本、保護者用横断旗240本、合計540本をそれぞれの市役所で贈呈しました。今後もJAとして地域社会に貢献していきます。



【資料編】

	ページ
組合に関する状況	15
地区・役員・組合員数・職員数・組織図	
組合員組織等	
主な業務内容	19
JA南彩の事業・業務のご案内	
業績・財務関係の状況（単体）	28
業績の概要	
主要な経営指標等の推移	29
財務諸表	30
貸借対照表	
損益計算書	
注記表等	
剰余金処分計算書	
各種事業の状況	41
信用事業の状況	
農協法に基づく開示債権の状況及び	
金融再生法開示債権区分に基づく債権の保全状況	
共済事業の状況	
購買事業の状況	
販売事業の状況	
その他事業の状況	
経営諸指標	54
自己資本比率の充実の状況	55
業績・財務関係の状況（連結）	65
連結子会社の概況	
組織図・役員	
業績の概要及び連結決算の収支状況	
主要な経営指標等の推移	66
連結財務諸表	67
連結貸借対照表	
連結損益計算書	
連結注記表等	
連結剰余金処分計算書	
農協法に基づく開示債権	
事業別経常収益等	
連結自己資本比率	

組合に関する状況

地区

当JAの営業地区は、さいたま市岩槻区、春日部市（旧庄和町を除く）、蓮田市、宮代町、白岡市、久喜市（旧栗橋町、旧鷲宮町を除く）です。

役員（令和4年4月1日現在）

組合長	菊池義雄	理事	榎本孝	代表	高崎光英
常務理事	井上薫	理事	小島義男	常勤	木村光之
常務理事	小林守典	理事	荒井博	監	関根文昭
常務理事	松岡昌典	理事	高橋俊	監	杉崎國史
理事	杉崎兼資	理事	戸田俊夫	監	折原史年
理事	高橋博隆	理事	藤沼秀仁	監	川鍋優信
理事	田中隆美	理事	渡邊守男	外監	矢作俊
理事	橋本真砂	理事	鈴木守男		
理事	関根正一	理事	木村豊博		
理事	関根耕太郎	理事	岸博		
理事	石塚郁志	理事	金子喜雄		
理事	瀬尾富士夫	理事	関根さと子		
理事	小川利雄	理事	矢部啓子		
理事	常見淳	理事	岸幸子		
理事	吉岡政広	理事	濱野力		
理事	石井正孝				

※ 当JAでは、農協法第30条の2による「経営管理委員」制度は採用していません。

会計監査人の名称（令和4年4月現在）

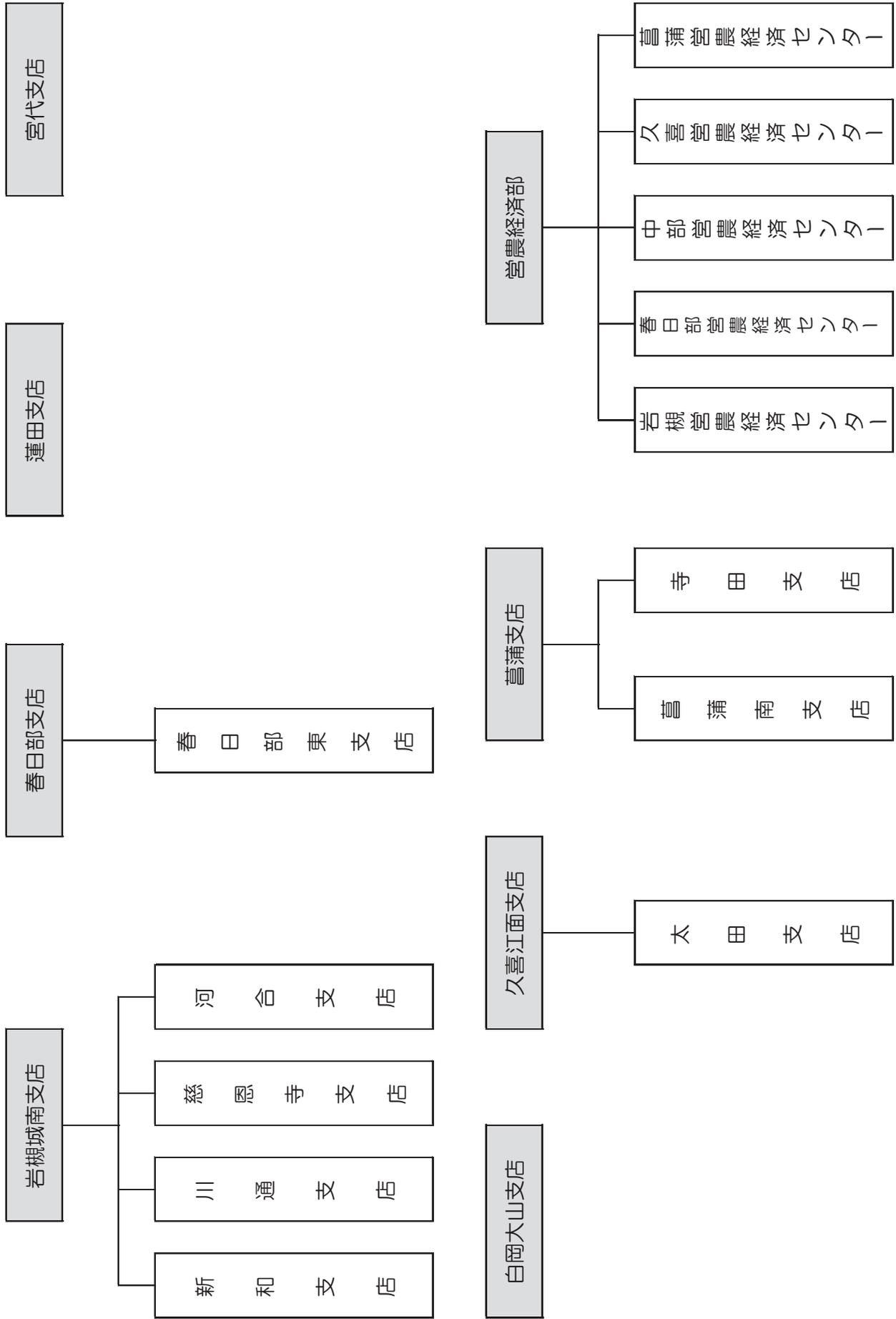
当JAの会計監査人は、みのり監査法人であり、所在地は東京都港区芝5-29-11です。業務執行社員は公認会計士 福島英樹氏及び公認会計士 岡田正治氏です。

組合員数

区分	令和3年3月期	令和4年3月期
正組合員	9,515	9,376
うち個人	9,493	9,354
うち法人	22	22
准組合員	19,234	19,261
うち個人	19,181	19,205
うち法人	53	56
合計	28,749	28,637

職員の状況

区分	令和3年3月期			令和4年3月期		
	男子	女子	計	男子	女子	計
一般職員	204	99	303	191	99	290
営農指導員	17	1	18	17	1	18
生活指導員	—	—	—	—	—	—
その他の職員	24	64	88	20	56	76
合計	245	164	409	228	156	384



組合員組織等

管内名	組織名	組織数	構成員数
岩 槻	農家組合	73	1,497
	いわつき農業団体連合会	1	119
春日部	農家組合	95	1,541
	春日部園芸部	1	31
蓮 田	農家組合	56	1,020
	果実連合会	1	36
	植木花き生産組合	1	14
	酪農組合	1	4
	黒浜野菜共販連絡協議会	1	16
宮 代	農家組合	39	757
	稲作研究会	1	15
白 岡	農家組合	63	1,123
	蔬菜部会	1	7
	白岡市梨出荷連合会	1	50
	青色申告会	1	27
久 喜	農家組合	69	1,078
	梨組合	1	25
	胡瓜組合	1	3
	ライスセンター利用組合	21	193
	営農集団連絡協議会	8	98
菖 蒲	農家組合	81	1,529
	苺組合	8	32
	梨出荷組合	13	45
	胡瓜出荷組合	6	23
	茄子出荷組合	2	5

全管内	組織名	組織数	構成員数
	J A南彩農産物直売所連絡会議	4	495
	青年部	1	87
	女性部	7	452
	特別栽培米生産者の会	1	40
	苺共販部会	1	32
	青パパイヤ研究会	1	115
担い手育成 支援組織	駒崎転作組合	1	61
	太田新井営農組合	1	3
	久喜地区営農組合	1	43
J A友の会組織	年金友の会	1	17,058
	共済友の会	7	1,575
	組合員ふれあいゴルフ会	7	802
	資産管理友の会	5	209

当JAの組合員組織を記載しています。

主な事業の内容

JA南彩は、組合員の皆様をはじめ地域社会の皆様が、「気軽に、ご利用できる」をモットーに、暮らしに役立つさまざまな事業を展開しております。当JAが行う主な事業について、ご案内いたします。

《 JA南彩の事業・業務のご案内 》

信用事業

信用事業は、貯金、融資、為替などいわゆる銀行業務といわれる業務を行っております。

私どもは、組合員皆様と地域の皆様に信頼されるサービスのご提供と、期待や信頼にお応えする地域金融機関を目指し、「JAバンク」と称しております。

このJAバンクは、JA・県信連・農林中金という三段階の組織が有機的に結びつき、JAバンクグループとして大きな力を発揮しています。

さらに、平成14年1月に策定された「JAバンク基本方針」により、破綻未然防止についても磐石な態勢が整っています。また、JAバンクグループは、独自の「破綻未然防止システム」と公的制度である「貯金保険制度」により「JAバンク・セーフティーネット」を構築しています。これにより、組合員・利用者の皆様により一層の安心をお届けしています。

貯金業務

組合員の皆様、地域の皆様や事業主の皆様のライフスタイルに合わせた財産形成や生活設計の資産づくりをお手伝いしております。

当座貯金、普通貯金、総合口座、貯蓄貯金、通知貯金、定期貯金、定期積金、納税準備貯金などの各種貯金を、目的・期間・金額に合わせてご利用いただいております。

【貯金商品一覧】

種類	特 色	期 間	お預入金額	
当座貯金	日常の商取引に手形・小切手をご使用いただく貯金です。効率的な資金管理に最適です。	出し入れ自由	1円以上	
納税準備貯金	税金納付資金専用の貯金です。日頃から準備をしておくことで納税時にあわてないで済みます。利息は非課税です。	引き出しは納税時入金日同時	1円以上	
普通貯金	いつでもお出し入れのできる、いわば毎日のお財布や家計簿がわりにご利用いただけます。また、貯金保険制度により全額保護される普通貯金無利息型（決済用）も取扱っております。	出し入れ自由	1円以上	
貯蓄貯金	普通貯金と同じように出し入れができるうえ、お預入残高に応じて、適用金利が段階的に高くなります。（金利情勢などにより、各段階の金利が同じになる場合もございます。）お使いみちの決まっていない資金の運用に最適です。	出し入れ自由	1円以上	
総合口座	普通	普通貯金と定期貯金を一冊にしたものです。預ける、貯める、支払う、受取る、借りる、がこの一冊の通帳でOKです。	出し入れ自由	1円以上
	定期	いざという時、自動融資（定期貯金の90%、最高200万円）が受けられます。（スーパー/大口/変動金利/期日指定定期の受入れ可）	自動継続扱い（1ヶ月～5年）	（ス/変/期） 1円以上 （大）1千万円以上
定期貯金	通知貯金	まとまったお金を短期間預けるのに有利な貯金です。お引き出しは2日前までにご連絡をいただくことになっています。	7日間以上	50,000円以上
	期日指定定期貯金	利息の計算は1年複利で、大変お得です。3年にわたり預け入れができ、長期の運用が可能です。	最長3年	1円以上 3百万円未満

	スーパー定期貯金	一番身近な自由金利(お預入れ時の金融情勢で金利が決まる)商品です。3年・4年・5年もののお利息は、半年複利です。	1か月～5年	1円以上
	変動金利定期貯金	6ヶ月ごとのサイクルで利率が見直しされる変動金利商品です。3年もののお利息は、半年複利です。	1年～3年	1円以上
	大口定期貯金	まとまった資金の運用に最適です。金利は、お預入れ時の金融情勢に応じて決まります。	1か月～5年	1千万円以上
財形貯金	一般財形貯金	毎月のお給料や賞与から積立ご希望額を天引き貯金で、知らず知らずのうちに大きく貯まる貯金です。	3年以上	1円以上
	財形年金貯金	豊かな老後の生活設計にご活用いただける年金タイプの財形貯金です。(財形住宅貯金と合わせ、550万円まで非課税です。)	5年以上	1円以上
	財形住宅貯金	マイホーム取得・増改築を目的とした財形貯金です。マイホームプランに合わせ積立額、期間が決まります。(財形年金貯金と合わせ、550万円まで非課税です。)	5年以上	1円以上
	定期積金	みなさまの計画に合わせて、毎月決まった日に一定の掛金で無理のないペースで積立てられます。	6か月～5年	1,000円以上
	積立定期貯金	エンドレス型、満期型、年金型の3種類があります。	種類によって分かります	1円以上
	譲渡性貯金	大口の余剰資金を有利に運用できる自由金利商品で、満期日前に第三者に譲渡することができます。	7日～5年	1千万円以上 1円単位
	JA教育資金贈与専用口座	教育資金非課税措置の適用を受けるための普通貯金専用口座です。教育資金を受贈した30歳未満の個人の方が対象になります。	貯金者が30歳に達した日等、一定の要件に該当した日まで (口座開設・新規預入は令和5年3月31日まで)	1円以上 1,500万円以下
	JA結婚・子育て資金贈与専用口座	結婚・子育て資金非課税措置の適用を受けるための普通貯金専用口座です。結婚・子育て資金を受贈した20歳以上50歳未満の個人の方が対象になります。	貯金者が50歳に達した日等、一定の要件に該当した日まで (口座開設・新規預入は令和5年3月31日まで)	1円以上 1,000万円以下
	成年後見支援貯金専用口座	個人のお客様で、家庭裁判所から成年後見支援貯金の口座開設に係る「指示書」の発行を受けた方が利用できます。口座開設店窓口でのみ、お預入れ・お引き出しができます。	家庭裁判所からの指示書に基づき取り扱うものとします。	家庭裁判所からの指示書に基づき取り扱うものとします。

【ご契約にあたって】

※ 貯金商品の種類により、金利は異なります。金利は、窓口に掲示してありますのでご確認ください。

※ 新規の口座を開設する場合、200万円を超える現金取引、10万円を超える現金での振込みを行う場合など、犯罪収益移転防止法に基づき取引時確認をさせていただきますので、運転免許証等本人確認書類の提示が必要となります。

- 〈便利さ〉を生かした通帳……………総合口座・普通貯金
- 有利に大きくふやす……………定期貯金・積立定期貯金
- くらしの夢を育てる……………定期積金
- 明日への財産づくりに……………財形貯金

融 資 業 務

農業専門金融機関として、農業の振興をはかるための農業関連資金はもとより、組合員の皆様の生活を豊かにするための生活改善資金等を融資しています。

また、地域金融機関の役割として、地域住民の皆様の暮らしに必要な資金や、地方公共団体、農業関連産業・地元企業等、農業以外の事業へも必要な資金を貸し出し、農業の振興はもとより、地域社会の発展のために貢献しています。

さらに、株式会社日本政策金融公庫をはじめとする政府系金融機関等の代理貸付、個人向けローンも取扱っています。

【ローン商品一覧】

ローン名	ご利用いただける方	使いみち	ご融資額	ご融資期間	ご返済方法	担保・保証
JA 住宅ローン (JAリフォームローン)	一定かつ安定した収入のある満20歳以上満66歳未満の方(完済時満80歳未満)	住宅の新築、購入、増改築、宅地の購入、住宅資金の借換 (リフォームは、住宅の増改築資金)	1億円以内 (リフォームは、1,000万円以内) (1万円単位)	3年～40年 (リフォームは、1年～15年)	・元金均等返済(住宅ローン) ・元金均等返済ボーナス併用(住宅ローン) ・元利均等毎月返済 ・元利均等毎月返済ボーナス併用	・抵当権の設定(リフォームは原則、抵当権の設定は不要) ・基金協会保証(団信付保)
JA 小口ローン	一定かつ安定した収入のある満18歳以上満75歳未満の方(完済時満80歳未満) (満20歳未満は農業者、給与所得者の方に限ります)	生活に必要な資金で使いみちは自由 (負債整理資金・事業資金は除きます)	10万円以上 500万円以内 (1万円単位)	6ヶ月～10年	・元利均等毎月返済 ・元利均等毎月返済ボーナス併用	・基金協会保証(希望により団信付保可)
JA 教育ローン	一定かつ安定した収入のある満20歳以上の方(完済時満71歳未満)	高校、各種学校、短大、大学の入学金、授業料など一切の教育資金	10万円以上 1,000万円以内 (1万円単位)	6ヶ月～15年以内	・元利均等毎月返済 ・元利均等毎月返済ボーナス併用	・基金協会保証(希望により団信付保可)
JA マイカーローン	一定かつ安定した収入のある満18歳以上満75歳未満の方(完済時満80歳未満) (20歳未満は農業者、給与所得者の方に限ります)	自動車・バイクの購入、点検、修理、車検、免許の取得、カー用品購入、車庫建設資金(100万円まで) 自動車ローン借換に必要な資金	10万円以上 1,000万円以内 (1万円単位)	6ヶ月～10年 (他金融機関の自動車ローン借換資金の場合は残存期間以内)	・元利均等毎月返済 ・元利均等毎月返済ボーナス併用	・基金協会保証(希望により団信付保可)
JA ワイドカードローン (50万円以下)	一定かつ安定した収入のある満20歳以上満70歳未満の方	生活に必要な資金	極度額 50万円以内 (10万円単位)	1年(自動更新) (満70歳の誕生日以降は契約の更新は行わない)	・定額予約定返済 ・任意返済	・基金協会保証
JA ワイドカードローン (50万円超)	一定かつ安定した収入のある満20歳以上満65歳未満の方	生活に必要な資金	極度額 500万円以内 (10万円単位) (農業経営者以外の方は極度額300万円以内)	1年(自動更新) (満65歳の誕生日以降は契約の更新は行わない)	・定額予約定返済 ・任意返済	・基金協会保証
JA 農機ハウスローン	【個人】一定かつ安定した収入のある満18歳以上の方(完済時満80歳未満) 【法人等】直近決算で繰越欠損のない法人・任意団体	農機具の購入、修理等の資金及びパイプハウス資材、建設費並びに他金融機関の農機具ローン借換資金	10万円以上 3,600万円以内 (所用資金の範囲内) (1万円単位)	1年～15年 (他金融機関の農機具ローン借換資金の場合は残存期間以内)	・元金均等毎月返済 ・元金均等年1回・年2回返済 ・元金均等毎月返済ボーナス併用 ・元利均等毎月返済 ・元利均等年1回・年2回返済 ・元利均等毎月返済ボーナス併用	・基金協会保証(希望により団信付保可)
JA 営農ローン	一定かつ安定した収入のある満20歳以上満79歳未満の方	農業生産に必要な営農資金	極度額 300万円以内 (100万円単位)	1年(自動更新) (満79歳の誕生日以降は契約の更新は行わない)	入金された資金を自動的に貸越金に充てます。	・基金協会保証
担い手 応援ローン	【個人】一定かつ安定した収入のある満20歳以上満79歳未満の方 【法人】直近決算で繰越欠損のない法人	【個人】農業生産に直結する運転資金 【法人】農業経営に必要な運転資金	極度額 1,000万円以内 (100万円単位)	1年(自動更新) (満79歳の誕生日以降は契約の更新は行わない)	入金された資金を自動的に貸越金に充てます。	・基金協会保証(借入額500万円超は抵当権を設定)
アグリ スーパー資金	【個人】一定かつ安定した収入のある満20歳以上満79歳未満の方 【法人等】直近決算で繰越欠損のない法人・任意団体	【個人】農業生産に直結する運転資金 【法人等】農業経営に必要な運転資金	過去の生産実績に基づき支払われる交付金相当額及び販売代金相当額のうち、口座入金される金額の範囲内 (10万円単位)	1年以内	入金された資金を自動的に貸越金に充てます。	・基金協会保証

ローン名	ご利用いただける方	使いみち	ご融資額	ご融資期間	ご返済方法	担保・保証
アグリ マイティー資金	【個人】一定かつ安定した収入のある満18歳以上の方（完済時満30歳未満） 【法人等】直近決算で繰越欠損のない法人・任意団体	農業生産、あるいは農産物の加工等に必要な設備資金・運転資金 再生可能エネルギー利用の取組に必要な設備取得等資金	10万円以上 3,600万円以内 (1万円単位) *法人等の場合は10万円以上 7,200万円以内 *再生可能エネルギー利用に係る資金の場合は5,000万円以内	20年以内	・元金均等毎月返済 ・元金均等年1回・年2回返済 ・元金均等毎月返済ボーナス併用 ・元利均等毎月返済 ・元利均等年1回・年2回返済 ・元利均等毎月返済ボーナス併用	・基金協会保証 *必要に応じ担保を設定
JA 事業者ローン	一定かつ安定した収入のある満20歳以上の方（完済時満71歳未満）	組合員の事業に必要な設備資金・運転資金	10万円以上 1,000万円以内 (運転資金は、500万円以内) (10万円単位)	1年～10年 (運転資金は、1年～5年)	・元金均等毎月返済 ・元利均等毎月返済	・基金協会保証 *必要に応じ担保を設定
JA 賃貸住宅ローン	一定かつ安定した収入のある満20歳以上の方（完済時満71歳未満）	賃貸住宅の建設、増改築、補修に必要な資金	100万円以上 4億円以内 (10万円単位)	1年～30年	・元金均等毎月返済 ・元利均等毎月返済	・基金協会保証 ・抵当権の設定

- ※ 上記のほか、協同住宅ローン保証、三菱UFJニコス保証、㈱ジャックス保証のローンも取扱っております。
 ※ 各商品ごとに利率、保証料、ご利用限度額などが異なりますのでローンのご利用にあたっては、ご相談ください。

■ つぎの資金についても、ご相談ください。

代理貸付商品名	内 容
(株)日本政策金融公庫	農業者等への長期設備資金、長期運転資金
	高校・短大・大学等へ進学するために必要な資金

- ※ 上記のローンや代理貸付以外の一般融資も行っていますので、事業資金（運転資金、設備投資資金など）がご必要の際はご相談ください。

ローンの上手な利用方法

豊かな生活を送るためには、ローンを上手に利用することも必要です。それには、計画的に無理なく返済できる範囲内でローンをご利用いただくことが肝要です。返済計画は、生活を極端に切り詰めることなく、また病気など不慮の事故も考慮して、余裕のある計画を立てるようにしてください。

内国為替業務

全国のJA・県信連・農林中金の店舗をはじめ、全国の銀行や信用金庫などの各店舗と為替網を結び、当JAから全国の金融機関に対して送金・振込や手形・小切手等の取立てを安全、確実、迅速に処理するサービスを行っております。

その他の業務及びサービス一覧

オンラインシステムを利用した各種の自動受取り・支払いサービスや、事業主の皆様のための給与振込みサービス、自動集金サービス、口座振替サービスなどの取扱いをしております。

また、全国全てのJAバンクでの貯金の出し入れや銀行、信用金庫及びゆうちょ銀行、コンビニエンスストアなどでの現金引き出し（ゆうちょ銀行、セブン銀行、イーネット、ローソン銀行ATMでは預入れも可）ができるキャッシュカードサービスなどさまざまなサービスを行っております。

種 類	内 容
内 国 為 替 業 務	全国の金融機関（JA、銀行、信用金庫、信用組合、労金、ゆうちょ銀行など）をネットする「全銀システム」により送金、振込及び手形小切手の取立を安全、確実に行えます。
国 債 窓 口 販 売 業 務	国債の募集を取扱っています。
投 資 信 託 窓 口 販 売 業 務	各種の投資信託の募集を取扱っています。（口座管理店をご利用できます。）
キャッシュサービス	カード1枚で、貯金の入出金や残高照会など、当JAの本支店をはじめ、全国の提携金融機関やゆうちょ銀行のATMでご利用できるほか、コンビニエンスストア等に設置のATM（セブン銀行、イーネット、ローソン銀行ATM）でもご利用できます。
デビットカードサービス	現在お手持ちのキャッシュカードを利用して、加盟店でのお買い物やサービス料金などのお支払に利用できるサービスです。また、キャッシュアウトサービスに対応する加盟店では、レジ等で現金を引き出すことができるキャッシュアウトサービスがご利用できます。
A T M	キャッシュカードや通帳でのお預入れ、お引出し、通帳記入、残高照会のほか、暗証番号の変更、定期貯金のお預入れ、税金・公共料金等の払込など様々な機能をご利用いただけます。
自動支払・自動受取	毎月の5大公共料金（電気・ガス・水道・電話・NHK）、税金、共済掛金、学費、クレジットカードなどのお支払や、給与、年金などのお受取りを自動的に行う便利で安心なサービスです。
給 与 振 込 サ ー ビ ス	給与・ボーナスを従業員の皆様のご指定される貯金口座に自動的にお振込みいたします。
振 替 サ ー ビ ス	住宅家賃、会費など各種の集金代金を当JA本支店のご指定口座から自動的に収納するサービスです。
J A バ ン ク ア プ リ	キャッシュカードをお持ちの個人のお客さまを対象に、スマートフォンから貯金残高・投資信託残高・入出金明細照会・税金各種料金の払込などをアプリでご利用できるサービスです。
J A ネ ッ ト バ ン ク (個 人 向 け)	インターネットに接続可能なパソコン・スマートフォンで、休日や夜間でも振込・振替や残高照会、入出金明細照会などの各種サービスをご利用いただけます。 また、定期貯金の預入、住宅ローン等の一部繰上返済やPay-easy（ペイジー）による各種料金のお支払いもご利用いただけます。
J A ネ ッ ト バ ン ク (法 人 向 け)	インターネットに接続されているオフィスのパソコンから貯金の残高や入出金明細の照会、振込・振替・税金等の払込のほか、口座振替、総合振込、給与・賞与振込等の複数データを1回の操作でまとめて送信できる、データ伝送サービスもご利用いただけます。
ホ ー ム バ ン キ ン グ フ ァ ー ム バ ン キ ン グ	お客様のパソコンやファクシミリ等から電話回線を通じて、ご登録済の当JA本支店・他金融機関への振込をオンラインで行うほか、残高照会、入出金明細照会などをご利用できるサービスです。
J A デ ー タ 伝 送 サ ー ビ ス (AnserDATEPORT方式)	お客様のパソコンやホストシステムから、総合振込、給与・賞与振込、口座振込などのサービスをご利用いただけます。
定 額 自 動 送 金 サ ー ビ ス	住宅家賃・仕送りなど毎月一定額の振込みをご指定日にお客さまの口座から当JA本支店・他金融機関のご指定口座へ送金いたします。
J A カ ー ド	「Mastercard®」・「VISA」ブランドのクレジットカードに、JA独自のサービスを付加したJAカードの発行や加盟店へのご加入のお取次ぎをいたします。
貸 金 庫	貯金証書、権利書などの重要書類、貴重品など大切な財産を安全に保管いたします。（本店のみ）
署 名 鑑 印 刷 サ ー ビ ス	小切手帳や手形帳を発行する際に署名判を自動印字するサービスです。従来のゴム印による押捺よりも省力化され、不鮮明などの押し損じもなくなります。
年 金 相 談	年金に関するあらゆるご相談をスタッフが無料で承っております。
メ ー ル オ ー ダ ー サ ー ビ ス	Webにより氏名・住所・生年月日等必要事項を入力の上、各種手続きに必要な書類をご請求いただけます。対象取引は口座開設、届出事項変更（住所変更のみ）となります。
遺 言 信 託 代 理 業 務	農中信託銀行の遺言信託代理店として、次世代への財産承継のご相談に対応するため、遺言信託業務、遺産整理業務を取り扱っております。

J A 南 彩 の 金 融 商 品 の 勧 誘 方 針

当組合は、貯金・定期積金、共済その他の金融商品の販売等に係る勧誘にあたっては、次の事項を遵守し、組合員・利用者の皆様に対して適正な勧誘を行います。

1. 組合員・利用者の方々の商品利用目的並びに知識、経験や財産の状況及び意向を考慮のうえ、適切な金融商品の勧誘と情報提供を行います。
2. 組合員・利用者の方々に対し、商品内容や該当商品のリスクの内容など重要な事項を十分に理解していただくようつとめます。
3. 不確実な事項について断定的な判断を示したり、事実でない情報を提供したりするなど、組合員・利用者の方々の誤解を招くような説明は行いません。
4. 電話や訪問による勧誘は、組合員・利用者の方々のご都合に合わせて行うようつとめます。
5. 組合員・利用者の方々に対し、適切な勧誘が行えるよう役職員の研修の充実につとめます。
6. 販売・勧誘に関する組合員・利用者の方々からのご質問やご照会については、適切な対応につとめます。

各種手数料（令和4年4月1日現在）

【為替手数料】

種類	利用区分	当JAの 同一店宛	当JAの 他店宛	県内 系統JA宛	県外 系統JA宛	他金融機関宛	
送金	普通扱(1件につき)	660円					
振 込	窓口	電信 (各1件につき)	無料	440円	660円	660円	880円
		文書 (各1件につき)	無料	220円	440円	440円	660円
	定期 自動送金	電信 (各1件につき)	無料	110円	220円	330円	440円
		文書 (各1件につき)	無料	110円	220円	330円	440円
現金自動化 機器 (ATM各1件につき)	系統 キャッシュカード	無料	110円	220円	220円	440円	
	他行 キャッシュカード	無料	220円	330円	330円	550円	
	インターネット/モバイル/ファーム (各1件につき)	無料	110円	110円	110円	220円	

【手形・小切手取立手数料その他】

種類	種類	手数料
代金 取立	普通扱い	1通につき 660円
	至急扱い	1通につき 880円
その他	送金・振込の組戻料	1件につき 660円
	取立手形の組戻料	1通につき 660円
	不渡手形の返却料	1通につき 660円
	取立手形店頭呈示料	1通につき 660円
(660円を超える経費を要する場合は、その実費)		

【手形・小切手発行手数料】

種類	種類	手数料
小切手帳	1冊50枚綴り	660円
約束手形帳	1冊25枚綴り	550円
為替手形	(1枚)	33円
マル専手形	(1枚)	550円
マル専当座開設手数料		3,300円

【署名鑑印刷サービス】

種類	種類	手数料
署名鑑登録手数料(手形・小切手)		1,100円
署名鑑変更手数料(手形・小切手)		550円
小切手帳	1冊50枚綴り(署名鑑あり)	770円
約束手形帳	1冊25枚綴り(署名鑑あり)	660円
為替手形	(1枚)(署名鑑あり)	44円

【未利用口座管理手数料(年額)】

種類	種類	手数料
未利用口座管理手数料(年額)		1,320円

【貸金庫使用料(年額)】

種類	種類	手数料
第1種	(56mm×254mm×562mm未満)	7,920円
第2種	(75mm×254mm×562mm未満)	13,860円
第3種	(150mm×254mm×562mm未満)	17,820円
第4種	(200mm×254mm×562mm未満)	19,800円

【円貨両替(窓口)】

手数料	希望金額の合計枚数			
	100枚まで	101枚～ 500枚まで	501～ 1,000枚まで	1,001枚～ 1,500枚まで
手数料	無料	330円	440円	660円

※記念硬貨への両替、汚損した現金の交換は、無料
※上記枚数以降500枚ごとに660円加算

【硬貨入金手数料】

手数料	取扱硬貨の合計枚数		
	500枚まで	501枚～ 1,000枚まで	1,001枚～ 1,500枚まで
手数料	無料	330円	550円

※上記枚数以降500枚ごとに550円加算

【その他の手数料】

種類	種類	手数料
残高証明書発行(貯金)	1通あたり	440円
残高証明書発行(貸出)	1通あたり	220円
取引履歴証明書1通(1口座)過去3年分まで		2,200円
取引履歴証明書1通(1口座)過去3年を超える期間		1ヶ月毎550円を加算 (33,000円を上限)
融資証明書発行	1通あたり	550円
自己宛小切手発行	1通あたり	550円
通帳・証書再発行	1件あたり	1,100円
ICキャッシュカード発行・更新		無料
ICキャッシュカード再発行		1,100円
JAカード(一体型)発行・再発行・更新		無料
JAネットバンク利用手数料(1か月)		無料
法人JAネットバンク利用手数料(1か月)		550円
基本サービス(照会・振込サービス)		1,650円
基本サービス+データ伝送サービス		
ローンカード再発行		770円
成年後見支援貯金口座開設手数料		11,000円
媒体持込手数料(令和5年4月1日より)		33,000円
口座振替手数料(1回・1口座あたり)		110円

※ここに掲載しました手数料のほか、個々の取引内容等により手数料が異なる場合や新たに付加される場合がありますので窓口でご確認ください。

共 済 事 業

JA共済は、組合員・利用者の皆様が不安なく暮らせるように、生活全般に潜むリスクに対して「ひと・いえ・くるま」の総合保障を提供しています。

「ひと」の保障では、日常生活に潜む病気やケガ、長寿社会に備える老後保障、そして万一に備える死亡保障で万全を備えております。

「いえ」の保障では、火災をはじめ近年頻発する地震や台風など予期せぬ不慮の大規模災害に対しても安心できる充実保障となっております。さらに、優れた保障提供とサービスの向上を目指して、JAグループとして共栄火災との連携強化をはかってまいります。

「くるま」の保障では、社会環境から事故態様も変化しており、万全保障が求められる時代へと移り変わっております。

JA共済では、これからも組合員・利用者のライフプランに応じた充実保障を提供し、皆様の身近なパートナーとして「安心」をお届けします。併せて、共済金ご請求時の支払迅速化にて「安心の充実」をより一層すすめてまいります。

【主な共済商品の一覧】（令和4年4月1日時点）

長期共済（共済期間が5年以上の契約）

種 類	内 容
終 身 共 済	万一のときはもちろん、災害への保障などお客様の多様なニーズにあわせてさまざまな保障内容でのプランニングが可能で、保障切れを心配することなく大切なご家族の生活資金が確保できる一生涯の共済です。
引受緩和型 終 身 共 済	通院中の方、病歴がある方など健康状態に不安がある方でも、簡単な告知でお申込みいただけます。一生涯にわたって、万一のときの保障が確保できます。
一時払終身共済	満期共済金や退職金等の一時金を活用して万一に備える一生涯の共済で、相続対策ニーズに応えることができます。医師による診査は必要なく簡単な告知手続きでお申込みいただけます。
予定利率変動型 年 金 共 済	老後の生活資金準備のためのプランで医師による診査は必要なく簡単な告知手続きでお申込みいただけます。また、最低保証予定利率が設定されているので安心です。
養老生命共済	一定期間の万一保障をするとともに、教育・結婚資金等将来の資金準備を進めながら満期時に生存しているときは満期共済金を支払う貯蓄的な機能を合わせもつ共済です。
こ ども 共 済	お子さま・お孫様の教育資金の備えと万一保障です。ニーズに合わせて「学資金」を効率的に準備したい方や「貯蓄性」「保障の充実性」など3タイプから選べるプランです。共済契約者（親族）が万一のときは、満期まで毎年養育年金を受け取れるプランがあります。
定期生命共済	万一のときをお手頃な共済掛金で保障するプランです。農業の新たな担い手などの経営者の万一のときの保障と退職金などの資金形成ニーズにこたえるプランもあります。
が ん 共 済	上皮内を含むさまざまながんや脳腫瘍の入院や手術、放射線治療等を手厚く保障し、がん診断時や再発時・長期治療等、まとまった共済金を受け取ることができ、1つの契約で総合的に保障されています。公的医療保険制度の給付対象外で高額治療費が必要となる先進医療保障も意向にあわせて保障の有無を選択することができます。
特 定 重 度 疾 病 共 済	身近な生活習慣病のリスクに備える保障です。三大疾病保障（がん・急性心筋梗塞・脳卒中）に加えて、三大疾病以外の「心・血管疾患」や「脳血管疾患」、さらには「その他の生活習慣病」まで幅広く保障し、共済機関を通じてそれぞれ1回、最大で4回受け取れ合併症にも対応できます。薬剤・通院・リハビリ等の継続的な治療による経済的負担に備えられるよう、まとまった一時金で受け取れます。
医 療 共 済	日帰り入院からまとまった一時金を受け取り、病気やケガによる入院費用への備えはもちろん、その前後の通院・在宅医療などにも活用できる充実の保障プランです。一生涯保障や先進医療保障などライフプランに合わせて自由に設計でき、特約を付加することで死亡保障を確保することができます。
引受緩和型 医 療 共 済	通院中の方、病歴がある方など健康状態に不安がある方でも、簡単な告知でお申込みいただけます。日帰り入院から、手術、放射線治療を一生涯保障します。
介 護 共 済	一生涯にわたって介護保障の不安に備えるための共済です。公的介護保険制度に定める要介護2～5に認定されたとき、または所定の重度要介護状態になったときに介護共済金を受け取れます。
一時払介護共済	満期共済金や退職金等の一時金を活用して、一生涯にわたって介護の不安に備えることができます。介護共済金の受け取りだけでなく、お亡くなりになられたときは死亡給付金を受け取れます。

生活障害共済	公的制度である身体障害者手帳制度と連動したわかりやすい保障で、原因が病気かケガを問わず身体障害状態を幅広く保障し、不足する生活費や治療費に備えるための共済です。
認知症共済	一生涯にわたって要介護状態を伴う認知症及び軽度認知障害を保障します。共済金は一時金で受け取れるため、まとまった資金を確保することができ、認知症に係る介護費用や治療費用などのさまざまな費用にあてることができます。
建物更生共済	火災や台風・地震などの自然災害による建物や家財などの損害を幅広く保障し、死亡やケガの程度に応じて傷害共済金を受け取れます。掛け捨てではないため保障期間満了時には満期共済金を受け取ることができます。

※ この資料は概要を説明したものです。各種共済の仕組み内容につきましては、「重要事項説明書（契約概要）」をご覧ください。詳しくは窓口までお問合せください。

短期共済（共済期間が5年以下の契約）

種類	内容	種類	内容
自動車共済	相手方への賠償保障をはじめ、ご自身・ご家族の乗車中や歩行中などの傷害保障、車両保障など、万一の自動車事故を幅広く保障します。	傷害共済	日常生活全般での不慮の事故による死亡・ケガを保障します。
自賠償共済	自動車の運行により他人を負傷・死亡させ、自動車保有者や運転者が損害賠償責任を負った場合に保障し、法律で加入が義務化されています。	賠償責任共済	日本国内で発生した、日常生活の様々な賠償事故のリスクを保障します。
火災共済	建物や建物内に収容されている動産が火災や落雷、破損、爆発などによって損害を受けたときに保障します。	農業者賠償責任共済	農業において発生するさまざまな賠償リスクを幅広く保障します。

※ この資料は概要を説明したものです。各種共済の仕組み内容につきましては、「重要事項説明書（契約概要）」をご覧ください。詳しくは窓口までお問合せください。

購買事業

営農経済センターでは、農産物の種、苗、肥料、農薬、農具、園芸資材等を販売しています。米や野菜等を出荷している農家向けの品物だけではなく、家庭菜園向けの品物も取り揃えています。店舗では野菜づくりのアドバイスも行っています。

販売事業

生産者から消費者へ新鮮で安全・安心な農畜産物をお届けする事業を行っています。生産者が生産した農畜産物を市場に出荷しています。また、「地産地消」の取り組みとして、各直売所において地元でとれた農産物の販売を行っています。

さらに量販店・地域イベント等での女性販売促進員（なんさい小町）による農畜産物の直販やPR活動も行っています。

資産管理事業

「農と住の調和したまちづくり」を目指して、組合員の土地資産等に関することについての総合相談業務や各種の不動産仲介業務等を行っています。

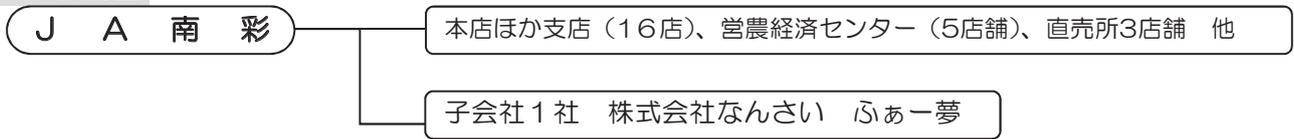
営農・生活・相談事業

組合員の皆様と共に歩む営農指導（地域農業振興活動の支援・農業経営支援などの農業・農家のための活動）や組合員の皆様や地域の皆様と共に歩む生活指導（健康管理講習・郷土文化学習・共同購入・地産地消などの生活文化活動）はもとより、法務・税務相談の窓口開設や、土地の有効利用などの資産管理相談、健康相談などの総合的な相談機能により、暮らしの全般にわたったサポートをしております。

《株式会社なんさい ふぁー夢の事業・業務のご案内》

J A南彩の子会社(株)なんさい ふぁー夢は、J Aと連携しながら組合員と地域の皆様に役立つサービスを提供しております。その内容は、次のとおりです。

事業系統図



農作業受託事業

田の耕うん・代かき、田植え、麦刈り、稲刈り作業等を行います。

農業の経営

新たに11.7 haの農地を借り受け、水稻47.6ha(主食用米・米粉用米)と小麦10.2haを作付けし、農業生産を行いました。

業績・財務関係の状況（単体）

《業績の概要》

信用事業

貯金

地域に密着した金融機関として、JA利用者に対する取引・サービス提供の拡大を進めた結果、年間増額173,499万円、残高は28,141,949万円となりました。

貸出金

組合員の営農資金をはじめ設備資金等の資金需要に積極的な対応を行い、貸出残高は、前期末と比較して、351,515万円増加し 6,441,325万円となりました。

その他の業務

内国為替業務は、年間取扱量が、仕向為替3万6千件、3,483,817万円で被仕向為替28万7千件、6,682,606万円となりました。

共済事業

組合員、地域の皆様の家族一人ひとりの生涯保障の確立をめざし事業推進活動を積極的に展開したところ、長期共済新契約高は532億円を挙績し、保有契約高は6,111億円となりました。

また、年金共済新契約高においては4億円、自動車共済新契約件数も15,850件の契約という実績となりました。

購買事業

営農指導・販売事業と連携し、良質な資材を適正価格で安定的に供給するために営農経済部を中心に取扱体制の確立につとめた結果、316,895万円の取扱い実績となりました。

販売事業

地域の特性を生かした作物・優良な畜産物等の共販組織や事務体制の強化の充実など、計画的な生産販売までの業務態勢の確立につとめた結果、受託品取扱高は278,098万円となりました。

収支状況

収支は、信用・共済事業を中心に、経常利益を36,294万円確保することができ、法人税等を控除した当期余剰金につきましても、16,166万円を計上することができました。

自己資本比率については、充実した内部留保等により国内基準（4％）の3倍以上、国際基準（8％）の約1.5倍以上の13.70％と安定した経営を維持しております。

主要な経営指標等の推移

	平成30年3月期	平成31年3月期	令和2年3月期	令和3年3月期	令和4年3月期
出資金（百万円）	2,847	2,836	2,835	2,845	2,880
（出資口数）	28,474,625	28,368,632	28,351,869	28,457,150	28,800,766
単体自己資本比率（%）	14.37%	13.75%	13.24%	13.64%	13.70%
職員数（人）	330人	330人	327人	321人	308人

（単位：百万円）

	平成30年3月期	平成31年3月期	令和2年3月期	令和3年3月期	令和4年3月期
総資産	291,708	294,945	294,780	297,410	298,878
貸出金	53,790	55,529	57,186	60,898	64,413
有価証券	5,186	6,948	9,336	11,598	16,140
貯金	274,538	276,220	277,107	279,684	281,419
純資産	14,614	14,895	15,061	15,438	15,253
経常収益	7,580	7,238	7,084	6,563	5,418
信用事業収益	2,022	2,006	1,933	1,816	1,771
共済事業収益	1,283	1,259	1,160	1,138	1,118
農業関連事業収益	2,175	2,098	2,141	2,172	1,671
生活その他の事業収益	2,098	1,874	1,848	1,436	855
経常利益	513	421	405	385	362
当期剰余金（注）	394	295	308	549	161
剰余金配当の金額	64	63	62	45	45
出資配当金	28	28	28	28	28
事業利用分量配当金	35	35	34	17	17

注：当期剰余金は、銀行等の当期純利益に相当するものです。

注：総資産及び貸出金については、貸付留保金を控除した数値としています。

財務諸表

■ 貸借対照表

(単位：千円)

科 目	令和3年3月期 令和3年3月31日現在	令和4年3月期 令和4年3月31日現在	科 目	令和3年3月期 令和3年3月31日現在	令和4年3月期 令和4年3月31日現在
(資産の部)			(負債の部)		
1 信用事業資産	280,071,810	281,612,162	1 信用事業負債	279,737,309	281,463,010
(1) 現金	1,080,494	1,035,785	(1) 貯金	279,684,498	281,419,498
(2) 預金	206,517,209	200,048,231	(2) 借入金	6,218	3,917
系統預金	206,517,190	200,048,191	(3) その他の信用事業負債	46,593	39,595
系統外預金	19	40	未払費用	14,038	14,173
(3) 有価証券	11,598,690	16,140,617	その他の負債	32,554	25,422
国債	6,731,845	10,030,607	2 共済事業負債	693,704	689,332
地方債	2,974,500	3,200,950	(1) 共済資金	291,314	267,637
政府保証債	301,854	300,930	(2) 未經過共済付加収入	396,239	416,564
社債	1,290,580	2,038,910	(3) 共済未払費用	3,426	2,742
受益証券	299,910	569,220	(4) その他の共済事業負債	2,723	2,389
(4) 貸出金	60,898,098	64,413,252	3 経済事業負債	410,550	502,329
(5) その他の信用事業資産	173,810	177,384	(1) 経済事業未払金	287,012	326,709
未収収益	141,419	145,331	(2) 経済受託債務	123,538	175,620
その他の資産	32,390	32,052	4 雑負債	439,645	337,187
(6) 貸倒引当金	△ 196,492	△ 203,108	(1) 未払法人税等	146,269	38,186
2 共済事業資産	35,877	29,110	(2) 資産除去債務	8,025	8,048
(1) その他の共済事業資産	35,877	29,110	(3) その他の負債	285,350	290,952
3 経済事業資産	709,772	703,380	5 諸引当金	690,440	632,606
(1) 経済事業未収金	458,715	462,082	(1) 賞与引当金	100,223	97,219
(2) 経済受託債権	135,740	102,715	(2) 退職給付引当金	563,924	504,095
(3) 棚卸資産	112,335	135,211	(3) 役員退職慰労金引当金	23,218	31,291
購入品	106,813	132,489	(4) ポイント引当金	3,072	—
その他の棚卸資産	5,522	2,722	負債の部合計	281,971,649	283,624,467
(4) その他の経済事業資産	4,697	4,846	(純資産の部)		
(5) 貸倒引当金	△ 1,716	△ 1,475	1 組合員資本	15,444,771	15,577,804
4 雑資産	274,663	257,821	(1) 出資金	2,845,715	2,880,076
(1) 雑資産	274,835	257,994	(2) 利益剰余金	12,611,106	12,717,027
(2) 貸倒引当金	△ 172	△ 172	利益準備金	4,347,490	4,457,490
5 固定資産	3,307,788	3,172,397	その他利益剰余金	8,263,615	8,259,537
(1) 有形固定資産	3,287,428	3,151,626	肥料共同購入積立金	3,955	3,955
建物	4,059,812	3,886,882	経営基盤強化積立金	58,872	58,872
機械装置	840,249	843,497	組織整備等積立金	500,000	1,000,000
土地	1,654,917	1,631,351	収獲調整用施設修繕等目的積立金	45,490	65,490
建設仮勘定	4,675	33,527	固定資産除却・処分積立金	50,000	—
その他有形固定資産	1,629,879	1,520,534	施設保守修繕等積立金	370,000	500,000
減価償却累計額	△ 4,902,106	△ 4,764,167	農業生産支援積立金	100,000	81,000
(2) 無形固定資産	20,360	20,770	財務基盤強化目的積立金	1,010,000	1,110,000
6 外部出資	12,793,813	12,793,783	くらしの活動推進目的積立金	100,000	100,000
(1) 外部出資	12,793,813	12,793,783	直売所施設整備等目的積立金	550,000	700,000
系統出資	12,273,902	12,273,902	農業振興目的積立金	82,000	75,000
系統外出資	489,911	489,881	組織基盤強化目的積立金	20,000	20,000
子会社等出資	30,000	30,000	固定資産減損会計目的積立金	100,000	—
7 繰延税金資産	216,814	309,766	税効果会計積立金	224,799	224,799
			特別積立金	3,531,339	3,531,339
			当期末処分剰余金	1,517,159	789,080
			(うち当期剰余金)	(549,228)	(161,660)
			(3) 処分未済持分	△ 12,050	△ 19,300
			2 評価・換算差額等	△ 5,880	△ 323,849
			(1) その他有価証券評価差額金	△ 5,580	△ 323,849
資産の部合計	297,410,540	298,878,422	純資産合計	15,438,890	15,253,954
			負債及び純資産の部合計	297,410,540	298,878,422

■ 損益計算書

(単位：千円)

科 目	令和3年3月期	令和4年3月期	科 目	令和3年3月期	令和4年3月期
	令和2年4月1日から 令和3年3月31日まで	令和3年4月1日から 令和4年3月31日まで		令和2年4月1日から 令和3年3月31日まで	令和3年4月1日から 令和4年3月31日まで
1 事業総利益	2,989,225	2,905,044	(11) 利用事業収益	78,211	78,954
事業収益	6,252,306	5,126,017	(12) 利用事業費用	84,926	75,527
事業費用	3,263,080	2,220,972	利用事業総利益	△ 6,714	3,427
(1) 信用事業収益	1,816,465	1,771,640	(13) 宅地等供給事業収益	21,079	21,046
資金運用収益	1,714,092	1,683,618	(14) 宅地等供給事業費用	1,608	1,417
(うち預金利息)	(1,015,744)	(995,591)	宅地等供給事業総利益	19,471	19,629
(うち有価証券利息)	(73,769)	(81,681)	(15) 福祉事業収益	—	—
(うち貸出金利息)	(545,301)	(544,786)	(16) 福祉事業費用	—	5
(うちその他受入利息)	(79,277)	(61,559)	福祉事業総損失	—	5
役務取引等収益	66,583	62,634	(17) 指導事業収入	1,653	1,578
その他事業直接収益	11,432	2,576	(18) 指導事業支出	24,176	23,987
その他経常収益	24,357	22,811	指導事業収支差額	△ 22,522	△ 22,409
(2) 信用事業費用	186,669	200,015	2 事業管理費	2,779,874	2,716,372
資金調達費用	17,354	6,317	(1) 人件費	2,061,706	2,025,143
(うち貯金利息)	(16,404)	(5,886)	(2) 業務費	290,191	293,978
(うち給付補てん備金繰入)	(781)	(358)	(3) 諸税負担金	80,191	97,700
(うちその他支払利息)	(168)	(71)	(4) 施設費	333,664	291,316
役務取引等費用	14,290	14,332	(5) その他事業管理費	14,120	8,232
その他経常費用	155,024	179,365	事業利益	209,351	188,672
(うち貸倒引当金繰入額)	—	(6615)	3 事業外収益	192,446	199,322
(うち貸倒引当金戻入益)	(△14,488)	—	(1) 受取雑利息	243	288
信用事業総利益	1,629,795	1,571,625	(2) 受取出資配当金	126,891	138,446
(3) 共済事業収益	1,138,146	1,118,228	(3) 賃貸料	32,383	44,466
共済付加収入	1,036,303	1,029,585	(4) 外部出資等損失引当金戻入益	613	—
その他の収益	101,842	88,642	(5) 雑収入	32,314	16,120
(4) 共済事業費用	84,758	111,683	4 事業外費用	16,496	25,051
共済推進費	56,087	82,022	(1) 支払雑利息	546	579
共済保全費	11,304	11,387	(2) 寄付金	46	100
その他の費用	17,366	18,273	(3) 貸倒引当金繰入額	17	0
共済事業総利益	1,053,387	1,006,544	(4) 雑損失	15,887	24,372
(5) 購買事業収益	3,257,841	2,162,643	経常利益	385,301	362,943
購買品供給高	3,239,213	2,031,324	5 特別利益	412,435	98,896
購買手数料	—	111,826	(1) 固定資産処分益	379,676	97,793
その他の収益	18,628	19,491	(2) ガス事業譲渡益	31,350	—
(6) 購買事業費用	3,005,797	1,887,073	(3) その他の特別利益	1,409	1,103
購買品供給原価	2,711,196	1,679,326	6 特別損失	58,263	195,933
購買品供給費	77,502	76,302	(1) 固定資産処分損	30,967	52,592
その他の費用	217,099	131,444	(2) 減損損失	27,296	143,340
(うち貸倒引当金戻入益)	(△551)	(△240)	税引前当期利益	739,473	265,906
購買事業総利益	252,044	275,569	法人税、住民税及び事業税	172,334	72,189
(7) 販売事業収益	239,788	252,152	法人税等調整額	17,910	32,056
販売品販売高	96,232	106,726	法人税等合計	190,245	104,246
販売手数料	141,367	138,728	当期繰越剰余金	549,228	161,660
その他の収益	2,188	6,697	当期首繰越剰余金	448,314	461,372
(8) 販売事業費用	185,385	213,492	会計方針の変更による累積的影響額	—	△ 9,952
販売品販売原価	89,214	100,131	遡及処理後当期首繰越剰余金	—	451,420
その他の費用	96,170	113,361	施設整備目的積立金取崩額	500,000	—
販売事業総利益	54,402	38,659	固定資産売却・処分積立金取崩額	—	50,000
(9) 保管事業収益	9,975	12,696	農業生産支援積立金取崩額	—	19,000
(10) 保管事業費用	613	692	農業振興目的積立金取崩	4,000	7,000
保管事業総利益	9,362	12,003	固定資産減損会計目的積立金取崩額	—	100,000
			税効果会計積立金取崩額	15,616	—
			当期末処分剰余金	1,517,159	789,080

(注) 農業協同組合施行規則の改正に伴い、各事業の収益及び費用を合算し、事業相互間の内部損益を除去した「事業収益」「事業費用」を表示しています。

■ 注 記 表 等

令和3年3月期 (令和2年4月1日から令和3年3月31日まで)	令和4年3月期 (令和3年4月1日から令和4年3月31日まで)
<p>1. 重要な会計方針に係る事項に関する注記 (1) 次に掲げる資産の評価基準及び評価方法</p> <p>① 有価証券（株式形態の外部出資を含む）</p> <p>ア. 満期保有目的の債券：償却原価法（定額法）</p> <p>イ. 子会社株式：移動平均法による原価法</p> <p>ウ. その他有価証券</p> <p> a. 時価のあるもの：期末日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定しています。）</p> <p> b. 時価のないもの：移動平均法による原価法</p> <p>② 棚卸資産</p> <p>ア. 購買品・・・・・・・・主として移動平均法による原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）</p> <p>イ. その他の棚卸資産・・・最終仕入原価法による原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）</p> <p>(2) 固定資産の減価償却の方法</p> <p>① 有形固定資産（リース資産を除く）</p> <p>定率法を採用しております。ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備は除く）並びに平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。</p> <p>② 無形固定資産（リース資産を除く）</p> <p>定額法によっております。</p> <p>(3) 引当金の計上基準</p> <p>① 貸倒引当金</p> <p>貸倒引当金は、予め定められている経理規程、資産査定要領及び資産の償却・引当基準により、次のとおり計上しております。</p> <p>破産、特別清算等法的に経営破綻の事実が発生している債務者（破綻先）に係る債権及びそれと同等の状況にある債務者（実質破綻先）に係る債権については、債権額から、担保の処分可能見込額を控除し、その残額を計上しております。</p> <p>また、現在は経営破綻の状況にないが、今後経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる債務者に係る債権については、債権額から担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額のうち、債務者の支払能力を総合的に判断して必要と認められる額を計上しております。</p> <p>上記以外の債権については、貸出金等の平均残存期間の予想損失額を見込んで計上しており、予想損失額は平均残存期間の貸倒実績または倒産実績を基礎とした貸倒実績率または倒産確率の過去の一定期間における平均値に基づき損失率を求め、これに将来見込み等必要な修正を加えて算定しております。</p> <p>すべての債権は、資産査定要領に基づき、資産査定部署が資産査定を実施し、当該部署から独立した資産監査部署が査定結果を監査しており、その査定結果に基づいて上記の引当を行っています。</p> <p>② 賞与引当金</p> <p>職員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額のうち当期負担分を計上しております。</p> <p>③ 退職給付引当金</p> <p>職員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、当事業年度末に発生していると認められる額を計上しております。</p> <p>ア. 退職給付見込額の期間帰属方法</p> <p>退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度までの期間に帰属させる方法については、期間定額基準によっております。</p> <p>イ. 数理計算上の差異及び過去勤務費用の処理方法</p> <p>数理計算上の差異については、各事業年度の発生時における職員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（5年）による定額法により按分した額を、それぞれ発生の際事業年度から費用処理することとしています。</p> <p>過去勤務費用は、その発生時の職員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（5年）による定額法により費用処理しております。</p> <p>④ 役員退職慰労引当金</p> <p>役員の退任慰労金の支給に備えるため、役員退任慰労金規程に定めるところにより期末要支給額を計上しております。</p> <p>⑤ ポイント引当金</p> <p>更なる組合員サービスの向上を目的とする総合ポイント制度に基づき、組合員・利用者 に付与したポイントの使用による費用発生に備えるため、当事業年度末において将来使用されると見込まれる額を計上しております。</p>	<p>1. 重要な会計方針に係る事項に関する注記 (1) 次に掲げる資産の評価基準及び評価方法</p> <p>① 有価証券（株式形態の外部出資を含む）</p> <p>ア. 満期保有目的の債券：償却原価法（定額法）</p> <p>イ. 子会社株式：移動平均法による原価法</p> <p>ウ. その他有価証券</p> <p> a. 時価のあるもの：時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定しています。）</p> <p> b. 市場価格のない株式等：移動平均法による原価法</p> <p>② 棚卸資産</p> <p>ア. 購買品・・・・・・・・主として移動平均法による原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）</p> <p>イ. その他の棚卸資産・・・最終仕入原価法による原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）</p> <p>(2) 固定資産の減価償却の方法</p> <p>① 有形固定資産（リース資産を除く）</p> <p>定率法を採用しております。ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備は除く）並びに平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。</p> <p>② 無形固定資産（リース資産を除く）</p> <p>定額法によっております。</p> <p>(3) 引当金の計上基準</p> <p>① 貸倒引当金</p> <p>貸倒引当金は、予め定められている経理規程、資産査定要領及び資産の償却・引当基準により、次のとおり計上しております。</p> <p>破産、特別清算等法的に経営破綻の事実が発生している債務者（破綻先）に係る債権及びそれと同等の状況にある債務者（実質破綻先）に係る債権については、債権額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額を計上しております。</p> <p>また、現在は経営破綻の状況にないが、今後経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる債務者に係る債権については、債権額から担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額のうち、債務者の支払能力を総合的に判断して必要と認められる額を計上しております。</p> <p>上記以外の債権については、貸出金等の平均残存期間の予想損失額を見込んで計上しており、予想損失額は平均残存期間の貸倒実績または倒産実績を基礎とした貸倒実績率または倒産確率の過去の一定期間における平均値に基づき損失率を求め、これに将来見込み等必要な修正を加えて算定しております。</p> <p>すべての債権は、資産査定要領に基づき、資産査定部署が資産査定を実施し、当該部署から独立した資産監査部署が査定結果を監査しており、その査定結果に基づいて上記の引当を行っています。</p> <p>② 賞与引当金</p> <p>職員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額のうち当期負担分を計上しております。</p> <p>③ 退職給付引当金</p> <p>職員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。</p> <p>ア. 退職給付見込額の期間帰属方法</p> <p>退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度までの期間に帰属させる方法については、期間定額基準によっております。</p> <p>イ. 数理計算上の差異及び過去勤務費用の処理方法</p> <p>数理計算上の差異については、各事業年度の発生時における職員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（5年）による定額法により按分した額を、それぞれ発生の際事業年度から費用処理することとしています。</p> <p>過去勤務費用は、その発生時の職員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（5年）による定額法により費用処理しております。</p> <p>④ 役員退職慰労引当金</p> <p>役員の退任慰労金の支給に備えるため、役員退任慰労金規程に定めるところにより期末要支給額を計上しております。</p> <p>(4) 収益及び費用の計上基準</p> <p>① 収益認識関連</p> <p>当組合は、「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号2020年3月31日改正）及び「収益認識に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第30号2021年3月26日改正）を適用しており、約束した財またはサービスの支配が利用者等に移転した時点で、もしくは、移転するにつれて当該財またはサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識しております。</p> <p>主要な事業における主な履行義務の内容及び収益を認識する通常の時点は以下のとおりです。</p> <p>ア 購買事業</p> <p>農業生産に必要な資材と生活に必要な物資を共同購入し、組合員に供給する事業であり、当組合は利用者等との契約に基づき、購買品を引き渡す義務を負っております。この</p>

<p>(4) 消費税及び地方消費税の会計処理の方法 消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっています。 ただし、固定資産に係る控除対象外消費税等は雑資産に計上し、5年間で均等償却を行っています。</p> <p>(5) 決算書類に記載した金額の端数処理の方法 記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しており、金額千円未満の科目については「0」で表示しています。</p> <p>(6) その他計算書類等の作成のための基本となる重要な事項 (追加情報) 改正企業会計基準第 24 号会計方針の開示、会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用に伴い、事業別収益・事業別費用の内部取引の処理方法に関する事項をその他計算書類等の作成のための基本となる重要な事項に記載しております。</p> <p>① 事業別収益・事業別費用の内部取引の処理方法について 当組合は、事業別の収益及び費用について、事業間取引の相殺表示を行っていません。よって事業別の収益及び費用については、事業間の内部取引も含めて表示していません。 ただし、損益計算書の事業収益、事業費用については、農業協同組合法施行規則にしたがい、各事業間の内部損益を除去した額を記載しています。</p> <p>2. 表示方法の変更に関する注記 新設された農業協同組合法施行規則第126条の3の2に基づき「会計上の見積りの開示に関する会計基準」(企業会計基準第31号 2020年3月31日)を適用し、当該事業年度より見積りに関する情報を「会計上の見積りに関する注記」に記載しています。</p>	<p>利用者等に対する履行義務は、購買品の引き渡し時点で充足することから、当該時点で収益を認識しています。</p> <p>イ 販売事業 組合員が生産した農畜産物を当組合が集荷して共同で業者等に販売する事業であり、当組合は利用者等との契約に基づき、販売品を引き渡す義務を負っています。この利用者等に対する履行義務は、販売品の引き渡し時点で充足することから、当該時点で収益を認識しています。</p> <p>ウ 利用事業 カントリーエレベーター、ライスセンター、共同選果場、農産物等の施設を設置して、共同で利用する事業であり、当組合は利用者等との契約に基づき、役務提供する義務を負っています。この利用者等に対する履行義務は、各種施設の利用が完了した時点で充足することから、当該時点で収益を認識しています。</p> <p>(5) 消費税及び地方消費税の会計処理の方法 消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっています。 ただし、固定資産に係る控除対象外消費税等は雑資産に計上し、5年間で均等償却を行っています。</p> <p>(6) 計算書類等に記載した金額の端数処理の方法 記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しており、金額千円未満の科目については「0」で表示しています。</p> <p>(7) その他計算書類等の作成のための基本となる重要な事項</p> <p>① 事業別収益・事業別費用の内部取引の処理方法について 当組合は、事業別の収益及び費用について、事業間取引の相殺表示を行っていません。よって事業別の収益及び費用については、事業間の内部取引も含めて表示していません。ただし、損益計算書の事業収益、事業費用については、農業協同組合法施行規則にしたがい、各事業間の内部損益を除去した額を記載しています。</p> <p>② 米共同計算 当組合は生産者が生産した農産物を無条件委託販売により販売を行い、販売代金と販売に要する経費をプール計算することで生産者に支払いをする共同計算を行っています。 そのうち、米については販売をJAが行いプール計算を行う「JA共同計算」を行っています。 共同計算の会計処理については、貸借対照表の経済受託債権に、受託販売について生じた委託者に対する立替金及び販売品の販売委託者に支払った概算金、仮精算金を計上しています。 また、経済受託債務に受託販売品の販売代金(前受金を含む)を計上しています。 共同計算に係る収入(販売代金等)と支出(概算金、販売手数料、倉庫保管料、運搬費等)の計算を行い、当組合が受け取る販売手数料を控除した残額を精算金として生産者に支払った時点において、経済受託債権及び経済受託債務の相殺後の経済受託債務残高を減少する会計処理を行っています。</p> <p>③ 当組合が代理人として関与する取引の損益計算書の表示について 購買事業収益のうち、当組合が代理人として購買品の供給に関与している場合には、純額で収益を認識して、購買手数料として表示しています。また、販売事業収益のうち、当組合が代理人として販売品の販売に関与している場合には、純額で収益を認識して、販売手数料として表示しています。</p> <p>2. 会計方針の変更に関する注記</p> <p>(1) 会計基準等の改正に伴う変更について</p> <p>① 収益認識に関する会計基準 当組合は、「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第 29 号 2020 年 3 月 31 日。以下「収益認識会計基準」という。)及び「収益認識に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第 30 号 2021 年 3 月 26 日)を当事業年度の期首から適用し、約束した財またはサービスの支配が利用者等に移転した時点で、当該財またはサービスと交換に受け取るものと見込まれる金額で収益を認識することといたしました。</p> <p>ア 代理人取引 財またはサービスを利用者等に移転する前に支配していない場合、すなわち、利用者等に代わって調達の手配を代理人として行う取引については、従来、利用者等から受け取る対価の総額を収益として認識しておりましたが、利用者等から受け取る額から受入先(仕入先)に支払う額を控除した純額で収益を認識する方法に変更しています。</p> <p>イ 米の県域共同計算 販売事業の米穀県域共同計算において、従来は、生産者に概算金を支払った時点で収益を認識しておりましたが、県域全体での販売実績進捗率に基づき収益を認識する方法に変更しています。</p> <p>収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第 84 項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、当事業年度の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、当事業年度の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。ただし、収益認識会計基準第 86 項に定める方法を適用し、当事業年度の期首より前までに従前の取扱いに従ってほとんどすべての収益の額を認識した契約については、新たな会計方針を遡及適用していません。 この結果、当事業年度の購買事業収益が 1,031,403 千円減少し、購買事業費用が 1,031,403 千円減少、販売事業収益が 2,250 千円減少し、販売事業総利益が 2,250 千円減少、利用事業収益が 1,909 千円減少し、利用事業費用が 1,909 千円減少しています。これにより、事業収益が 1,035,563 千円減少し、事業費用が 1,033,312 千円減少、事業利益、経常利益及び税引前当期利益がそれぞれ 2,250 千円減少しています。また、利益剰余金の当期首残高が 9,952 千円減少しています。</p> <p>② 時価の算定に関する会計基準 「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第 30 号 2019 年 7 月 4 日。以下「時価算定会計基準」という。)等を当事業年度の期首から適用し、時価算定会計基準第 19 項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第 10 号 2019 年 7 月 4 日)第 44-2 項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することといたしました。これによる当事業年度の計算書類への影響はありません。</p>
--	--

3. 会計上の見積りに関する注記

(1) 固定資産の減損

① 当該事業年度の計算書類に計上した金額 27,296 千円

② その他の情報

資産グループに減損の兆候が存在する場合には、当該資産グループの割引前将来キャッシュ・フローと帳簿価額を比較することにより、当該資産グループについての減損の要否の判定を実施しております。

減損の要否に係る判定単位であるキャッシュ・フロー生成単位については、他の資産または資産グループのキャッシュ・インフローから概ね独立したキャッシュ・インフローを生成させるものとして識別される資産グループの最小単位としております。

固定資産の減損の要否の判定において、将来キャッシュ・フローについては、令和3年3月に作成した中期経営計画を基礎として算出しており、中期計画以降の将来キャッシュ・フローや、割引率等については、一定の仮定を設定して算出しております。

これらの仮定は将来の不確実な経営環境及び組合の経営状況の影響を受け、翌事業年度以降の計算書類に重要な影響を与える可能性があります。

3. 会計上の見積りに関する注記

(1) 固定資産の減損

① 当該事業年度の計算書類に計上した金額
減損損失 143,340 千円

② 会計上の見積りの内容に関する理解に資する情報

資産グループに減損の兆候が存在する場合には、当該資産グループの割引前将来キャッシュ・フローと帳簿価額を比較することにより、当該資産グループについての減損の要否の判定を実施しています。

減損の要否に係る判定単位であるキャッシュ・フロー生成単位については、他の資産または資産グループのキャッシュ・インフローから概ね独立したキャッシュ・インフローを生成させるものとして識別される資産グループの最小単位としています。

固定資産の減損の要否の判定において、将来キャッシュ・フローについては、令和4年3月に作成した中期経営計画を基礎として算出しており、中期計画以降の将来キャッシュ・フローや、割引率等については、一定の仮定を設定して算出しています。

これらの仮定は将来の不確実な経営環境及び組合の経営状況の影響を受け、翌事業年度の計算書類に重要な影響を与える可能性があります。

(2) 貸倒引当金に関する会計上の見積り

① 当事業年度の計算書類に計上した金額

貸倒引当金 204,756 千円

② 会計上の見積りの内容に関する理解に資する情報

A 算定方法

「1重要な会計方針に係る事項に関する注記」の「(3) 引当金の計上基準」の「貸倒引当金」に記載しています。

イ 主要な仮定

主要な仮定は、「債務者区分の判定における貸出先の将来の業績見通し」であります。「債務者区分の判定における貸出先の将来の業績見通し」は、各債務者の収益獲得能力を個別に評価し、設定しています。

ウ 翌事業年度に係る計算書類に与える影響

個別貸出先の業績変化等により、当初の見積りに用いた仮定が変化した場合、翌事業年度に係る計算書類における貸倒引当金に重要な影響を及ぼす可能性があります。

4. 貸借対照表に関する注記

(1) 資産に係る圧縮記帳額

有形固定資産の取得価額から直接控除した圧縮記帳額は、次のとおりです。

建 物	269,990 千円
機械装置	53,813 千円
車 両	1,458 千円
土 地	402,000 千円
工具器具備品	28,062 千円
計	755,323 千円

(2) リース契約により使用する重要な固定資産

貸借対照表に計上した固定資産のほか、車両 193 台については、リース契約により使用しています。

(3) 担保に供している資産

以下の資産は、次のとおり担保に供しています。

種 類	金 額	目 的
系統預金	4,000,000 千円	為替決済に関する保証金

(4) 子会社に対する金銭債権及び金銭債務

子会社に対する金銭債権の総額 12,020 千円
子会社に対する金銭債務の総額 27,000 千円

(5) 役員との間の取引による役員に対する金銭債権及び金銭債務

理事及び監事に対する金銭債権の総額 218,238 千円
理事及び監事に対する金銭債務の総額 - 千円

(6) 貸出金のうちリスク管理債権の合計額及びその内訳

貸出金のうち、破綻先債権額はなく、延滞債権額は 322,241 千円です。

なお、破綻先債権とは、元本又は利息の支払いの遅延が相当期間継続していることその他の事由により元本又は利息の取立て又は弁済の見込みがないものとして未収利息を計上しなかった貸出金（貸倒償却を行った部分を除く。以下「未収利息不計上貸出金」という。）のうち、法人税法施行令（昭和 40 年政令第 97 号）第 96 条第 1 項第 3 号イからホまでに掲げる事由又は同項第 4 号に規定する事由が生じている貸出金です。

また、延滞債権とは、未収利息不計上貸出金であって、破綻先債権及び債務者の経営再建又は支援をはかることを目的として利息の支払を猶予した貸出金以外の貸出金です。

貸出金のうち、3か月以上延滞債権はありません。

なお、3か月以上延滞債権とは、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から3か月以上遅延している貸出金で破綻先債権及び延滞債権に該当しないものです。

貸出金のうち、貸出条件緩和債権はありません。

なお、貸出条件緩和債権とは、債務者の経営再建又は支援をはかることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金で破綻先債権、延滞債権及び3か月以上延滞債権に該当しないものです。

破綻先債権額、延滞債権額、3か月以上延滞債権額及び貸出条件緩和債権額の合計額は 322,241 千円です。

なお、上記に掲げた債権額は、貸倒引当金控除前の金額です。

4. 貸借対照表に関する注記

(1) 資産に係る圧縮記帳額

有形固定資産の取得価額から直接控除した圧縮記帳額は、次のとおりです。

建 物	269,990 千円
機械装置	53,813 千円
車 両	1,458 千円
土 地	402,000 千円
工具器具備品	28,062 千円
計	755,323 千円

(2) リース契約により使用する重要な固定資産

貸借対照表に計上した固定資産のほか、車両 187 台については、リース契約により使用しています。

(3) 担保に供している資産

以下の資産は、次のとおり担保に供しています。

種 類	金 額	目 的
系統預金	4,000,000 千円	為替決済に関する保証金

(4) 子会社に対する金銭債権及び金銭債務

子会社に対する金銭債権の総額 13,640 千円
子会社に対する金銭債務の総額 24,790 千円

(5) 役員との間の取引による役員に対する金銭債権及び金銭債務

理事及び監事に対する金銭債権の総額 255,803 千円
理事及び監事に対する金銭債務の総額 - 千円

(6) 債権のうち農業協同組合法施行規則第 204 条第 1 項第 1 号ホ (2) (i) から (iv) までに掲げるものの額及びその合計額

債権のうち、破産更生債権及びこれらに準ずる債権額は 41,709 千円、危険債権額は 219,627 千円です。

なお、破産更生債権及びこれらに準ずる債権とは、破産手続開始、更生手続開始、再生手続開始の申立て等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権です。

また、危険債権とは、債務者が経営破綻の状態には至っていないものの、財政状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取りができない可能性の高い債権（破産更生債権及びこれらに準ずる債権を除く。）です。

債権のうち、三月以上延滞債権はありません。

なお、三月以上延滞債権とは、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から三月以上遅延している貸出金で破綻先債権及び延滞債権に該当しないものです。

債権のうち、貸出条件緩和債権はありません。

なお、貸出条件緩和債権とは、債務者の経営再建又は支援をはかることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金で破産更生債権及びこれらに準ずる債権、危険債権及び三月以上延滞債権です。

破産更生債権及びこれらに準ずる債権、危険債権、三月以上延滞債権及び貸出条件緩和債権の合計額は 261,336 千円です。

なお、上記に掲げた債権額は、貸倒引当金控除前の金額です。

5. 損益計算書に関する注記

(1) 子会社との取引高の総額

① 子会社等との取引による収益総額	24,188 千円
うち事業取引高	19,668 千円
うち事業取引以外の取引高	4,519 千円
② 子会社等との取引による費用総額	24 千円
うち事業取引高	24 千円
うち事業取引以外の取引高	0 千円

(2) 減損損失に関する注記

① 共用資産として位置づけられた資産及び資産をグループ化した方法の概要

当組合では、投資の意思決定を行う単位として固定資産のグルーピングを実施した結果、営業店舗については支店ごとに、また、業務外固定資産（遊休資産と賃貸固定資産）については、各固定資産をグルーピングの最小単位としています。

J A全体の共用資産は、本店、催事課、食材センター、農機センター、燃料配送センターとし、各地域の共用資産は、管内を統括する一部の統括支店、営農経済センター、R C、C E、選果施設、集出荷所としています。

② 当該資産又は資産グループの概要並びに減損損失の金額及びその内訳
当期に減損を計上した固定資産は、次のとおりです。

場 所	用 途	種類・金額	その他
食堂	営業店舗	建物 23,444 千円	
久喜江面支店	営業店舗	建物 3,851 千円	

③ 減損損失を認識するに至った経緯

久喜江面支店については、事業の継続により得られる回収可能価額が帳簿価額を下回るため帳簿価額を回収可能価額まで減損しています。
食堂については、店舗の廃止に伴い、帳簿価額を回収可能価額まで減損しています。

④ 回収可能価額の算定方法

久喜江面支店の回収可能価額は正味売却可能価額を採用しており、食堂の回収可能価額は使用価値を採用しており、適用した割引率は3.4%です。

6. 金融商品に関する注記

(1) 金融商品の状況に関する事項

① 金融商品に対する取組方針

当組合は農家組合員や地域から預かった貯金を原資に、農家組合員、地域内の企業や団体などへ貸付け、残った余裕金を埼玉県信用農業協同組合連合会へ預けているほか、国債や地方債などの債券、投資信託等の有価証券による運用を行っています。

② 金融商品の内容及びそのリスク

当組合が保有する金融資産は、主として当組合管内の組合員等に対する貸出金及び有価証券であり、貸出金は、組合員等の契約不履行によってもたらされる信用リスクに晒されています。

また、有価証券は主に債券であり、満期保有目的及び純投資目的（その他有価証券）で保有しています。これらは発行体の信用リスク、金利の変動リスク及び市場価格の変動リスクに晒されています。

③ 金融商品に係るリスク管理体制

ア. 信用リスクの管理

当組合は、個別の重要案件または大案件については理事会において対応方針を決定しています。また、通常の貸出取引については、本店に企画管理部リスク管理課を設置し各支店との連携を図りながら、与信審査を行っています。審査にあたっては、取引先のキャッシュ・フローなどにより償還能力の評価を行うとともに、担保評価基準など厳格な審査基準を設けて、与信判定を行っています。貸出取引において資産の健全性の維持・向上をはかるため、資産の自己査定を厳正に行っています。不良債権については管理・回収方針を作成・実施し、資産の健全化に取り組んでいます。また、資産自己査定の結果、貸倒引当金については「資産の償却・引当基準」に基づき必要額を計上し、資産及び財務の健全化につとめています。

イ. 市場リスクの管理

当組合では、金利リスク、価格変動リスクなどの市場性リスクを的確にコントロールすることにより、収益化及び財務の安定化を図っています。このため、財務の健全性維持と収益力強化とのバランスを重視したALMを基本に、資産・負債の金利感応度分析などを実施し、金融情勢の変化に機敏に対応できる柔軟な財務構造の構築につとめています。

とりわけ、有価証券運用については、市場動向や経済見通しなどの投資環境分析及び当組合の保有有価証券ポートフォリオの状況やALMなどを考慮し、理事会において運用方針を定めるとともに、経営層で構成するALM委員会を定期的に開催して、日常的な情報交換及び意思決定を行っています。運用部門は、理事会で決定した運用方針及びALM委員会が決定された方針などに基づき、有価証券の売買やリスクヘッジを行っています。運用部門が行った取引についてはリスク管理部門が適切な執行を行っているかどうかチェックし定期的にリスク量の測定を行い経営層に報告しています。（市場リスクに係る定量的情報）

当組合で保有している金融商品はすべてトレーディング目的以外の金融商品です。当組合において、主要なリスク変数である金利リスクの影響を受ける主たる金融商品は、預金、有価証券のうちその他有価証券に分類している債券・受益証券、貸出金、貯金です。

当組合では、これらの金融資産及び金融負債について、期末後1年程度の金利の合理的な予想変動幅を用いた経済価値の変動額を、金利の変動リスクの管理にあたっての定量的分析に利用しています。

金利以外のすべてのリスク変数が一定であると仮定し、当事業年度末現在、指標となる金利が0.01%下落したものと想定した場合には、経済価値が25,494千円減少するものと把握しています。

当該変動額は、金利を除くリスク変数が一定の場合を前提としており、金利とその他のリスク変数の相関を考慮していません。

また、金利の合理的な予想変動幅を超える変動が生じた場合には、算定額を超える影響が生じる可能性があります。

5. 損益計算書に関する注記

(1) 子会社との取引高の総額

① 子会社等との取引による収益総額	25,318 千円
うち事業取引高	21,717 千円
うち事業取引以外の取引高	3,600 千円
② 子会社等との取引による費用総額	728 千円
うち事業取引高	658 千円
うち事業取引以外の取引高	70 千円

(2) 減損損失に関する注記

① 共用資産として位置づけられた資産及び資産をグループ化した方法の概要

当組合では、投資の意思決定を行う単位として固定資産のグルーピングを実施した結果、営業店舗については支店ごとに、また、業務外固定資産（遊休資産と賃貸固定資産）については、各固定資産をグルーピングの最小単位としています。

J A全体の共用資産は、本店、催事課、食材センター、農機センター、燃料配送センターとし、各地域の共用資産は、営農経済センター、R C、C E、選果施設、集出荷所としています。

② 当該資産又は資産グループの概要並びに減損損失の金額及びその内訳
当期に減損を計上した固定資産は、次のとおりです。

場 所	用 途	種類・金額	その他
川通支店	営業店舗	建物 13,486 千円、土地 45,074 千円	
河合支店	営業店舗	建物 12,040 千円	
春日部東支店	営業店舗	建物 13,514 千円、土地 47,662 千円	
菖蒲支店	営業店舗	建物 11,561 千円	

③ 減損損失を認識するに至った経緯

川通支店、河合支店、春日部東支店、菖蒲支店については、店舗廃止の意思決定に伴い帳簿価額を回収可能額まで減額し減損損失として計上しています。

④ 回収可能価額の算定方法

菖蒲支店の回収可能価額は正味売却可能価額を採用しており、川通支店、河合支店、春日部東支店の回収可能価額は使用価値を採用しており、適用した割引率は3.4%です。

6. 金融商品に関する注記

(1) 金融商品の状況に関する事項

① 金融商品に対する取組方針

当組合は組合員や地域から預かった貯金を原資に、組合員、地域内の企業や団体などへ貸付け、残った余裕金を埼玉県信用農業協同組合連合会へ預けているほか、国債や地方債などの債券、投資信託等の有価証券による運用を行っています。

② 金融商品の内容及びそのリスク

当組合が保有する金融資産は、主として当組合管内の組合員等に対する貸出金及び有価証券であり、貸出金は、組合員等の契約不履行によってもたらされる信用リスクに晒されています。

また、有価証券は主に債券であり、満期保有目的及び純投資目的（その他有価証券）で保有しています。これらは発行体の信用リスク、金利の変動リスク及び市場価格の変動リスクに晒されています。

③ 金融商品に係るリスク管理体制

ア. 信用リスクの管理

当組合は、個別の重要案件または大案件については理事会において対応方針を決定しています。また、通常の貸出取引については、本店に企画管理部リスク管理課を設置し各支店との連携を図りながら、与信審査を行っています。審査にあたっては、取引先のキャッシュ・フローなどにより償還能力の評価を行うとともに、担保評価基準など厳格な審査基準を設けて、与信判定を行っています。貸出取引において資産の健全性の維持・向上をはかるため、資産の自己査定を厳正に行っています。不良債権については管理・回収方針を作成・実施し、資産の健全化に取り組んでいます。また、資産自己査定の結果、貸倒引当金については「資産の償却・引当基準」に基づき必要額を計上し、資産及び財務の健全化につとめています。

イ. 市場リスクの管理

当組合では、金利リスク、価格変動リスクなどの市場性リスクを的確にコントロールすることにより、収益化及び財務の安定化をはかっています。このため、財務の健全性維持と収益力強化とのバランスを重視したALMを基本に、資産・負債の金利感応度分析などを実施し、金融情勢の変化に機敏に対応できる柔軟な財務構造の構築につとめています。

とりわけ、有価証券運用については、市場動向や経済見通しなどの投資環境分析及び当組合の保有有価証券ポートフォリオの状況やALMなどを考慮し、理事会において運用方針を定めるとともに、経営層で構成するALM委員会を定期的に開催して、日常的な情報交換及び意思決定を行っています。運用部門は、理事会で決定した運用方針及びALM委員会が決定された方針などに基づき、有価証券の売買やリスクヘッジを行っています。運用部門が行った取引についてはリスク管理部門が適切な執行を行っているかどうかチェックし定期的にリスク量の測定を行い経営層に報告しています。（市場リスクに係る定量的情報）

当組合で保有している金融商品はすべてトレーディング目的以外の金融商品です。当組合において、主要なリスク変数である金利リスクの影響を受ける主たる金融商品は、預金、有価証券のうちその他有価証券に分類している債券・受益証券、貸出金、貯金です。

当組合では、これらの金融資産及び金融負債について、期末後1年程度の金利の合理的な予想変動幅を用いた経済価値の変動額を、金利の変動リスクの管理にあたっての定量的分析に利用しています。

金利以外のすべてのリスク変数が一定であると仮定し、当事業年度末現在、指標となる金利が0.01%下落したものと想定した場合には、経済価値が12,711千円減少するものと把握しています。

当該変動額は、金利を除くリスク変数が一定の場合を前提としており、金利とその他のリスク変数の相関を考慮していません。

また、金利の合理的な予想変動幅を超える変動が生じた場合には、算定額を超える影響が生じる可能性があります。

ウ、資金調達に係る流動性リスクの管理

当組合では、資金繰りリスクについては、運用・調達について月次の資金計画を作成し、安定的な流動性の確保につとめています。また、市場流動性リスクについては、投資判断を行う上での重要な要素と位置づけ、商品ごとに異なる流動性（換金性）を把握したうえで、運用方針などの策定の際に検討を行っています。

④ 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価（時価に代わるものを含む）には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額（これに準ずる価額を含む）が含まれています。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によつた場合、当該価額が異なることもあります。

(2) 金融商品の時価等に関する事項

① 金融商品の貸借対照表計上額及び時価等

当事業年度末における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額は、次のとおりです。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものについては、次表には含まず③に記載しています。

(単位：千円)

	貸借対照表計上額	時価	差額
預金	206,517,209	206,519,793	2,583
有価証券			
満期保有目的の債券	2,958,840	2,906,020	△52,820
その他有価証券	8,639,850	8,639,850	—
貸出金(*1,2)	61,977,365		
貸倒引当金(*3)	△196,492		
貸倒引当金控除後	61,780,872	62,831,748	1,050,875
経済事業未収金	458,715		
貸倒引当金(*4)	△1,716		
貸倒引当金控除後	456,999	456,999	—
資産計	280,353,771	281,354,411	1,000,639
貯金	279,684,498	279,691,972	7,473
負債計	279,684,498	279,691,972	7,473

(*1) 貸出金には、貸借対照表上雑資産に計上している職員厚生貸付金 57,568 千円を含めています。

(*2) 貸出金には、貸付留保金を控除していません。

(*3) 貸出金に対応する一般貸倒引当金及び個別貸倒引当金です。

(*4) 経済事業未収金に対応する一般貸倒引当金及び個別貸倒引当金です。

② 金融商品の時価の算定方法

【資産】

ア、預金

満期のない預金については、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によつています。満期のある預金については、期間に基づく区分ごとに、リスクの極めて少ない期待利回りである標準的な金利（円 Libor・スワップレート）で割り引いた現在価値を時価に代わる金額として算定しています。

イ、有価証券

債券は取引金融機関等から提示された価格により算定しています。また、投資信託については、公表されている基準価格によつています。

ウ、貸出金

貸出金のうち、変動金利によるものは、短期間で市場金利を反映するため、貸出先の信用状態が実行後大きく異ならない限り、時価は帳簿価額と近似していることから当該帳簿価額によつています。

一方、固定金利によるものは、貸出金の種類及び期間に基づく区分ごとに、元金の合計額をリスクの極めて少ない期待利回りである標準的な金利（円 Libor・スワップレート）で割り引いた額から貸倒引当金を控除して時価に代わる金額として算定しています。

また、延滞の生じている債権・期限の利益を喪失した債権等について、帳簿価額から貸倒引当金を控除した額を時価に代わる金額として算定しています。

エ、経済事業未収金

経済事業未収金については短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によつています。

また、延滞の生じている債権・期限の利益を喪失した債権等について、帳簿価額から貸倒引当金を控除した額を時価に代わる金額として算定しています。

【負債】

ア、貯金

要求払貯金については、決算日に要求された場合の支払額（帳簿価額）を時価とみなしています。また、定期性貯金については、期間に基づく区分ごとに、将来のキャッシュ・フローをリスクの極めて少ない期待利回りである標準的な金利（円 Libor・スワップレート）で割り引いた現在価値を時価に代わる金額として算定しています。

③ 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品は次のとおりであり、これらは①の金融商品の時価情報には含まれていません。

(単位：千円)

	貸借対照表計上額
外部出資(*)	12,781,213

(*1) 外部出資のうち、市場価格のある株式以外のものについては、時価を把握することが極めて困難であると認められるため、時価開示の対象とはしていません。

ウ、資金調達に係る流動性リスクの管理

当組合では、資金繰りリスクについては、運用・調達について月次の資金計画を作成し、安定的な流動性の確保に努めています。また、市場流動性リスクについては、投資判断を行う上での重要な要素と位置づけ、商品ごとに異なる流動性（換金性）を把握したうえで、運用方針などの策定の際に検討を行っています。

④ 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価（時価に代わるものを含む）には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額（これに準ずる価額を含む）が含まれています。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によつた場合、当該価額が異なることもあります。

(2) 金融商品の時価等に関する事項

① 金融商品の貸借対照表計上額及び時価等

当事業年度末における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額は、次のとおりです。なお、市場価格のない株式等、次表には含めておりません。

(単位：千円)

	貸借対照表計上額	時価	差額
預金	200,048,231	200,050,031	1,800
有価証券			
満期保有目的の債券	3,163,457	2,974,630	△188,827
その他有価証券	12,977,160	12,977,160	—
貸出金(*1,2)	65,369,014		
貸倒引当金(*3)	△203,108		
貸倒引当金控除後	65,165,906	64,971,052	△194,854
経済事業未収金	462,082		
貸倒引当金(*4)	△1,475		
貸倒引当金控除後	460,606	460,606	—
資産計	281,815,360	281,433,479	△381,881
貯金	281,419,498	281,415,043	△4,455
負債計	281,419,498	281,415,043	△4,455

(*1) 貸出金には、貸借対照表上雑資産に計上している職員厚生貸付金 57,621 千円を含めています。

(*2) 貸出金には、貸付留保金を控除していません。

(*3) 貸出金に対応する一般貸倒引当金及び個別貸倒引当金です。

(*4) 経済事業未収金に対応する一般貸倒引当金及び個別貸倒引当金です。

② 金融商品の時価の算定方法

【資産】

ア、預金

満期のない預金については、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によつています。満期のある預金については、期間に基づく区分ごとに、リスクフリーレートである翌日金利スワップ（Overnight Index Swap 以下 OIS という）で割り引いた現在価値を時価に代わる金額として算定しています。

イ、有価証券

債券は取引金融機関等から提示された価格により算定しています。投資信託は、公表されている基準価格、または、取引金融機関等から提示された価格によつており、「時価の算定に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第 31 号 2019 年 7 月 4 日）第 26 項に従い、経過措置を適用しています。

ウ、貸出金

貸出金のうち、変動金利によるものは、短期間で市場金利を反映するため、貸出先の信用状態が実行後大きく異ならない限り、時価は帳簿価額と近似していることから当該帳簿価額によつています。

一方、固定金利によるものは、貸出金の種類及び期間に基づく区分ごとに、元金の合計額を OIS で割り引いた額から貸倒引当金を控除して時価に代わる金額として算定しています。

なお、分割実行案件で未実行額がある場合には、未実行額も含めた元金の合計額を OIS で割り引いた額に、帳簿価額に未実行額を加えた額に対する帳簿価額の割合に乘以、貸倒引当金を控除した額を時価に代わる金額として算定しています。

また、延滞の生じている債権・期限の利益を喪失した債権等について、帳簿価額から貸倒引当金を控除した額を時価に代わる金額として算定しています。

エ、経済事業未収金

経済事業未収金については短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によつています。

また、延滞の生じている債権について、帳簿価額から貸倒引当金を控除した額を時価に代わる金額として算定しています。

【負債】

ア、貯金

要求払貯金については、決算日に要求された場合の支払額（帳簿価額）を時価とみなしています。また、定期性貯金については、期間に基づく区分ごとに、将来のキャッシュ・フローを OIS で割り引いた現在価値を時価に代わる金額として算定しています。

③ 市場価格のない株式等は次のとおりであり、これらは①の金融商品の時価情報には含まれていません。

(単位：千円)

	貸借対照表計上額
外部出資(*)	12,793,783

(*1) 外部出資のうち、市場において取引されていない株式や出資金等については、「金融商品の時価等の開示に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第 19 号 2019 年 7 月 4 日）第 5 項に基づき、時価開示の対象とはしていません。

④ 金銭債権及び満期のある有価証券の決算日後の償還予定額

(単位:千円)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
現金	206,517,209	-	-	-	-	-
有価証券						
満期保有目的の債権	400,000	-	-	-	-	2,600,000
その他の有価証券のうち満期があるもの	-	-	100,000	200,000	-	8,299,910
貸出金(※1)	4,434,506	3,551,203	3,405,938	3,210,284	3,065,192	44,251,375
経済事業未収金(※3)	458,374	-	-	-	-	-
合計	211,810,089	3,551,203	3,505,938	3,410,284	3,065,192	56,151,285

- (※1) 貸出金のうち、当座貸越(融資型を除く)235,336千円については「1年以内」に含めています。
 (※2) 貸出金のうち、3か月以上延滞の生じている債権・期限の利益を喪失した債権等1,294千円は償還の予定が見込まれないため、含めていません。
 (※3) 経済事業未収金のうち、延滞の生じている債権・期限の利益を喪失した債権等341千円は償還の予定が見込まれないため、含めていません。

⑤ 有利子負債の決算日後の返済予定額

(単位:千円)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
貯金(※1)	269,696,188	3,484,194	5,345,534	771,223	387,357	-
合計	269,696,188	3,484,194	5,345,534	771,223	387,357	-

- (※1) 貯金のうち、要求払貯金については「1年以内」に含めています。

7. 有価証券に関する注記

(1) 有価証券の時価及び評価差額に関する事項

- ① 満期保有目的の債券で時価のあるもの
 満期保有目的の債券において、種類ごとの貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりです。

(単位:千円)

		貸借対照表 計上額	時価	差額
時価が貸借対照表計上額を超えるもの	国債	791,159	808,200	17,040
	政府保証債	199,734	205,840	6,105
	小計	990,894	1,014,040	23,145
時価が貸借対照表計上額を超えないもの	国債	1,967,946	1,891,980	△75,966
	合計	2,958,840	2,906,020	△52,820

- ② その他有価証券で時価のあるもの
 その他有価証券において、種類ごとの取得原価または償却原価、貸借対照表計上額及びこれらの差額については、次のとおりです。

(単位:千円)

		貸借対照表 計上額	取得原価または償却原価	差額
貸借対照表計上額が取得原価または償却原価を超えるもの	国債	927,040	898,741	28,298
	地方債	2,488,980	2,374,327	114,652
	政府保証債	102,120	100,000	2,120
	社債	305,530	300,000	5,530
	小計	3,823,670	3,673,068	150,601
貸借対照表計上額が取得原価または償却原価を超えないもの	国債	3,045,700	3,166,501	△120,801
	地方債	485,520	498,983	△13,463
	社債	985,050	1,009,418	△24,368
	受益証券	299,910	300,000	△90
	小計	4,816,180	4,974,903	△158,723
合計	8,639,850	8,647,972	△8,122	

なお、上記差額から繰延税金資産2,241千円を差し引いた額△5,880千円が、「その他有価証券評価差額金」に計上しています。

(2) 当年度中に売却したその他有価証券

(単位:千円)

	売却額	売却益	売却損
国債	998,710	5,698	-
政府保証債	205,064	5,734	-
合計	1,203,774	11,432	-

(3) 当年度中に減損処理を行った有価証券

当年度において3,499千円減損処理を行っています。
 時価を把握することが極めて困難と認められる非上場の減損処理に当たっては、財政状態の悪化により実質価額が著しく低下した場合には、回収可能性等を考慮して減損処理を行っております。

④ 金銭債権及び満期のある有価証券の決算日後の償還予定額

(単位:千円)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
現金	200,048,191	-	-	-	-	-
有価証券						
満期保有目的の債権	-	-	-	-	-	3,163,457
その他の有価証券のうち満期があるもの	-	101,180	204,780	-	98,590	12,572,610
貸出金(※1)	4,411,828	3,660,956	3,499,864	3,350,413	3,169,928	47,217,588
経済事業未収金(※3)	462,062	-	-	-	-	-
合計	204,922,101	3,762,136	3,704,644	3,350,413	3,268,518	62,953,652

- (※1) 貸出金のうち、当座貸越(融資型を除く)220,512千円については「1年以内」に含めています。
 (※2) 貸出金のうち、3か月以上延滞の生じている債権・期限の利益を喪失した債権等816千円は償還の予定が見込まれないため、含めていません。

⑤ 有利子負債の決算日後の返済予定額

(単位:千円)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
貯金(※1)	272,104,630	5,480,839	2,992,336	407,837	433,853	-
合計	272,104,630	5,480,839	2,992,336	407,837	433,853	-

- (※1) 貯金のうち、要求払貯金については「1年以内」に含めています。

7. 有価証券に関する注記

(1) 有価証券の時価及び評価差額に関する事項

- ① 満期保有目的の債券で時価のあるもの
 満期保有目的の債券において、種類ごとの取得原価または償却原価、貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりです。

(単位:千円)

		貸借対照表 計上額	時価	差額
時価が貸借対照表計上額を超えるもの	国債	391,637	398,480	6,842
	政府保証債	199,750	201,580	1,829
	小計	591,387	600,060	8,672
時価が貸借対照表計上額を超えないもの	国債	2,572,070	2,374,570	△197,500
	合計	3,163,457	2,974,630	△188,827

- ② その他有価証券
 その他有価証券において、種類ごとの取得原価または償却原価、貸借対照表計上額及びこれらの差額については、次のとおりです。

(単位:千円)

		貸借対照表 計上額	取得原価または償却原価	差額
貸借対照表計上額が取得原価または償却原価を超えるもの	国債	907,830	898,817	9,012
	地方債	2,242,570	2,158,547	84,022
	政府保証債	101,180	100,000	1,180
	社債	102,310	100,000	2,310
	小計	3,353,890	3,257,364	96,525
貸借対照表計上額が取得原価または償却原価を超えないもの	国債	6,159,070	6,550,337	△391,267
	地方債	958,380	1,004,952	△46,572
	特別法人債	188,560	200,000	△11,440
	社債	1,748,040	1,811,810	△63,770
	受益証券	569,220	600,000	△30,780
小計	9,623,270	10,167,100	△543,830	
合計	12,977,160	13,424,465	△447,305	

なお、上記差額から繰延税金資産123,456千円を差し引いた額△323,849千円を「その他有価証券評価差額金」に計上しています。

(2) 当年度中に売却したその他有価証券

(単位:千円)

	売却額	売却益	売却損
国債	305,486	2,576	-
合計	305,486	2,576	-

8. 退職給付に関する注記

(1) 退職給付に関する注記

① 採用している退職給付制度の概要

職員の退職給付にあてるため、退職給与規程に基づき、退職一時金制度を採用しています。また、この制度に加え、同規程に基づき退職給付の一部にあてるため確定給付型年金制度（DB）及び特定退職金共済制度を採用しています。

② 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

期首における退職給付債務	2,356,148 千円
勤務費用	131,732 千円
利息費用	1,884 千円
数理計算上の差異の発生額	△2,030 千円
退職給付の支払額	△117,684 千円
期末における退職給付債務	2,370,051 千円

③ 年金資産の期首残高と期末残高の調整表

期首における年金資産	1,835,339 千円
期待運用収益	17,563 千円
数理計算上の差異の発生額	252 千円
確定給付型年金制度（DB）への拠出金	60,094 千円
特定退職金共済制度への拠出金	62,344 千円
退職給付の支払額	△101,593 千円
期末における年金資産	1,874,000 千円

④ 退職給付債務及び年金資産の期末残高と貸借対照表に計上された退職給付引当金の調整表

退職給付債務	2,370,051 千円
確定給付型年金制度（DB）	△1,119,078 千円
特定退職金共済制度	△754,921 千円
未積立退職給付債務	496,051 千円
未認識数理計算上の差異	67,873 千円
貸借対照表計上額純額	563,924 千円
退職給付引当金	563,924 千円

⑤ 退職給付費用及びその内訳項目の金額

勤務費用	131,732 千円
利息費用	1,884 千円
期待運用収益	△17,563 千円
数理計算上の差異の費用処理額	△4,357 千円
過去勤務費用の費用処理額	△19,449 千円
合計	92,247 千円

⑥ 年金資産の主な内訳

年金資産合計に対する主な分類ごとの比率は、次のとおりです（または、年金資産の主な分類ごとの金額は、次のとおりです）。

・確定給付型年金制度（DB）	
一般勘定	100%
・特定退職金共済制度	
債券	63%
年金保険投資	26%
現金及び預金	6%
その他	5%
合計	100%

※ 一般勘定とは、全国共済農業協同組合連合会において、企業年金制度の資産等を1つの勘定で運用していることをいいます。

⑦ 長期期待運用収益率の設定方法に関する記載

年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在及び予想される年金資産の配分と年金資産を構成する多様な資産からの現在及び将来期待される長期の収益率を考慮しています。

⑧ 割引率その他の数理計算上の計算基礎に関する事項

割引率	0.08%
長期期待運用収益率	
確定給付型年金制度	1.18%
特定退職金共済制度	0.70%

(2) 特例業務負担金の将来見込み額

人件費（うち福利厚生費）には、厚生年金保険制度及び農林漁業団体職員共済組合制度の統合をはかるための農林漁業団体共済組合法等を廃止する等の法律附則第57条に基づき、旧農林共済組合（存続組合）がおこなう特例年金等の業務に要する費用に充てるため拠出した特例業務負担金 27,282 千円を含めて計上しています。

なお、同組合より示された令和3年3月現在における令和14年3月までの特例業務負担金の将来見込み額は、296,463 千円となっています。

8. 退職給付に関する注記

(1) 退職給付に関する注記

① 採用している退職給付制度の概要

職員の退職給付にあてるため、退職給与規程に基づき、退職一時金制度を採用しています。また、この制度に加え、同規程に基づき退職給付の一部にあてるため確定給付型年金制度（DB）及び特定退職金共済制度を採用しています。

② 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

期首における退職給付債務	2,370,051 千円
勤務費用	125,662 千円
利息費用	1,861 千円
数理計算上の差異の発生額	△56,678 千円
退職給付の支払額	△119,245 千円
期末における退職給付債務	2,321,651 千円

③ 年金資産の期首残高と期末残高の調整表

期首における年金資産	1,874,000 千円
期待運用収益	17,552 千円
数理計算上の差異の発生額	△389 千円
確定給付型年金制度（DB）への拠出金	56,755 千円
特定退職金共済制度への拠出金	61,251 千円
退職給付の支払額	△104,534 千円
期末における年金資産	1,904,636 千円

④ 退職給付債務及び年金資産の期末残高と貸借対照表に計上された退職給付引当金の調整表

退職給付債務	2,321,651 千円
確定給付型年金制度（DB）	△1,127,025 千円
特定退職金共済制度	△777,611 千円
未積立退職給付債務	417,015 千円
未認識数理計算上の差異	87,079 千円
貸借対照表計上額純額	504,095 千円
退職給付引当金	504,095 千円

⑤ 退職給付費用及びその内訳項目の金額

勤務費用	125,662 千円
利息費用	1,861 千円
期待運用収益	△17,552 千円
数理計算上の差異の費用処理額	△37,083 千円
合計	72,888 千円

⑥ 年金資産の主な内訳

年金資産合計に対する主な分類ごとの比率は、次のとおりです（または、年金資産の主な分類ごとの金額は、次のとおりです）。

・確定給付型年金制度（DB）	
一般勘定	100%
・特定退職金共済制度	
債券	64%
年金保険投資	27%
現金及び預金	4%
その他	5%
合計	100%

※ 一般勘定とは、全国共済農業協同組合連合会において、企業年金制度の資産等を1つの勘定で運用していることをいいます。

⑦ 長期期待運用収益率の設定方法に関する記載

年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在及び予想される年金資産の配分と年金資産を構成する多様な資産からの現在及び将来期待される長期の収益率を考慮しています。

⑧ 割引率その他の数理計算上の計算基礎に関する事項

割引率	0.08%
長期期待運用収益率	
確定給付型年金制度	1.13%
特定退職金共済制度	0.65%

(2) 特例業務負担金の将来見込み額

人件費（うち福利厚生費）には、厚生年金保険制度及び農林漁業団体職員共済組合制度の統合をはかるための農林漁業団体共済組合法等を廃止する等の法律附則第57条に基づき、旧農林共済組合（存続組合）がおこなう特例年金等の業務に要する費用に充てるため拠出した特例業務負担金 26,809 千円を含めて計上しています。

なお、同組合より示された令和4年3月現在における令和14年3月までの特例業務負担金の将来見込み額は、268,166 千円となっています。

9. 税効果会計に関する注記

(1) 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生原因別の主な内訳

繰延税金資産	
退職給付引当金超過額	155,643 千円
減損損失	52,578 千円
賞与引当金超過額	27,661 千円
減価償却超過額	13,747 千円
子会社寄付金等調整額	13,380 千円
未払事業税	10,238 千円
借地権	9,976 千円
役員退職慰労引当金	6,408 千円
未払費用否認額	4,516 千円
その他有価証券評価差額金	2,241 千円
資産除去債務	2,214 千円
貸倒引当金超過額	1,136 千円
ポイント引当金	848 千円
その他	1,490 千円
繰延税金資産小計	302,082 千円
評価性引当額	△77,283 千円
繰延税金資産合計 (A)	224,799 千円
繰延税金負債	
全農外部出資評価益	△7,967 千円
有形固定資産 (除去費用)	△17 千円
繰延税金負債合計 (B)	△7,985 千円
繰延税金資産の純額 (A) + (B)	216,814 千円

(2) 法定実効税率と法人税等負担率との差異の主な原因

法定実効税率	27.6%
(調整)	
交際費等の損金不算入額	0.7%
寄付金の損金不算入額	0.7%
受取配当等の益金不算入額	△2.4%
事業利用分量配当	△0.7%
住民税均等割額	0.9%
評価性引当額の増減	△0.1%
その他	△1.0%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	25.7%

10. 資産除去債務に関する注記

(1) 資産除去債務のうち貸借対照表に計上しているもの

- ① 当該資産除去債務の概要
当組合の一部の建物に使用されている有害物質を除去する義務に関して、資産除去債務を計上しています。また、建物の一部は、設置の際に土地所有者との事業用定期借地権契約を締結しており、賃借期間終了による原状回復義務に関し資産除去債務を計上していません。
- ② 当該資産除去債務の金額の算定方法
資産除去債務の見積りにあたり、支出までの見込期間は0年～4年、割引率は0.0%～2.2%を採用しています。
- ③ 当事業年度末における当該資産除去債務の総額の増減
- | | |
|------------|----------|
| 期首残高 | 7,985 千円 |
| 時の経過による調整額 | 39 千円 |
| 期末残高 | 8,025 千円 |

(2) 貸借対照表に計上している以外の資産除去債務

当組合は、事業所等に関して、不動産賃借契約に基づき、退去時における原状回復に係る義務を有していますが、当該事業所等は当組合が事業を継続する上で必須の施設であり、現時点で除去は想定していません。また、移転が行われる予定もないことから、資産除去債務の履行時期を合理的に見積ることができません。そのため、当該義務に見合う資産除去債務を計上していません。

11. その他の注記

(1) リース会計基準に基づく注記

- ① オペレーティング・リース
ファイナンス・リース取引以外の、所有権が当組合に移転しないオペレーティング・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっています。なお、未経過リース料は下記のとおりです。
- | | |
|--------------|----------|
| 未経過リース料残高相当額 | |
| 1年以内 | 2,916 千円 |
| 1年超 | 1,287 千円 |
| 合計 | 4,203 千円 |
- 上記未経過リース料は、解約不能なオペレーティング・リース取引の未経過リース料と解約可能なオペレーティング・リース取引の解約金の合計額です。

9. 税効果会計に関する注記

(1) 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生原因別の主な内訳

繰延税金資産	
退職給付引当金超過額	139,130 千円
その他有価証券評価差額金	123,456 千円
減損損失	88,522 千円
賞与引当金超過額	26,832 千円
子会社寄付金等調整額	18,540 千円
減価償却超過額	13,747 千円
役員退職慰労引当金	8,636 千円
借地権	8,573 千円
未払費用否認額	4,461 千円
未払事業税	3,723 千円
資産除去債務	2,221 千円
有価証券の有税評価損	965 千円
棚卸資産の有税評価損	880 千円
貸倒引当金超過額	828 千円
その他	491 千円
繰延税金資産小計	436,315 千円
評価性引当額	△118,570 千円
繰延税金資産合計 (A)	317,745 千円
繰延税金負債	
全農外部出資評価益	△7,967 千円
有形固定資産 (除去費用)	△11 千円
繰延税金負債合計 (B)	△7,979 千円
繰延税金資産の純額 (A) + (B)	309,766 千円

(2) 法定実効税率と法人税等負担率との差異の主な原因

法定実効税率	27.6%
(調整)	
交際費等の損金不算入額	1.6%
寄付金の損金不算入額	2.0%
受取配当等の益金不算入額	△7.3%
事業利用分量配当	△1.8%
住民税均等割額	2.7%
評価性引当額の増減	15.8%
その他	△0.8%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	39.8%

10. 収益認識に関する注記

「重要な会計方針に係る事項に関する注記(4)収益及び費用の計上基準」に同一の内容を記載しているため、注記を省略しています。

11. 資産除去債務に関する注記

(1) 資産除去債務のうち貸借対照表に計上しているもの

- ① 当該資産除去債務の概要
当組合の一部の建物に使用されている有害物質を除去する義務に関して、資産除去債務を計上しています。また、建物の一部は、設置の際に土地所有者との事業用定期借地権契約を締結しており、賃借期間終了による原状回復義務に関し資産除去債務を計上していません。
- ② 当該資産除去債務の金額の算定方法
資産除去債務の見積りにあたり、支出までの見込期間は0年～3年、割引率は0.0%～2.2%を採用しています。
- ③ 当事業年度末における当該資産除去債務の総額の増減
- | | |
|------------|----------|
| 期首残高 | 8,025 千円 |
| 時の経過による調整額 | 23 千円 |
| 期末残高 | 8,048 千円 |

(2) 貸借対照表に計上している以外の資産除去債務

当組合は、事業所等に関して、不動産賃借契約に基づき、退去時における原状回復に係る義務を有していますが、当該事業所等は当組合が事業を継続する上で必須の施設であり、現時点で除去は想定していません。また、移転が行われる予定もないことから、資産除去債務の履行時期を合理的に見積ることができません。そのため、当該義務に見合う資産除去債務を計上していません。

12. その他の注記

(1) リース会計基準に基づく注記

- ① オペレーティング・リース
ファイナンス・リース取引以外の、所有権が当組合に移転しないオペレーティング・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっています。なお、未経過リース料は下記のとおりです。
- | | |
|--------------|-----------|
| 未経過リース料残高相当額 | |
| 1年以内 | 5,046 千円 |
| 1年超 | 12,106 千円 |
| 合計 | 17,153 千円 |
- 上記未経過リース料は、解約不能なオペレーティング・リース取引の未経過リース料と解約可能なオペレーティング・リース取引の解約金の合計額です。

■ 剰余金処分計算書

(単位：千円)

項 目	令和3年3月期 (総代会承認日 令和3年6月10日)		令和4年3月期 (総代会承認日 令和4年6月10日)	
	I 当期末処分剰余金		1,517,159	
II 剰余金処分量		1,055,786		398,425
利益準備金	110,000		40,000	
出資配当金	28,088		28,274	
事業利用分量配当金	17,698		17,204	
任意積立金	900,000		312,946	
うち目的積立金	900,000		312,946	
うち特別積立金	—		—	
III 次期繰越剰余金		461,372		390,655

次期繰越剰余金には、営農指導、生活・文化改善事業の費用に充てるための繰越金が、令和3年3月期には28,000千円、令和4年3月期には9,000千円、それぞれ含まれています。

注1：出資配当の基準 令和3年3月期 1% 令和4年3月期 1%

注2：事業利用分量配当金は、出資者本人の組合利用高に応じて下記の基準で配当しています。

令和3年3月期： 定期貯金、定期積金（平残） 100,000円に対し 10.0円
 長期共済（保障額） 1,000,000円に対し 30.0円

令和4年3月期： 定期貯金、定期積金（平残） 100,000円に対し 10.0円
 長期共済（保障額） 1,000,000円に対し 30.0円

各種事業の状況

信用事業の状況

注：貸出金は、貸付留保金を控除していません。

貯 金

貯金の科目別の平均残高と構成比

(単位：千円、%)

種 類	令和3年3月期		令和4年3月期		増 減
	平均残高	構成比	平均残高	構成比	
流 動 性 貯 金	152,512,882	54.7	166,558,942	58.6	14,046,060
定 期 性 貯 金	126,287,713	45.3	117,580,516	41.4	△8,707,197
合 計	278,800,595	100.0	284,139,458	100.0	5,338,863

注1：流動性貯金＝当座貯金＋普通貯金＋貯蓄貯金＋通知貯金＋別段貯金＋納税準備貯金

注2：定期性貯金＝定期貯金＋積立定期貯金＋定期積金

定期貯金残高の内訳

(単位：千円、%)

種 類	令和3年3月期		令和4年3月期		増 減
	残 高	構成比	残 高	構成比	
定 期 貯 金	118,387,718	100.0	108,099,167	100.0	△10,288,551
うち固定自由金利定期	118,384,520	100.0	108,095,969	100.0	△10,288,551
うち変動自由金利定期	3,198	0.0	3,198	0.0	0

注1：固定自由金利定期：預入時に満期日までの利率が確定する自由金利定期貯金

注2：変動自由金利定期：預入期間中の市場金利の変化に応じて金利が変動する自由金利定期貯金

貸 出 金

※貸出金には、貸付留保金を控除していません。

貸出金の科目別の平均残高と構成比

(単位：千円、%)

種 類	令和3年3月期		令和4年3月期		増 減
	平均残高	構成比	平均残高	構成比	
証 書 貸 付 金	60,019,483	99.6	63,438,678	99.6	3,419,195
金 融 機 関 貸 付 金	—	—	—	—	—
当 座 貸 越	241,234	0.4	225,907	0.4	△15,327
合 計	60,260,717	100.0	63,664,585	100.0	3,403,868

貸出金の金利条件別の内訳

(単位：千円、%)

種 類	令和3年3月期		令和4年3月期		増 減
	残 高	構成比	残 高	構成比	
固 定 金 利 貸 出	30,486,082	49.2	30,123,878	46.1	△362,204
変 動 金 利 貸 出	31,433,713	50.8	35,187,515	53.9	3,753,801
合 計	61,919,796	100.0	65,311,393	100.0	3,391,597

貸出金の担保別の残高と構成比

(単位：千円、%)

種 類	令和3年3月期		令和4年3月期		増 減
	残 高	構成比	残 高	構成比	
貯金・積金担保	296,009	0.5	247,058	0.4	△48,951
不動産担保	1,162,704	1.9	904,294	1.4	△258,409
その他の担保	126,763	0.2	91,017	0.1	△35,746
計	1,585,477	2.6	1,242,370	1.9	△343,107
農業信用基金協会保証	24,421,228	39.4	25,395,848	38.9	974,619
その他の保証	11,060,943	17.9	13,220,809	20.2	2,159,865
計	35,482,172	57.3	38,616,657	59.1	3,134,485
信用	24,852,146	40.1	25,452,365	39.0	600,219
合計	61,919,796	100.0	65,311,393	100.0	3,391,597

貸出金の用途別の内訳

(単位：千円、%)

種 類	令和3年3月期		令和4年3月期		増 減
	残 高	構成比	残 高	構成比	
設備資金	59,654,490	96.3	62,427,261	95.6	2,772,770
運転資金	2,265,305	3.7	2,884,131	4.4	618,826
合計	61,919,796	100.0	65,311,393	100.0	3,391,597

業種別の貸出金残高と構成比

(単位：千円、%)

種 類	令和3年3月期		令和4年3月期		増 減
	残 高	構成比	残 高	構成比	
農業	3,109,426	5.0	3,023,664	4.6	△85,762
林業	1,751	0.0	1,352	0.0	△399
漁業	3,307	0.0	36,113	0.1	32,805
鉱業	176,008	0.3	171,145	0.3	△4,862
建設業	3,064,829	4.9	3,174,853	4.9	110,023
製造業	3,382,364	5.5	3,633,896	5.6	251,531
電気・ガス・熱供給・水道業	847,157	1.4	470,099	0.7	△377,058
運輸業	2,291,495	3.7	2,171,204	3.3	△120,290
卸売・小売業	1,590,810	2.6	1,654,315	2.5	63,505
金融・保険業	529,553	0.9	562,385	0.9	32,832
不動産業	17,904,077	28.9	17,859,388	27.3	△44,689
サービス業	6,335,675	10.2	7,124,466	10.9	788,791
地方公共団体	1,739,071	2.8	2,214,332	3.4	475,260
その他	20,944,265	33.8	23,214,175	35.5	2,269,909
合計	61,919,796	100.0	65,311,393	100.0	3,391,597

主要な農業関係の貸出金残高（営農類型別）

（単位：千円、％）

種 類	令和3年3月期		令和4年3月期		増 減
	残 高		残 高		
農 業	625,215		572,596		△52,618
穀 作	224,882		216,413		△8,469
野 菜 ・ 園 芸	191,226		163,081		△28,144
果 樹 ・ 樹 園 農 業	66,087		66,139		51
工 芸 作 物	—		—		—
養 豚 ・ 肉 牛 ・ 酪 農	800		4,280		3,480
そ の 他 農 業	142,218		122,681		△19,537
農 業 関 連 団 体 等	—		—		—
合 計	625,215		572,596		△52,618

注1：農業関係の貸出金とは、農業者、農業法人及び農業関連団体等に対する農業生産・農業経営に必要な資金や、農産物の生産・加工・流通に係る事業に必要な資金等が該当します。

なお、前記の業種別の貸出金残高の「農業」は、農業者や農業法人等に対する貸出金の残高です。

注2：「その他農業」には、複合経営で主たる業種が明確に位置づけられない者、農業サービス業、農業所得が従となる農業者等が含まれています。

注3：「農業関連団体等」には、JAや全農とその子会社等が含まれています。

主要な農業関係の貸出金残高（資金種類別）

（単位：千円、％）

種 類	令和3年3月期		令和4年3月期		増 減
	残 高		残 高		
プ ロ パ ー 資 金	478,831		444,232		△34,598
農 業 制 度 資 金	146,384		128,364		△18,019
農業近代化資金	140,166		124,447		△15,718
その他制度資金	6,218		3,917		△2,301
合 計	625,215		572,596		△52,618

注1：プロパー資金とは、当組合原資の資金を融資しているもののうち、制度資金以外のものをいいます。

注2：農業制度資金には、①地方公共団体が直接的または間接的に融資するもの、②地方公共団体が利子補給等を行うことでJAが低利で融資するもの、③日本政策金融公庫が直接融資するものがあり、ここでは①の転貸資金と②を対象としています。

注3：その他制度資金には、農業経営改善促進資金（スーパーS資金）や農業経営負担軽減支援資金などが該当します。

主要な農業関係の貸出金残高（受託貸付金）

（単位：千円、％）

種 類	令和3年3月期		令和4年3月期		増 減
	残 高		残 高		
日 本 政 策 金 融 公 庫 資 金	—		—		—
そ の 他	—		—		—
合 計	—		—		—

注：日本政策金融公庫資金は、農業（旧農林漁業金融公庫）に係る資金をいいます。

有 価 証 券

有価証券の種類別の平均残高と構成比

（単位：千円、％）

種 類	令和3年3月期		令和4年3月期		増 減
	平均残高	構成比	平均残高	構成比	
国 債	6,850,214	59.3	8,255,824	59.5	1,405,610
地 方 債	3,104,766	26.9	3,083,244	22.2	△21,522
そ の 他 の 証 券	1,599,730	13.8	2,539,931	18.3	940,201
合 計	11,554,710	100.0	13,878,999	100.0	2,324,289

商品有価証券の種類別の平均残高と構成比

該当する取引はありません。

有価証券の残存期間別の残高

令和3年3月期

(単位：千円)

種類	1年以内	1年超5年以内	5年超10年以内	10年超	期間の定めのないもの	合計
国債	400,000	—	—	6,500,000	—	6,900,000
地方債	—	200,000	1,700,000	900,000	—	2,800,000
政府保証債	—	100,000	—	200,000	—	300,000
特別法人債	—	—	—	200,000	—	200,000
社債	—	—	400,000	700,000	—	1,100,000
受益証券	—	—	—	300,000	—	300,000
合計	400,000	300,000	2,100,000	8,800,000	—	11,600,000

令和4年3月期

(単位：千円)

種類	1年以内	1年超5年以内	5年超10年以内	10年超	期間の定めのないもの	合計
国債	—	—	—	10,500,000	—	10,500,000
地方債	—	200,000	1,700,000	1,200,000	—	3,100,000
政府保証債	—	100,000	—	200,000	—	300,000
特別法人債	—	—	—	200,000	—	200,000
社債	—	100,000	500,000	1,300,000	—	1,900,000
受益証券	—	—	600,000	—	—	600,000
合計	—	400,000	2,800,000	13,400,000	—	16,600,000

保有有価証券の取得価額又は契約価額、時価及び評価損益

【1】有価証券

1 売買目的有価証券

当JAは、令和3年3月期及び令和4年3月期における売買目的有価証券の残高はありません。

2 満期保有目的の債券で時価のあるもの

(単位：千円)

種類	令和3年3月期					令和4年3月期				
	貸借対照表計上額	時価	差額	うち益	うち損	貸借対照表計上額	時価	差額	うち益	うち損
国債	2,759,105	2,700,180	△58,925	17,040	75,965	2,963,707	2,773,050	△190,657	6,842	197,500
地方債	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
政府保証債	199,735	205,840	6,105	6,105	—	199,750	201,580	1,829	1,829	—
合計	2,958,840	2,906,020	△52,820	23,145	75,965	3,163,457	2,974,630	△188,827	8,672	197,500

注1：時価は、期末日における市場価格等に基づいております。

3 その他有価証券で時価のあるもの

(単位：千円)

種類	令和3年3月期					令和4年3月期				
	取得原価(償却原価)	貸借対照表計上額	評価差額	うち益	うち損	取得原価(償却原価)	貸借対照表計上額	評価差額	うち益	うち損
債券	8,647,972	8,639,850	△8,122	150,602	158,724	13,424,465	12,977,160	△447,305	96,525	543,830
国債	4,065,243	3,972,740	△92,503	28,299	120,802	7,449,154	7,066,900	△382,254	9,012	391,267
地方債	2,873,311	2,974,500	101,189	114,653	13,464	3,163,500	3,200,950	37,449	84,022	46,572
政府保証債	100,000	102,120	2,120	2,120	—	100,000	101,180	1,180	1,180	—
特別法人債	200,000	196,080	△3,920	1,810	5,730	200,000	188,560	△11,440	—	11,440
社債	1,109,418	1,094,500	△14,918	3,720	18,638	1,911,810	1,850,350	△61,460	2,310	63,770
受益証券	300,000	299,910	△90	—	90	600,000	569,220	△30,780	—	30,780
合計	8,647,972	8,639,850	8,639,850	△8,122	158,724	13,424,465	12,977,160	△447,305	96,525	543,830

注1：時価は、期末日における市場価格等に基づいております。

4 子会社・子法人等株式及び関連法人等株式で時価のあるもの
当JAは、子会社・子法人等株式及び関連法人等株式で、時価のあるものはありません。

5 市場価格のない株式等の主な内容と貸借対照表計上額

(単位：千円)

	令和3年3月期	令和4年3月期
満期保有目的の債券	—	—
子会社・子法人及び関連法人株式 子会社株式	30,000	30,000
その他有価証券		
(株)埼玉県農協総合情報センター	5,880	5,880
(株)農協観光	0	0
(株)日本農業新聞	50	50
(株)むさしの村	30,591	30,591
(株)新しい村	1,000	1,000
(株)JAエネルギー埼玉	15,600	15,600

【2】 金銭の信託

当JAは、運用目的・満期保有目的・その他の金銭の信託に係る契約はありません。

農協法に基づく開示債権の状況及び 金融再生法開示債権区分に基づく債権の保全状況

令和3年3月期

(単位:千円)

債権区分	債権額	保 全 額		
		担保・保証等	貸倒引当金	合計
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	67,664	67,664	—	67,664
危険債権	254,577	229,491	19,876	249,367
要管理債権	—	—	—	—
三月以上延滞債権	—	—	—	—
貸出条件緩和債権	—	—	—	—
小計	322,241	297,155	19,876	317,032
正常債権	61,633,589			
合計	61,955,831			

令和4年3月期

(単位:千円)

債権区分	債権額	保 全 額		
		担保・保証等	貸倒引当金	合計
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	41,709	41,709	—	41,709
危険債権	219,627	197,190	17,187	214,378
要管理債権	—	—	—	—
三月以上延滞債権	—	—	—	—
貸出条件緩和債権	—	—	—	—
小計	261,336	238,899	17,187	256,087
正常債権	65,086,656			
合計	65,347,992			

(注) 1. 破産更生債権及びこれらに準ずる債権：破産手続開始、更生手続開始、再生手続開始の申立て等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権をいいます。

2. 危険債権：債務者が経営破綻の状態には至っていないが、財政状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取りができない可能性の高い債権をいいます。

3. 要管理債権：4. 「三月以上延滞債権」と5. 「貸出条件緩和債権」の合計額をいいます。

4. 三月以上延滞債権：元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から三月以上遅延している貸出金で、破産更生債権及びこれらに準ずる債権及び危険債権に該当しないものをいいます。

5. 貸出条件緩和債権：債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金で、破産更生債権及びこれらに準ずる債権、危険債権及び三月以上延滞債権に該当しないものをいいます。
6. 正常債権：債務者の財政状態及び経営成績に特に問題がないものとして、上記に掲げる債権以外のものに区分される債権をいいます。

貸倒引当金

貸倒引当金の期末残高及び期中増減額

(単位：千円)

		期首残高	期中増加額	期中減少額		期末残高
				目的使用	その他	
一般 貸倒引当金	令和3年3月期	184,147	176,615	—	184,147	176,615
	令和4年3月期	176,615	185,920	—	176,615	185,920
個別 貸倒引当金	令和3年3月期	26,832	19,876	—	26,832	19,876
	令和4年3月期	19,876	17,187	—	19,876	17,187
合 計	令和3年3月期	210,980	196,492	—	210,980	196,492
	令和4年3月期	196,492	203,108	—	196,492	203,108

注1：貸倒引当金は、信用事業に係る引当金ですので、貸借対照表の残高とは異なります。

注2：個別貸倒引当金とは、自己査定に基づき、「破綻懸念先」「実質破綻先」「破綻先」に区分した債務者に係る貸出金について、所定の担保等処分可能見込額（保証による回収可能額を含む。）を、債権現在額から控除した残額を計上したものです。

また、一般貸倒引当金は、前記以外の債権について、過去の一定期間の貸倒実績率を乗じて計上したものです。

貸出金償却額

(単位：千円)

種 類	令和3年3月期	令和4年3月期
貸出金償却額	—	—

注：貸出金償却は、すでに個別貸倒引当金を引き当てていた債権について、償却額と引当金戻入額を相殺した残額を表示しています。

参考

＜金融再生法による開示債権及びリスク管理債権のイメージ図＞

＜自己査定債務者区分＞

対象債権	信用事業 総与信		信用事業 以外 の 与信
	貸出金	その他の 債権	
破綻先	破綻先	先	
	実質破綻先	先	
	破綻懸念先	先	
要注意先	要管理先		
	その他要注意先		
正常先	正常先		

- 破綻先
法的・形式的な経営破綻の事実が発生している債務者
- 実質破綻先
法的・形式的な経営破綻の事実は発生していないものの、深刻な経営難の状態にあり、再建の見通しがない状況にあると認められる等実質的に経営破綻に陥っている債務者
- 破綻懸念先
現状経営破綻の状況にはないが、経営難の状態にあり、経営改善計画等の進捗状況が芳しくなく、今後経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる債務者
- 要管理先
要注意先の債務者のうち当該債務者の債権の全部または一部が次に掲げる要管理先債権である債務者
 - i 3か月以上延滞債権
元金または利息の支払いが、約定支払日の翌日を起算日として3か月以上延滞している貸出債権
 - ii 貸出条件緩和債権
経済的困難に陥った債務者の再建又は支援をはかり、当該債権の回収を促進すること等を目的に、債務者に有利な一定の譲歩を与える約定条件の改定等を行った貸出債権
- その他の要注意先
要管理先以外の要注意先に属する債務者
- 正常先
業況が良好、かつ、財務内容にも特段の問題がないと認められる債務者

＜金融再生法債務者区分＞

信用事業 総与信	信用事業 以外 の 与信	
		貸出金
破産更生債権及びこれらに準ずる債権		
		危険債権
		要管理債権
正常債権		

- 破産更生債権及びこれらに準ずる債権
破産手続開始、更生手続開始、再生手続開始の申立て等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権
- 危険債権
債務者が経営破綻の状態には至っていないが、財政状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取りができない可能性の高い債権
- 要管理債権
3か月以上延滞債権及び貸出条件緩和債権（経済的困難に陥った債務者の再建又は支援を図り、当該債権の回収を促進すること等を目的に、債務者に有利な一定の譲歩を与える約定条件の改定等を行った貸出債権）
- 正常債権
債務者の財政状態及び経営成績に特に問題がないものとして、同項第一号から第三号までに掲げる債権以外のものに区分される債権

●信用事業総与信に含まれる「その他の債権」とは、信用未収利息・信用仮払金・債務未返勘定勘定などが該当します。

＜リスク管理債権＞

信用事業 総与信	信用事業 以外 の 与信	
		貸出金
破綻先債権		
		延滞債権
		3か月以上延滞債権
		貸出条件緩和債権

- 破綻先債権
元本又は利息の支払の遅延が相当期間継続していることその他の事由により元本又は利息の取立て又は弁済の見込みがないものとして未収利息を計上しなかった貸出金（貸倒償却を行った部分を除く。以下「未収利息不計上貸出金」という。）のうち、法人税法施行令第九十六条第一項第三号のイからホまでに掲げる事由又は同項第四号に規定する事由が生じている貸出金
 - 延滞債権
未収利息不計上貸出金であって、破綻先債権及び債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として利息の支払を猶予した貸出金以外の貸出金
 - 3か月以上延滞債権
元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から3か月以上遅延している貸出金（破綻先債権及び延滞債権を除く）
 - 貸出条件緩和債権
債務者の経営再建等を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金（破綻先債権、延滞債権及び3か月以上延滞債権を除く）
- 令和2年12月23日に公布された施行規則の改正により、リスク管理債権と金融再生法開示債権が一本化され、従来のリスク管理債権の範囲や債券の種類は、金融再生法開示債権と実質的に同一となりました（令和4年3月31日施）。

内国為替取扱実績

(単位：件、千円)

種 類		令和3年3月期		令和4年3月期	
		仕 向	被仕向	仕 向	被仕向
送金・振込為替	件数	35,131	287,788	35,003	286,833
	金額	36,369,144	63,465,680	34,318,466	66,355,767
代金取立為替	件数	—	—	3	1
	金額	—	—	1,747	1,000
雑為替	件数	1,197	808	1,077	796
	金額	835,293	599,445	519,713	470,295
合計	件数	36,328	288,596	36,083	287,630
	金額	37,204,437	64,065,125	34,839,926	66,827,062

信用事業関連経営指標

利益総括表

(単位：千円、%)

種 類	令和3年3月期	令和4年3月期	増 減
資 金 運 用 収 支	1,696,738	1,677,301	△19,437
資金運用収益	1,714,092	1,683,618	△30,474
資金運用費用	17,354	6,317	△11,037
役 務 取 引 等 収 支	52,292	48,302	△3,990
役務取引等収益	66,583	62,634	△3,949
役務取引等費用	14,290	14,332	42
そ の 他 信 用 事 業 収 支	△119,234	△153,978	45,256
その他信用事業収益	35,789	25,387	△10,402
その他信用事業費用	155,024	179,365	24,341
信 用 事 業 粗 利 益	1,629,795	1,571,625	△58,170
信 用 事 業 粗 利 益 率	0.58%	0.55%	△0.03%
事 業 粗 利 益	3,454,762	3,348,292	△106,470
事 業 粗 利 益 率	1.09%	1.10%	0.01%
事 業 純 益	674,887	622,605	△52,282
実 質 事 業 純 益	674,887	631,920	△42,967
コ ア 事 業 純 益	663,454	629,344	△34,110
コ ア 事 業 純 益 (投資信託解約損益を除く。)	663,454	629,344	△34,110

注： 1. 信用事業粗利益＝信用事業収益（その他経常収益を除く。）
 －信用事業費用（その他経常費用を除く。）
 ＋金銭の信託見合費用

信用事業粗利益率＝信用事業粗利益／信用事業資産（債務保証見返を除く）平均残高×100

2. 事業粗利益＝事業総利益
 －信用事業に係るその他経常収益
 －信用事業以外に係るその他の収益
 ＋信用事業に係るその他経常費用
 ＋信用事業以外に係るその他の費用
 ＋事業外収益の受取出资配当金
 ＋金銭の信託運用見合費用

事業粗利益率＝事業粗利益／総資産平均残高（債務保証見返を除く）×100

3. 事業純益＝事業粗利益－事業管理費－一般貸倒引当金繰入額

4. 実質事業純益＝事業純益＋一般貸倒引当金繰入額

5. コア事業純益＝実質事業純益－国債等債券関係損益

6. コア事業純益（投資信託解約損益を除く。）＝コア事業純益－投資信託解約損益

資金運用収支の内訳（貸付留保金含む）

（単位：千円、％）

区 分	令和3年3月期			令和4年3月期		
	平均残高	利息	利回り	平均残高	利息	利回り
資金運用勘定	278,715,716	1,714,092	0.61	284,903,314	1,683,618	0.59
うち貸出金	60,260,717	545,301	0.90	63,664,585	544,786	0.86
うち有価証券	11,554,710	73,769	0.64	13,878,999	81,681	0.59
うち預 金	206,900,289	1,095,021	0.53	207,359,730	1,057,151	0.51
資金調達勘定	278,807,901	17,354	0.01	284,144,499	6,317	0.00
うち貯金・定積	278,800,595	17,354	0.01	284,139,458	6,317	0.00
うち借入金	7,306	—	—	5,041	—	—
総資金利ざや			0.17			0.17

注：総資金利ざや＝資金運用利回り－資金調達原価（資金調達利回り＋経費率）

経費率＝信用部門の事業管理費／資金調達勘定平均残高（貯金＋定期積金＋借入金）×100

受取・支払利息の増減

（単位：千円）

	令和3年3月期 増 減 額	令和4年3月期 増 減 額		令和3年3月期 増 減 額	令和4年3月期 増 減 額
受 取 利 息	△96,867	△30,474	支 払 利 息	△12,347	△11,037
うち貸出金	△14,182	△514	うち貯金・定積	△12,346	△11,037
うち有価証券	16,115	7,912	うち借入金	△1	—
うち預金	△98,799	△37,870			

注：増減額は、前年度対比です。

共済事業の状況

長期共済新契約高と保有契約高

(単位：千円)

種 類	令和3年3月期				令和4年3月期				
	新契約高		保有契約高		新契約高		保有契約高		
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	
生命系	終身共済	1,309	7,396,082	18,637	143,025,080	1,367	7,938,755	19,199	139,115,659
	定期生命共済	22	500,700	54	844,700	29	367,800	84	1,218,000
	養老生命共済	314	894,330	9,067	50,652,412	249	974,130	8,479	44,924,551
	うちこども共済	262	592,900	3,515	14,071,939	194	438,700	3,563	13,424,939
	医療共済	293	91,400	7,341	1,713,900	1,313	144,500	7,438	1,501,900
	がん共済	46		1,863	448,500	41		1,832	431,000
	定期医療共済			1,100	1,063,500			971	927,500
	介護共済	580	2,593,541	3,557	10,936,154	517	2,171,427	3,867	12,444,799
	生活障害共済	154		424		125		485	
	特定重度疾病共済	171		168		121		281	
年金共済	787		7,530	429,000	400		7,510	394,000	
建物系	建物更生共済	2,817	45,246,110	25,535	416,588,267	2,571	41,639,270	24,191	410,192,890
合 計		6,493	56,722,164	75,276	625,701,516	6,733	53,235,882	74,337	611,150,301

注：金額は、保障金額(がん共済はがん死亡共済金額、医療共済及び定期医療共済は死亡給付金額(付加された定期特約金額等を含む)、年金共済は付加された定期特約金額)を表示しています。

医療系共済の入院共済金額保有高

(単位：千円)

種 類	令和3年3月期				令和4年3月期			
	新契約高		保有高		新契約高		保有高	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
医療共済	293	1,497	7,341	39,360	1,313	81	7,438	32,769
がん共済	46	350	1,863	12,425	41	230	1,832	205,880
定期医療共済	—	—	1,100	5,426	—	—	971	4,779
合 計	339	1,847	10,304	57,211	1,354	311	10,241	49,729
						182,534		205,880

注：金額は、医療共済と合計は上段に入院共済金額及び下段に治療共済金額、がん共済と定期医療共済は入院共済金額を表示しています。

介護共済・生活障害共済の共済保有高

(単位：千円)

種 類	令和3年3月期		令和4年3月期	
	新契約高	保有高	新契約高	保有高
介護共済	2,749,685	12,737,482	2,373,505	14,205,338
生活障害共済(一時金型)	1,008,400	2,480,600	873,500	2,914,200
生活障害共済(定期年金型)	78,300	252,560	82,100	288,960
特定重度疾病共済	504,200	493,200	346,000	813,700

注：金額は、介護共済は介護共済金額、生活障害共済は生活障害共済金額又は生活障害年金額を表示しています。

年金共済の年金保有額

(単位：千円)

種 類	令和3年3月期				令和4年3月期			
	新契約高		保有高		新契約高		保有高	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
年金開始前	787	1,024,056	4,911	4,322,950	400	448,084	5,068	4,502,041
年金開始後			2,619	1,606,877			2,442	1,471,499
合 計	787	1,024,056	7,530	5,929,828	400	448,084	7,510	5,973,540

注：金額は、年金金額（利率変動型年金にあたっては、最低保障年金額）を表示しています。

短期共済契約高

(単位：千円)

種 類	令和3年3月期			令和4年3月期		
	件数	金額	掛金	件数	金額	掛金
火災共済	3,013	41,800,040	39,107	2,961	41,935,360	38,858
自動車共済	15,902		625,026	15,850		624,815
傷害共済	3,419	14,061,000	1,502	4,776	16,722,000	1,403
団体定期生命共済	—	—	—	—	—	—
定額定期生命共済	8	30,000	193	6	22,000	145
賠償責任共済	590		1,217	494		995
自賠責共済	7,872		156,452	8,547		160,689
合 計	30,804		823,500	32,634		826,908

注1：金額は、保障金額を表示しています。

注2：自動車共済、賠償責任共済、自賠責共済は掛金総額です。

共済契約者数・被共済者数

(単位：人)

種 類	令和3年3月期				令和4年3月期			
	共済契約者数		被共済者数		共済契約者数		被共済者数	
	新規契約者数	保有契約者数	新規被共済者数	保有被共済者数	新規契約者数	保有契約者数	新規被共済者数	保有被共済者数
終身共済	124	12,097	259	12,602	129	12,198	275	12,669
定期生命共済	—	50	—	52	4	74	5	79
養老生命共済	13	4,224	18	4,446	6	3,765	10	3,945
こども共済	52	2,237	177	2,950	42	2,239	130	2,948
医療共済	9	5,985	19	7,076	25	6,097	38	7,193
がん共済	8	1,653	11	1,744	4	1,630	4	1,721
定期医療共済		977		1,089		869		961
医療系計	17	7,284	30	8,604	29	7,310	42	8,609
介護共済	44	2,261	99	2,338	50	2,506	115	2,581
生活障害共済	7	370	17	399	3	429	5	461
特定重度疾病共済	9	140	21	164	8	243	13	274
生命総合共済小計 (年金共済を除く)	266	18,852	621	21,874	271	18,824	595	21,750
年金共済	177	5,757	222	5,797	124	5,771	142	5,804
生命総合共済合計	443	21,245	843	24,296	395	21,255	737	24,213
建物更生共済	140	14,365			142	13,524		
自動車共済	493	10,914			469	10,937		
総合計	1,076	34,979			1,006	34,485		

注：共済契約者が複数の共済を契約した場合、契約者数（被共済者）の合計等が一致しないことがあります。

購買事業の状況

購買品目別取扱高

生産資材の取扱高

(単位：千円)

種 類	令和3年3月期			令和4年3月期		
	供給高	手数料	取扱高	供給高	手数料	取扱高
生産資材	肥料	308,336		314,225	311	2,813
	農薬	265,868		246,669	2,601	18,516
	飼料	9,563		6,770	17	1,330
	農業機械	312,717		312,161	1,292	7,351
	自動車	6,034		—	4	1,049
	燃料	177,375		202,867	—	—
	その他	324,487		252,772	6,340	81,067
小計	1,404,383		1,335,467	10,568	112,128	

生活資材の取扱高

(単位：千円)

種 類	令和3年3月期			令和4年3月期		
	供給高	手数料	取扱高	供給高	手数料	取扱高
生活物資	食品	194,464		127,372	2,025	49,495
	衣料品	2,381		271	112	1,376
	耐久消費財	126,687		23,430	9,723	118,602
	日用保健雑貨	18,336		2,952	1,225	14,946
	家庭燃料	45,765		—	8,431	63,316
	葬祭	722,042		—	71,833	722,799
	その他	725,152		541,828	7,905	54,962
	小計	1,834,829		695,856	101,258	1,025,500
購買品取扱高合計	3,239,213		2,031,324	111,826	1,137,628	

注：生活物資のその他は農産物直売所の購買品取扱高です。

販売事業の状況

受託品販売品目取扱高

(単位：千円)

種 類	令和3年3月期	令和4年3月期
米	671,830	481,773
麦・豆・雑穀	20,376	24,244
野菜	970,785	922,875
果実	621,078	671,612
花き・花木	6,147	12,494
畜産物	7,822	5,374
その他	640,480	662,610
合計	2,938,522	2,780,985

注：その他には農産物直売所の取扱高が含まれています。

買取品販売品取扱高

(単位：千円)

区 分	令和3年3月期	令和4年3月期
米	96,232	106,726
麦・豆・雑穀	—	—
野菜	—	—
果実	—	—
花き・花木	—	—
畜産物	—	—
その他	—	—
合計	96,232	106,726

その他事業の状況

指導事業収支

(単位：千円)

区 分	令和3年3月期	令和4年3月期
補 助 金	300	200
実 費 収 入	1,353	1,378
円滑化事業手数料	—	—
収 入 計	1,653	1,578
営 農 改 善 費	6,524	8,795
生 活 改 善 費	1,473	1,019
組 織 活 動 費	8,859	6,486
相 談 活 動 費	273	475
教 育 情 報 費	7,045	7,210
支 出 計	24,176	23,987
差 引	△31,416	△22,409

経営諸指標

利益率

区 分	令和3年3月期	令和4年3月期
総資産経常利益率	0.13%	0.12%
資本経常利益率	2.58%	2.35%
総資産当期純利益率	0.18%	0.05%
資本当期純利益率	3.67%	1.05%

※ 総資産経常利益率＝経常利益/総資産平均残高（債務保証見返を除く）×100

資本経常利益率＝経常利益/資本勘定平均残高×100

総資産当期純利益率＝当期剰余金（税引後）/総資産平均残高（債務保証見返を除く）×100

資本当期純利益率＝当期剰余金（税引後）/資本勘定平均残高×100

貯貸率・貯証率 ※貸出金には、貸付留保金を控除しております。

（単位：千円、％）

項 目	令和3年3月期	令和4年3月期	増 減	
貯金・積金期末残高 (A)	279,684,498	281,419,498	1,735,000	
貸出金期末残高 (B)	60,898,098	64,413,252	3,515,154	
貯貸率	期末 (B/A)	21.77%	22.88%	1.11%
	期中平均	21.61%	22.40%	0.79%

有価証券期末残高 (C)	11,598,690	16,140,617	4,541,927	
貯証率	期末 (C/A)	4.14%	5.73%	1.59%
	期中平均	4.14%	4.88%	0.74%

※ 貯貸率（期 末）＝貸出金残高/貯金残高×100

貯貸率（期中平均）＝貸出金平均残高/貯金平均残高×100

貯証率（期 末）＝有価証券残高/貯金残高×100

貯証率（期中平均）＝有価証券平均残高/貯金平均残高×100

自己資本の充実の状況

1. 自己資本の構成に関する事項

(単位：千円)

項 目	令和3年 3月期	令和4年 3月期
コア資本に係る基礎項目		
普通出資又は非累積的永久優先出資に係る組員資本の額	15,398,984	15,532,325
うち、出資金及び資本準備金の額	2,845,715	2,880,076
うち、再評価積立金の額	—	—
うち、利益剰余金の額	12,611,106	12,717,027
うち、外部流出予定額(△)	45,786	45,479
うち、上記以外に該当するものの額	△12,050	△19,300
コア資本に係る基礎項目の額に算入される引当金の合計額	178,163	187,478
うち、一般貸倒引当金コア資本算入額	178,163	187,478
うち、適格引当金コア資本算入額	—	—
適格旧資本調達手段の額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	—	—
公的機関による資本の増強に関する措置を通じて発行された資本調達手段の額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	—	—
土地再評価額と再評価直前の帳簿価額の差額の45%に相当する額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	—	—
コア資本に係る基礎項目の額 (イ)	15,577,147	15,719,804
コア資本に係る調整項目		
無形固定資産(モーゲージ・サービス・ライツに係るものを除く。)の額の合計額	14,741	15,038
うち、のれんに係るものの額	—	—
うち、のれん及びモーゲージ・サービス・ライツに係るもの以外の額	14,741	15,038
繰延税金資産(一時差異に係るものを除く。)額	—	—
適格引当金不足額	—	—
証券化取引に伴い増加した自己資本に相当する額	—	—
負債の時価評価により生じた時価評価差額であって自己資本に算入される額	—	—
前払年金費用の額	—	—
自己保有普通出資等(純資産の部に計上されるものを除く。)の額	—	—
意図的に保有している他の金融機関等の対象資本調達手段の額	—	—
少数出資金融機関等の対象普通出資等の額	—	—
特定項目に係る10%基準超過額	—	—
うち、その他金融機関等の対象普通出資等に該当するものに関連するものの額	—	—
うち、モーゲージ・サービス・ライツに係る無形固定資産に関連するものの額	—	—
うち、繰延税金資産(一時差異に係るものに限る。)に関連するものの額	—	—
特定項目に係る15%基準超過額	—	—
うち、その他金融機関等の対象普通出資等に該当するものに関連するものの額	—	—
うち、モーゲージ・サービス・ライツに係る無形固定資産に関連するものの額	—	—
うち、繰延税金資産(275/*)に関連するものの額	—	—
コア資本に係る調整項目の額 (ロ)	14,741	15,038
自己資本		
自己資本の額((イ)-(ロ)) (ハ)	15,562,406	15,704,766
リスク・アセット等		
信用リスク・アセットの額の合計額	108,015,694	108,774,847
うち、経過措置によりリスク・アセットの額に算入される額の合計額	—	—

	うち、他の金融機関等向けエクスポージャー	—	—
	うち、土地再評価額と再評価直前の帳簿価格の差額に係るものの額	—	—
	うち、上記以外に該当するものの額	—	—
	オペレーショナル・リスク相当額の合計額を8%で除して得た額	6,000,013	5,839,042
	信用リスクアセット調整額	—	—
	オペレーショナル・リスク相当額調整額	—	—
	リスク・アセット等の額の合計額 (二)	114,015,708	114,613,890
自己資本比率			
	自己資本比率 ((ハ) / (二))	13.64%	13.70%

(注)

1. 農協法第11条の2第1項第1号の規定に基づく組合の経営の健全性を判断するための基準に係る算式に基づき算出しています。
2. 当JAは、信用リスク・アセット額の算出にあっては標準的手法、適格金融資産担保の適用については信用リスク削減手法の簡便手法を、オペレーショナル・リスク相当額の算出にあたっては基礎的手法を採用しています。
3. 当JAが有するすべての自己資本とリスクを対比して、自己資本比率を計算しています。

2. 自己資本の充実度に関する事項

① 信用リスクに対する所要自己資本の額及び区分ごとの内訳

(単位：千円)

	令和3年3月期			令和4年3月期		
	エクスポージャー の期末残高	リスク・ アセット額 a	所要自己 資本額 b=a×4%	エクスポージャー の期末残高	リスク・ アセット額 a	所要自己 資本額 b=a×4%
現金	1,080,494	—	—	1,035,785	—	—
我が国の中央政府及び中央銀行向け	6,829,769	—	—	10,420,313	—	—
外国の中央政府及び中央銀行向け	—	—	—	—	—	—
国際決済銀行向け	—	—	—	—	—	—
我が国の地方公共団体向け	4,619,281	—	—	5,385,207	—	—
外国の中央政府等以外の公共部門向け	—	—	—	—	—	—
国際開発銀行向け	—	—	—	—	—	—
地方公共団体金融機構向け	100,002	—	—	100,002	—	—
我が国の政府関係機関向け	400,508	20,032	801	400,523	20,032	801
地方三公社向け	481,323	96,264	3,850	419,857	83,971	3,358
金融機関及び第一種金融商品取引業者 向け	206,523,540	41,304,708	1,652,188	200,050,418	40,010,083	1,600,403
法人等向け	2,491,851	1,937,590	77,503	3,578,254	2,575,738	103,029
中小企業等向け及び個人向け	17,731,675	12,599,656	503,986	20,525,030	14,744,380	589,775
抵当権付住宅ローン	1,819,084	625,785	25,031	1,384,291	475,278	19,011
不動産取得等事業向け	6,114	6,114	244	—	—	—
三月以上延滞等	1,636	1,942	77	906	1,224	49
取立未済手形	28,988	5,797	231	29,885	5,977	239
信用保証協会等保証付	24,436,933	2,432,041	97,281	25,411,372	2,530,859	101,234
株式会社地域経済活性化支援機構等による保証付	—	—	—	—	—	—
共済約款貸付	—	—	—	—	—	—
出資等	844,763	844,763	33,790	844,733	844,733	33,789
(うち出資等エクスポージャー)	844,763	844,763	33,790	844,733	844,733	33,789
(うち重要な出資のエクスポージャー)	—	—	—	—	—	—
上記以外	29,906,333	48,139,496	1,925,579	29,238,958	47,479,866	1,899,194
(うち他の金融機関等の対象資本等調達手段のうち対象普通出資等及びその他外部LAC関連調達手段に該当するもの以外のものに係るエクスポージャー)	—	—	—	—	—	—
(うち農林中央金庫又は農業協同組合連合会の対象資本調達手段に係るエクスポージャー)	11,949,050	29,872,625	1,194,905	11,949,050	29,872,625	1,194,905
(うち特定項目のうち調整項目に算入されない部分に係るエクスポージャー)	222,433	556,084	22,243	225,592	563,980	22,559
(うち総株主等の議決権の百分の十を超える議決権を保有している他の金融機関等に係るその他外部LAC関連調達手段に関するエクスポージャー)	—	—	—	—	—	—
(うち総株主等の議決権の百分の十を超える議決権を保有していない他の金融機関等に係るその他外部LAC関連調達手段に係る5%基準額を上回る部分に係るエクスポージャー)	—	—	—	—	—	—
(うち上記以外のエクスポージャー)	17,734,850	17,710,786	708,431	17,064,316	17,043,261	681,730
証券化	—	—	—	—	—	—
(うちSTC要件適用分)	—	—	—	—	—	—
(うち非STC適用分)	—	—	—	—	—	—
再証券化	—	—	—	—	—	—
リスク・ウェイトのみなし計算が適用されるエクスポージャー	300,000	1,500	60	600,000	2,700	108
(うちルックスルー方式)	300,000	1,500	60	600,000	2,700	108
(うちマンデート方式)	—	—	—	—	—	—
(うち蓋然性方式250%)	—	—	—	—	—	—
(うち蓋然性方式400%)	—	—	—	—	—	—
(うちフォールバック方式)	—	—	—	—	—	—
経過措置によりリスク・アセットの額に算入されるものの額	—	—	—	—	—	—

他の金融機関等の対象資本調達手段に係るエクスポージャーに係る経過措置によりリスク・アセットの額に算入されなかったものの額(△)	—	—	—	—	—	—
標準的手法を適用するエクスポージャー別計	297,602,302	108,015,694	4,320,627	299,425,540	108,774,847	4,350,993
CVAリスク相当額÷8%	—	—	—	—	—	—
中央清算機関関連エクスポージャー	—	—	—	—	—	—
合計(信用リスク・アセットの額)	297,602,302	108,015,694	4,320,627	297,425,540	108,774,847	4,350,993
オペレーショナル・リスクに対する所要自己資本額 <基礎的手法>	オペレーショナル・リスク相当額を8%で除して得た額 a`	所要自己資本額 a` × 4%	所要自己資本額 a` × 4%	オペレーショナル・リスク相当額を8%で除して得た額 a`	所要自己資本額 a` × 4%	所要自己資本額 a` × 4%
	6,000,013	240,000	240,000	5,839,042	233,561	233,561
所要自己資本額計	リスク・アセット等 (分母) 合計 a`	所要自己資本額 a` × 4%	所要自己資本額 a` × 4%	リスク・アセット等 (分母) 合計 a`	所要自己資本額 a` × 4%	所要自己資本額 a` × 4%
	114,015,708	4,560,628	4,560,628	114,613,890	4,584,555	4,584,555

(注)

- 「リスク・アセット額」の欄には、信用リスク削減効果適用後のリスク・アセット額を原エクスポージャーの種類ごとに記載しています。
- 「エクスポージャー」とは、リスクにさらされている資産(オフ・バランスを含む)のことをいい、具体的には貸出金や有価証券等が該当します。
- 「三月以上延滞等」とは、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から3カ月以上延滞している債務者に係るエクスポージャー及び「金融機関向け及び第一種金融商品取引業者向け」、「法人等向け」等においてリスク・ウェイトが150%になったエクスポージャーのことであります。
- 「出資等」とは、出資等エクスポージャー、重要な出資のエクスポージャーが該当します。
- 「証券化(証券化エクスポージャー)」とは、原資産に係る信用リスクを優先劣後構造のある二以上のエクスポージャーに階層化し、その一部または全部を第三者に移転する性質を有する取引に係るエクスポージャーのことであります。
- 「経過措置によりリスク・アセットの額に算入されるもの」とは、土地再評価差額金に係る経過措置によるリスク・アセットの額及び調整項目に係る経過措置によりなお従前の例によるものとしてリスク・アセットの額に算入したものが該当します。
- 「上記以外」には、未決済取引・その他の資産(固定資産等)・間接清算参加者向け・信用リスク削減手法として用いる保証またはクレジットデリバティブの免責額が含まれます。
- 当JAでは、オペレーショナル・リスク相当額の算出に当たって基礎的手法を採用しています。

<オペレーショナル・リスク相当額を8%で除して得た額の算出方法(基礎的手法)>

$$\frac{\text{粗利益(直近3年間のうち正の値の合計額)} \times 15\%}{\text{直近3年間のうち粗利益が正の値であった年数}} \div 8\%$$

3. 信用リスクに関する事項

① 標準的手法に関する事項

当JAでは自己資本比率算出に係る信用リスク・アセット額は告示で定める標準的手法により算出しています。また、信用リスク・アセットの算出にあたって、リスク・ウェイトの判定に当たり使用する格付等は次のとおりです。

(ア) リスク・ウェイトの判定に当たり使用する格付は、以下の適格格付機関による依頼格付のみ使用し、非依頼格付は使用しないこととしています。

適 格 格 付 機 関
株式会社格付投資情報センター(R & I)
株式会社日本格付研究所(JCR)
ムーディーズ・インベスターズ・サービス・インク(Moody's)
S&Pグローバル・レーティング(S & P)
フィッチレーティングスリミテッド(F i t c h)

(注) 「リスク・ウェイト」とは、当該資産を保有するために必要な自己資本額を算出するための掛目のことです。

(イ) リスク・ウェイトの判定に当たり使用する適格格付機関の格付またはカントリー・リスク・スコアは、次のとおりです。

エクスポージャー	適 格 格 付 機 関	カントリー・リスク・スコア
金融機関向けエクスポージャー		日本貿易保険
法人等向けエクスポージャー(長期)	R&I, Moody's, JCR, S&P, Fitch	
法人等向けエクスポージャー(短期)	R&I, Moody's, JCR, S&P, Fitch	

② 信用リスクに関するエクスポージャー（地域別、業種別、残存期間別）及び三月以上延滞エクスポージャーの期末残高

（単位：千円）

	令和3年3月期				令和4年3月期				
	信用リスクに関するエクスポージャーの残高	うち		三月以上延滞エクスポージャー	信用リスクに関するエクスポージャーの残高	うち		三月以上延滞エクスポージャー	
		貸出金等	債券			貸出金等	債券		
国内	297,302,302	62,013,411	11,321,512	1,632	298,825,540	65,405,624	16,007,066	906	
国外	—	—	—	—	—	—	—	—	
地域別残高計	297,302,302	62,013,411	11,321,512	1,632	298,825,540	65,405,624	16,007,066	906	
法人	農業	40,119	8,969	—	—	38,927	7,777	—	—
	製造業	202,871	—	202,871	—	402,985	—	402,985	—
	建設・不動産	1,801,761	1,801,761	—	—	1,793,745	1,793,745	—	—
	電気・ガス・熱供給・水道業	115,973	—	100,343	—	417,811	—	402,211	—
	運輸・通信業	709,351	1,438	707,913	—	808,569	1,031	807,538	—
	金融・保険業	218,801,850	—	300,271	—	212,329,623	—	300,269	—
	卸売・小売・飲食・サービス業	396,206	73,976	100,230	—	579,235	54,271	302,964	—
	日本国政府・地方公共団体	11,449,050	1,739,493	9,709,557	—	15,805,520	2,214,747	13,590,773	—
	上記以外	925,159	148,851	200,324	—	1,142,796	366,488	200,324	—
	個人	58,239,257	58,238,919	—	1,632	60,967,651	60,967,561	—	906
その他	4,620,699	—	—	—	4,538,672	—	—	—	
業種別残高計	297,302,302	62,013,411	11,321,512	1,632	298,825,540	65,405,624	16,007,066	906	
残存期間別残高計	297,302,302	62,013,411	11,321,512	1,632	298,825,540	65,405,624	16,007,066	906	
1年以下	207,656,116	732,211	401,364	—	200,716,568	666,149	—	—	
1年超3年以下	1,114,977	1,014,975	100,002	—	1,197,278	896,730	300,548	—	
3年超5年以下	1,817,551	1,617,017	200,533	—	1,841,435	1,741,363	100,071	—	
5年超7年以下	2,355,016	1,732,871	622,144	—	3,162,106	1,499,819	1,662,287	—	
7年超10年以下	4,729,533	3,177,858	1,551,675	—	3,401,077	2,796,932	604,145	—	
10年超	61,830,192	53,384,400	8,445,791	—	70,811,457	57,471,443	13,340,014	—	
期間の定めのないもの	17,798,914	355,076	—	—	17,695,617	333,186	—	—	
残存期間別残高計	297,302,302	62,013,411	11,321,512	1,632	298,825,540	65,405,624	16,007,066	906	

（注）

1. 信用リスクに関するエクスポージャーの残高には、資産（自己資本控除となるもの、リスク・ウェイトのみなし計算が適用されるエクスポージャーに該当するもの、証券化エクスポージャーに該当するものを除く）並びにオフ・バランス取引及び派生商品取引の与信相当額を含みます。
2. 「貸出金等」とは、貸出金のほか、コミットメント及びその他のデリバティブ以外のオフ・バランスシート・エクスポージャーを含んでいます。「コミットメント」とは、契約した期間及び融資枠の範囲でお客様のご請求に基づき、金融機関が融資を実行する契約のことをいいます。「貸出金等」にはコミットメントの融資可能残高も含めています。
3. 「三月以上延滞エクスポージャー」には、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から3カ月以上延滞しているエクスポージャーをいいます。
4. 「その他」には、ファンドのうち個々の資産の把握が困難な資産や固定資産等が該当します。

③ 貸倒引当金の期末残高及び期中の増減額

（単位：千円）

	令和3年3月期					令和4年3月期				
	期首残高	期中増加額	期中減少額		期末残高	期首残高	期中増加額	期中減少額		期末残高
			目的使用	その他				目的使用	その他	
一般貸倒引当金	185,922	178,163	—	185,922	178,163	178,163	187,478	—	178,163	187,478
個別貸倒引当金	30,422	20,217	2,327	28,094	20,217	20,217	17,277	—	20,217	17,277

④ 業種別の個別貸倒引当金の期末残高・期中増減額及び貸出金償却の額

(単位：千円)

区 分	令和3年3月期						令和4年3月期					
	期首 残高	期中 増加額	期中減少額		期末残高	貸出金償却	期首 残高	期中 増加額	期中減少額		期末残高	貸出金償却
			目的使用	その他					目的使用	その他		
国 内	30,422	20,217	2,327	28,094	20,217	—	20,217	17,277	—	20,217	17,277	—
国 外	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
地域別計	30,422	20,217	2,327	28,094	20,217	—	20,217	17,277	—	20,217	17,277	—
法 人	2,951	—	2,327	624	—	—	—	—	—	—	—	—
卸売・小売・飲食・ サービス業	2,951	—	2,327	624	—	—	—	—	—	—	—	—
個 人	27,470	20,217	—	27,470	20,217	—	20,217	17,277	—	20,217	17,277	—
業種別計	30,422	20,217	2,327	28,094	20,217	—	20,217	17,277	—	20,217	17,277	—

(注) 貸出金償却は、すでに個別貸倒引当金を引き当てていた債権について、償却額と引当金戻入額を相殺した残額を表示しています。

⑤ 信用リスク削減効果勘案後の残高及びリスク・ウェイト1250%を適用する残高

(単位：千円)

		令和3年3月期			令和4年3月期		
		格付 あり	格付 なし	計	格付 あり	格付 なし	計
信用リス ク削減効 果勘案後 残高	リスク・ウェイト0%	—	13,363,271	13,363,271	—	17,597,059	17,597,059
	リスク・ウェイト2%	—	—	—	—	—	—
	リスク・ウェイト4%	—	—	—	—	—	—
	リスク・ウェイト10%	—	24,520,728	24,520,728	—	25,508,911	25,508,911
	リスク・ウェイト20%	100,151	207,204,892	207,305,044	100,151	200,664,754	200,764,906
	リスク・ウェイト35%	—	1,806,550	1,806,550	—	1,375,127	1,375,127
	リスク・ウェイト50%	910,953	1,331,015	2,241,968	1,815,615	1,311,583	3,127,199
	リスク・ウェイト75%	—	15,867,872	15,867,872	—	18,740,892	18,740,892
	リスク・ウェイト100%	100,343	19,923,744	20,024,088	—	19,535,895	19,535,895
	リスク・ウェイト150%	—	1,294	1,294	—	906	906
	リスク・ウェイト250%	—	12,171,483	12,171,483	—	12,174,642	12,174,642
	その他	—	—	—	—	—	—
リスク・ウェイト1250%	—	—	—	—	—	—	
計	1,111,447	296,190,854	297,302,302	1,915,767	296,909,773	298,825,540	

(注)

1. 信用リスクに関するエクスポージャーの残高には、資産（自己資本控除となるもの、リスク・ウェイトのみなし計算が適用されるエクスポージャーに該当するもの、証券化エクスポージャーに該当するものを除く）並びにオフ・バランス取引及び派生商品取引の与信相当額を含みます。
2. 「格付あり」にはエクスポージャーのリスク・ウェイト判定において格付を使用しているもの、「格付なし」にはエクスポージャーのリスク・ウェイト判定において格付を使用していないものを記載しています。なお、格付は適格格付機関による依頼格付のみ使用しています。
3. 経過措置によってリスク・ウェイトを変更したエクスポージャーについては、経過措置適用後のリスク・ウェイトによって集計しています。また、経過措置によってリスク・アセットを算入したのものについても集計の対象としています。
4. 1250%には、非同時決済取引に係るもの、信用リスク削減手法として用いる保証又はクレジット・デリバティブの免責額に係るもの、重要な出資に係るエクスポージャーなどリスク・ウェイト1250%を適用したエクスポージャーがあります。

4. 信用リスク削減手法に関する事項

① 信用リスク削減手法に関するリスク管理の方針及び手続の概要

当組合では、信用リスク削減手法を「自己資本比率算出要領」において定めています。

信用リスク削減手法として、「適格金融資産担保」、「貸出金と自組合貯金の相殺」、「保証」を適用しています。

適格金融資産担保付取引とは、エクスポージャーの信用リスクの全部または一部が、取引相手または取引相手のために第三者が提供する適格金融資産担保によって削減されている取引をいいます。当組合では、適格金融資産担保取引について信用リスク削減手法の簡便手法を用いています。

保証については、被保証債権の債務者よりも低いリスク・ウェイトが適用される中央政府等、本邦地方公共団体、本邦政府関係機関、外国の中央政府以外の公共部門、国際開発銀行、及び金融機関または第一種金融商品取引業者、これら以外の主体で長期格付を付与しているものを適格保証人とし、エクスポージャーのうち適格保証人に保証された被保証部分について、被保証債権のリスク・ウェイトに代えて、保証人のリスク・ウェイトを適用しています。

ただし、証券化エクスポージャーについては、これら以外の主体で保証提供時に長期格付がA-またはA3以上で、算定基準日に長期格付がBBB-またはBaa3以上の格付を付与しているものを適格保証人とし、エクスポージャーのうち適格保証人に保証された被保証部分について、被保証債権のリスク・ウエイトに代えて、保証人のリスク・ウエイトを適用しています。

また、貸出金と自組合貯金の相殺については、①取引相手の債務超過、破産手続開始の決定その他これらに類する事由にかかわらず、貸出金と自組合貯金の相殺が法的に有効であることを示す十分な根拠を有していること、②同一の取引相手との間で相殺契約下にある貸出金と自組合貯金をいずれの時点においても特定することができること、③自組合貯金が継続されないリスクが、監視及び管理されていること、④貸出金と自組合貯金の相殺後の額が、監視及び管理されていること、の条件をすべて満たす場合に、相殺契約下にある貸出金と自組合貯金の相殺後の額を信用リスク削減手法適用後のエクスポージャー額としています。

担保に関する評価及び管理方針は、一定のルールのもと定期的に担保確認及び評価の見直しを行っています。なお、主要な担保の種類は自組合貯金です。

② 信用リスク削減手法が適用されたエクスポージャーの額

(単位：千円)

区 分	令和3年3月期		令和4年3月期	
	適格金融 資産担保	保証	適格金融 資産担保	保証
地方公共団体金融機構向け	—	100,002	—	100,002
我が国の政府関係機関向け	—	200,183	—	200,198
法人等向け	11,685	—	6,056	—
中小企業等向け及び個人向け	84,465	1,502,055	57,070	1,476,177
上記以外	—	—	—	—
合 計	96,150	1,802,241	63,126	1,776,378

(注)

1. 「エクスポージャー」とは、リスクにさらされている資産（オフ・バランスを含む）のことをいい、主なものとしては貸出金や有価証券等が該当します。
2. 「三月以上延滞等」とは、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から3カ月以上延滞している債務者に係るエクスポージャー及び「金融機関向け及び第一種金融商品取引業者向け」、「法人等向け」等においてリスク・ウエイトが150%になったエクスポージャーのことです。
3. 「上記以外」には、現金・外国の中央政府及び中央銀行向け・国際決済銀行等向け・外国の中央政府等以外の公共部門向け・国際開発銀行向け・取立未済手形・未決済取引・その他の資産（固定資産等）が含まれます。

5. 派生商品取引及び長期決済期間取引の取引相手のリスクに関する事項

該当する取引はありません。

6. 出資その他これに類するエクスポージャーに関する事項

① 出資等エクスポージャーに関するリスク管理の方針及び手続の概要

「出資その他これに類するエクスポージャー」とは、主に貸借対照表上の有価証券勘定及び外部出資勘定の株式又は出資として計上されているものであり、当JAにおいては、これらを①子会社及び関連会社株式、②その他有価証券、③系統及び系統外出資に区分して管理しています。②その他の有価証券については中長期的な運用目的で保有するものであり、適切な市場リスクの把握及びコントロールにつとめています。具体的には、市場動向や経済見通しなどの投資環境分析及びポートフォリオの状況やALMなどを考慮し、理事会で運用方針を定めるとともに経営層で構成するALM委員会を定期的開催して、日常的な情報交換及び意思決定を行っています。運用部門は理事会で決定した運用方針及びALM委員会で決定された取引方針などに基づき、有価証券の売買やリスクヘッジを行っています。運用部門が行った取引については企画管理部門が適切な執行を行っているかどうかチェックし定期的にリスク量の測定を行い経営層に報告しています。

③系統出資については、会員としての総会等への参画を通じた経営概況の監督に加え、日常的な協議を通じた連合会等の財務健全化を求めており、系統外出資についても同様の対応を行っています。

なお、これらの出資その他これに類するエクスポージャーの評価等については、①その他有価証券については時価評価を行った上で、取得原価との評価差額については、「その他有価証券評価差額金」として純資産の部に計上しています。②系統及び系統外出資については、取得原価を記載し、毀損の状況に応じて外部出資等損失引当金を設定しています。また、評価等重要な会計方針の変更等があれば、注記表にその旨記載することとしています。

② 出資その他これに類するエクスポージャーの貸借対照表計上額及び時価

(単位：千円)

	令和3年3月期		令和4年3月期	
	貸借対照表計上額	時価評価額	貸借対照表計上額	時価評価額
上場	—	—	—	—
非上場	12,793,813	12,793,813	12,793,783	12,793,783
合計	12,793,813	12,793,813	12,793,783	12,793,783

③ 出資その他これに類するエクスポージャーの売却及び償却に伴う損益

(単位：千円)

令和3年3月期			令和4年3月期		
売却益	売却損	償却額	売却益	売却損	償却額
—	—	—	—	—	—

④ 貸借対照表で認識され、損益計算書で認識されない評価損益の額
(保有目的区分をその他有価証券としている株式・出資の評価損益等)

(単位：千円)

令和3年3月期		令和4年3月期	
評価益	評価損	評価益	評価損
—	5,880	—	323,849

7. リスク・ウェイトのみなし計算が適用されるエクスポージャーに関する事項

(単位：千円)

	令和3年3月期	令和4年3月期
ルックスルー方式を適用するエクスポージャー	300,000	600,000
マンドート方式を適用するエクスポージャー	—	—
蓋然性方式(250%)を適用するエクスポージャー	—	—
蓋然性方式(400%)を適用するエクスポージャー	—	—
フォールバック方式(1250%)を適用するエクスポージャー	—	—

8. 金利リスクに関する事項

① 金利リスクの算定手法の概要

金利リスクとは、金利変動に伴い損失を被るリスクで、資産と負債の金利又は期間のミスマッチが存在する中で金利が変動することにより、利益が減少ないし損失を被るリスクをいいます。

当JAでは、金利リスク量を計算する際の基本的な事項を「金利リスク量計算要領」に、またリスク情報の管理・報告に係る事項を「余裕金運用等に係るリスク管理手続」に定め、適切なリスクコントロールにつとめています。具体的な金利リスク管理方針及び手続は以下のとおりです。

◇リスク管理の方針及び手続の概要

- ・ リスク管理及び計測の対象とする金利リスクの考え方及び範囲に関する説明

当JAでは、金利リスクを重要なリスクの一つとして認識し、適切な管理体制のもとで他の市場リスクと一体的に管理をしています。金利リスクのうち銀行勘定の金利リスク(IRRB)については、個別の管理指標の設定やモニタリング体制の整備などにより厳正な管理につとめています。

- ・ リスク管理及びリスクの削減の方針に関する説明

当JAは、リスク管理委員会のもと、自己資本に対するIRRBの比率の管理や収支シミュレーションの分析などを行いリスク削減につとめています。

- ・ 金利リスク計測の頻度

毎月末を基準日として、月次でIRRBを計測しています。

- ・ ヘッジ等金利リスクの削減手法に関する説明

当JAは、金利スワップ等のヘッジ手段を活用し金利リスクの削減につとめています。また、金利リスクに対するヘッジ会計の方法は、「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会)に規定する繰延ヘッジに依っています。

◇金利リスクの算定手法の概要

当JAでは、経済価値ベースの金利リスク量（ Δ EVE）については、金利感応ポジションに係る基準日時点のイーロドカーブに基づき計算されたネット現在価値と、標準的な金利ショックを与えたイーロドカーブに基づき計算されたネット現在価値の差により算出しており、金利ショックの幅は、上方パラレルシフト、下方パラレルシフト、スティーブ化の3シナリオによる金利ショック（通貨ごとに異なるショック幅）を適用しております。

- ・流動性貯金に割り当てられた金利改定の平均満期
流動性貯金に割り当てられた金利改定の平均満期は1.251年です。
- ・流動性貯金に割り当てられた最長の金利改定満期
流動性に割り当てられた最長の金利改定満期は5年です。
- ・流動性貯金への満期の割り当て方法(コア貯金モデル等)及びその前提
流動性貯金への満期の割り当て方法については、金融庁が定める保守的な前提を採用しています。
- ・固定金利貸出の期限前返済や定期貯金の早期解約に関する前提
固定金利貸出の期限前返済や定期貯金の早期解約について考慮していません。
- ・複数の通貨の集計方法及びその前提
通貨別に算出した金利リスクの正値を合算しています。通貨間の相関等は考慮していません。
- ・スプレッドに関する前提(計算にあたって割引金利やキャッシュ・フローに含めるかどうか)
一定の前提を置いたスプレッドを考慮してキャッシュ・フローを展開しています。なお、当該スプレッドは金利変動ショックの設定上は不変としています。
- ・内部モデルの使用等、 Δ EVE及び Δ NIIに重大な影響を及ぼすその他の前提
内部モデルは使用しておりません。
- ・計測値の解釈や重要性に関するその他の説明
該当ありません。

◇ Δ EVE及び Δ NII以外の金利リスクを計測している場合における、当該金利リスクに関する事項

- ・金利ショックに関する説明
リスク資本配賦管理としてVaRで計測する市場リスク量を算定しています。
- ・金利リスク計測の前提及びその意味(特に、農協法自己資本開示告示に基づく定量的開示の対象となる Δ EVE及び Δ NIIと大きく異なる点
特段ありません。

② 金利リスクに関する事項

(単位：百万円)

IRRBB1：金利リスク					
項番		Δ EVE		Δ NII	
		当期末	前期末	当期末	前期末
1	上方パラレルシフト	1,978	1,575	7	10
2	下方パラレルシフト	0	0	0	0
3	スティーブ化	2,368	1,923		
4	フラット化	0	0		
5	短期金利上昇	0	0		
6	短期金利低下	0	0		
7	最大値	2,368	1,923	7	10
		当期末		前期末	
8	自己資本の額	15,704		15,562	

自己資本比率の算定に関する用語解説一覧

用語	内容
自己資本比率	自己資本の額をリスク・アセット等の総額（信用リスク・アセット額及びオペレーショナル・リスク相当額）で除して得た額。国内基準を採用する金融機関では4%以上が必要とされていますが、JAバンクでは自主的な取り決めにより8%以上が必要とされています。
無形固定資産 （モーゲージ・サービング・ライツ）	住宅ローンを証券化した際に、住宅ローンから発生するキャッシュフローの管理・回収（元金、遅延損害金、担保物件の賃貸料等の債権の管理・回収業務）による手数料を受ける権利を無形固定資産として計上したものです。
エクスポージャー	リスクを有する資産並びにオフ・バランス取引及び派生商品取引（以下「資産等」といいます。）の与信相当額のことです。
リスク・ウェイト	リスクを有する資産等を保有するために必要な自己資本額を算出するためのリスクの大きさに応じた掛目のことです。
信用リスク・アセット額	エクスポージャー（リスクを有する資産等）に対して、信用リスク削減手法を適用後、対応するリスクの大きさに応じた掛目（リスク・ウェイト）を乗じて算出したものです。
所要自己資本額	リスクを有する資産等を保有するのに必要となる自己資本の額のことです。国内基準では各リスク・アセットに4%を乗じた額となります。
オペレーショナル・リスク（相当額）	金融機関の業務において不適切な処理等により生じるリスクのことを指し、不適切な事務処理により生じる事務リスクやシステムの誤作動により生じるシステムリスクなどが該当します。なお、自己資本比率の算出にあたっては、一定の手法によりオペレーショナル・リスクを数値化した額をオペレーショナル・リスク相当額として分母に加算します。
基礎的手法	新BIS規制においてオペレーショナル・リスク相当額を算出する最も簡易な手法です。1年間の粗利益に0.15を乗じた額の直近三年間の平均値によりオペレーショナル・リスク相当額を算出する方法です。1年間の粗利益は、事業総利益から信用事業に係るその他経常収益、信用事業以外の事業に係るその他の収益、国債等債券売却益・償還益、補助金受入額を控除し、信用事業に係るその他経常費用、信用事業以外の事業に係るその他の費用、国債等債権売却損・償還損・償却、役務取引等費用及び金銭の信託運用見合費用を加算して算出しています。
抵当権付住宅ローン	住宅ローンのうち、抵当権が第1順位かつ担保評価額が十分であるもののことです。
コミットメント	契約した期間・融資枠の範囲内で、お客さまのご請求に基づき、金融機関が融資を実行することを約束する契約における融資可能残額のことです。
クレジット・デリバティブ	信用リスクをヘッジ（回避・低減）するために、債務者である会社等の信用力を指標に将来受渡す損益を決める取引です。
信用リスク削減手法	金融機関が保有している信用リスクを軽減する措置であり、新BIS規制では、貯金や有価証券など一定の要件を満たす担保や保証がある場合には、担保や保証人のリスク・ウェイトに置き換えることができます。
再構築コスト	同一の取引を市場で再度構築するのに必要となるコスト（ただし0を下回らない）をいいます。
金利ショック	保有している資産や負債等に金利の変化を当てはめることです。
ΔEVE	金利リスクのうち、金利ショックに対する経済的価値の減少額として計測されるものをいいます。
ΔNII	金利リスクのうち、金利ショックに対する算出基準日から12か月を経過する日までの間の金利収益の減少額として計測されるものをいいます。
上方・下方パラレルシフト	通貨及び将来の期間ごとに、当該通貨及び当該将来の期間に応じた算出基準日時点のリスクフリー・レートに、別に定めるパラレルシフトに関する金利変動幅（下方の場合はマイナス1を乗じて得た数値）を加える金利ショックをいいます。
スティープ化	通貨及び将来の期間ごとに、当該通貨及び当該将来の期間に応じた算出基準日時点のリスクフリー・レートに、別に定める算式を用いて得た金利変動幅を加える金利ショックをいいます。

業績・財務関係の状況（連結）

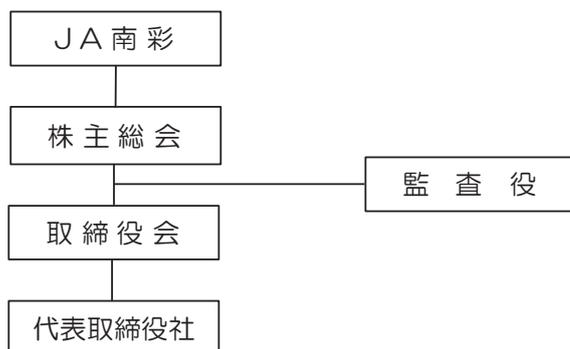
《連結子会社の概況》

JA及びその子会社の概況

JA南彩グループは、当JAと子会社1社で構成されています。当JAは、先に述べたとおり、信用業務から共済、経済、福祉など総合的に事業を展開しています。これらの業務を補完し、さらに地域に根ざした活動を展開するために子会社（株）なんさい ふぁー夢が、農作業受託業務等を行い皆さまに各種のサービスを提供しています。

なお、連結自己資本比率を算出する対象となる連結グループと連結財務諸表規則に基づき連結の範囲に含まれる会社に相違ありません。

子会社の組織図（令和4年4月1日現在）



役員（令和4年4月1日現在）

代表取締役社長	井上 薫	取締役	松岡 昌典
専務取締役	福岡 和明	監査役	木村 光之

《業績の概要と連結決算の収支状況》

業績の概要

JA南彩管内の農業は、担い手の高齢化、後継者不足等から耕作放棄地が増加するなど地域農業の維持が課題となっております。

こうした中、組合員から「自作農ができなくなった」「貸付農地が返却された」等の理由から耕作依頼が増えている状況です。これに対し、担い手の不足している地域において、補完的担い手として新たに11.7haの農地を借り受け、全体で水稻47.6ha（主食用米・米粉用米・飼料用米）と小麦10.2haを作付けしました。また農作業受託では、稲刈り作業や除草作業、耕耘作業等で49.6haを作業しました。

収支状況

（株）なんさい ふぁー夢の収支は、農作業受託事業をはじめとする各事業を合算した経常利益を795千円確保することができ、法人税等を控除した当期純利益につきましても615千円を計上することができました。

連結決算の収支状況

JAと（株）なんさい ふぁー夢とを連結した財務諸表に基づく経常利益は362,492千円、期末連結剰余金については161,029千円でした。

また、連結自己資本比率は、13.70%でした。

主要な経営指標等の推移

(単位：百万円)

	平成30年3月期	平成31年3月期	令和2年3月期	令和3年3月期	令和4年3月期
連結総資産額	—	294,945	294,778	297,411	298,878
連結純資産額	—	14,894	15,060	15,440	15,255
連結経常収益	—	7,243	7,103	6,584	5,433
信用事業収益	—	2,006	1,933	1,816	1,771
共済事業収益	—	1,259	1,160	1,138	1,118
農業関連事業収益	—	2,103	2,160	2,193	1,686
その他の事業収益	—	1,874	1,848	1,436	857
連結経常利益	—	421	405	387	362
連結当期剰余金	—	294	307	551	161
連結自己資本比率	—	13.75%	13.24%	13.65%	13.70%

※ 事業区分については、「農協法施行規則」の定めによるものです。

連結財務諸表

■ 連結貸借対照表

(単位：千円)

科 目	令和3年3月期 令和3年3月31日現在	令和4年3月期 令和4年3月31日現在	科 目	令和3年3月期 令和3年3月31日現在	令和4年3月期 令和4年3月31日現在
(資産の部)			(負債の部)		
1 信用事業資産	280,093,643	281,631,564	1 信用事業負債	279,737,309	281,463,010
(1) 現金及び預金	207,623,245	201,107,191	(1) 貯金	279,684,498	281,419,498
(2) 有価証券	11,598,690	16,140,617	(2) 借入金	6,218	3,917
(3) 貸出金	60,894,378	64,409,456	(3) その他の信用事業負債	46,593	39,595
(4) その他の信用事業資産	173,810	177,384	2 共済事業負債	693,704	689,332
(5) 貸倒引当金	△ 196,480	△ 203,085	(1) 共済資金	291,314	267,637
2 共済事業資産	35,877	29,110	(2) 未経過共済付加収入	396,239	416,564
(1) その他の共済事業資産	35,877	29,110	(3) 共済未払費用	3,426	2,742
3 経済事業資産	715,270	708,009	(4) その他の共済事業負債	2,723	2,389
(1) 経済事業未収金	451,870	453,473	3 経済事業負債	408,614	500,319
(2) 経済受託債権	135,740	102,715	(1) 経済事業未払金	285,076	324,699
(3) 棚卸資産	124,658	148,403	(2) 経済受託債務	123,538	175,620
(4) その他の経済事業資産	4,697	4,846	4 雑負債	440,948	338,472
(5) 貸倒引当金	△ 1,695	△ 1,429	5 諸引当金	690,440	632,606
4 雑資産	274,174	259,577	(1) 賞与引当金	100,223	97,219
5 固定資産	3,312,102	3,177,044	(2) 退職給付引当金	563,924	504,095
(1) 有形固定資産	3,291,741	3,156,274	(3) 役員退職慰労金引当金	23,218	31,291
建物	4,059,812	3,886,882	(4) ポイント引当金	3,072	—
機械装置	846,514	852,120	負債の部合計	281,971,016	283,623,743
土地	1,654,917	1,631,351	(純資産の部)		
建設仮勘定	4,675	33,527	1 組合員資本	15,446,559	15,578,962
その他有形固定資産	1,630,584	1,521,239	(1) 出資金	2,845,715	2,880,076
減価償却累計額	△ 4,904,762	△ 4,768,847	(2) 利益剰余金	12,612,945	12,718,236
(2) 無形固定資産	20,360	20,770	(3) 処分未済持分	△ 12,050	△ 19,300
その他の無形固定資産	20,360	20,770	(4) 子会社の所有する親組合出資金	△ 50	△ 50
6 外部出資	12,763,813	12,763,783	2 評価・換算差額等	△ 5,880	△ 323,849
(1) 外部出資	12,763,813	12,763,783	(1) その他有価証券評価差額金	△ 5,880	△ 323,849
7 繰延税金資産	216,814	309,766	純資産合計	15,440,678	15,255,113
資産の部合計	297,411,695	298,878,856	負債及び純資産の部合計	297,411,695	298,878,856

■ 連結損益計算書

(単位：千円)

科 目	令和3年3月期	令和4年3月期	科 目	令和3年3月期	令和4年3月期
	令和2年4月1日から 令和3年3月31日まで	令和3年4月1日から 令和4年3月31日まで		令和2年4月1日から 令和3年3月31日まで	令和3年4月1日から 令和4年3月31日まで
1 事業総利益	2,985,290	2,889,337	2 事業管理費	2,783,958	2,720,574
事業収益	6,273,177	5,140,744	(1) 人件費	2,063,927	2,027,493
事業費用	3,287,906	2,251,406	(2) 業務費	290,958	294,743
(1) 信用事業収益	1,816,465	1,771,630	(3) 諸税負担金	80,228	97,740
資金運用収益	1,714,092	1,683,611	(4) 施設費	334,685	292,324
(うち預金利息)	(1,015,744)	(995,591)	(5) その他事業管理費	14,158	8,272
(うち有価証券利息)	(73,769)	(81,681)	事業利益	201,332	168,763
(うち貸出金利息)	(545,301)	(544,779)	3 事業外収益	203,144	218,781
(うちその他受入利息)	(79,277)	(61,559)	(1) 受取雑利息	243	288
役員取引等収益	66,583	62,631	(2) 受取出資配当金	126,891	138,446
その他事業直接収益	11,432	2,576	(3) 賃貸料	29,308	41,963
その他経常収益	24,357	22,811	(4) 外部出資等損失引当金戻入益	613	—
(2) 信用事業費用	186,658	200,004	(5) 雑収入	46,088	38,082
資金調達費用	17,353	6,317	4 事業外費用	16,496	25,051
(うち貯金利息)	(16,403)	(5,886)	(1) 支払雑利息	546	579
(うち給付補てん備金繰入)	(781)	(358)	(2) 寄付金	46	100
(うちその他支払利息)	(168)	(71)	(3) 貸倒引当金繰入額	17	0
役員取引等費用	14,290	14,332	(4) 雑損失	15,887	24,372
その他経常費用	155,013	179,354	経常利益	387,980	362,492
(うち貸倒引当金繰入額)	—	(6,604)	5 特別利益	414,069	98,896
(うち貸倒引当金戻入益)	(△14,499)	—	(1) 固定資産処分益	379,676	97,793
信用事業総利益	1,629,806	1,571,626	(2) 一般補助金	1,622	—
(3) 共済事業収益	1,138,146	1,118,228	(3) その他特別利益	32,770	1,103
共済付加収入	1,036,303	1,029,585	6 特別損失	59,886	195,933
その他の収益	101,842	88,642	(1) 固定資産処分損	30,967	52,592
(4) 共済事業費用	84,758	111,683	(2) 固定資産圧縮損	1,622	—
共済推進費及び共済保全費	67,391	93,409	(3) 減損損失	27,296	143,340
その他の費用	17,366	18,273	税金等調整前当期利益	742,163	265,456
共済事業総利益	1,053,387	1,006,544	法人税、住民税及び事業税	172,514	72,369
(5) 購買事業収益	3,254,774	2,158,595	法人税等調整額	17,910	32,056
購買品供給高	3,236,146	2,027,276	法人税等合計	190,425	104,426
購買手数料	—	111,826	当期剰余金	551,738	161,029
その他の収益	18,628	19,491			
(6) 購買事業費用	3,005,752	1,886,765			
購買品供給原価	2,711,172	1,679,095			
購買品供給費	77,502	76,302			
その他の費用	217,078	131,368			
(うち貸倒引当金戻入益)	(△571)	(△266)			
購買事業総利益	249,021	271,830			
(7) 販売事業収益	239,312	251,597			
販売品販売高	96,232	106,726			
販売手数料	140,891	138,173			
その他の収益	2,188	6,697			
(8) 販売事業費用	185,385	213,116			
販売品販売原価	89,214	100,131			
その他の費用	96,170	112,984			
販売事業総利益	53,927	38,481			
(9) その他事業収益	135,334	133,615			
(10) その他事業費用	136,186	132,760			
その他事業総利益	△852	854			

■ 連結注記表等

<p style="text-align: center;">令和3年3月期 令和2年4月1日から令和3年3月31日まで</p>	<p style="text-align: center;">令和4年3月期 (令和3年4月1日から令和4年3月31日まで)</p>
<p>1. 連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項に関する注記</p> <p>(1) 連結の範囲に関する事項</p> <p>① 連結子会社等の数 1社 連結子会社等の名称 株式会社なんさい ふぁー夢</p> <p>② 非連結子会社等の名称 該当する項目なし</p> <p>(2) 持分法の適用に関する事項 該当する項目なし</p> <p>(3) 連結される子会社及び子法人等の事業年度に関する事項 すべての連結子会社等の営業年度の末日は、連結決算日と一致しています。</p> <p>(4) のれんの償却方法及び償却期間 該当する項目なし</p> <p>(5) 剰余金処分項目等の取扱いに関する事項 連結剰余金計算書は、連結会計期間において確定した利益処分に基づいて作成しています。</p> <p>(6) 連結キャッシュ・フロー計算書における現金及び現金同等物の範囲 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲は、貸借対照表（連結貸借対照表）上の「現金」及び「預金」中の当座預金、普通預金及び通知預金となっています。</p> <p>2. 重要な会計方針に係る事項に関する注記</p> <p>(1) 次に掲げる資産の評価基準及び評価方法</p> <p>① 有価証券（株式形態の外部出資を含む）</p> <p>ア. 満期保有目的の債券：償却原価法（定額法）</p> <p>イ. 子会社株式：移動平均法による原価法</p> <p>ウ. その他有価証券</p> <p> a. 時価のあるもの：期末日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定しています。）</p> <p> b. 時価のないもの：移動平均法による原価法</p> <p>② 棚卸資産</p> <p>ア. 購買品 主として移動平均法による原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）</p> <p>イ. その他の棚卸資産 最終仕入原価法による原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）</p> <p>(2) 固定資産の減価償却の方法</p> <p>① 有形固定資産（リース資産を除く） 定率法を採用しています。ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備は除く）並びに平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しています。</p> <p>② 無形固定資産（リース資産を除く） 定額法によっています。</p> <p>(3) 引当金の計上基準</p> <p>① 貸倒引当金 貸倒引当金は、予め定められている経理規程、資産査定要領及び資産の償却・引当基準により、次のとおり計上しています。 破産、特別清算等法的に経営破綻の事実が発生している債務者（破綻先）に係る債権及びそれと同等の状況にある債務者（実質破綻先）に係る債権については、債権額から、担保の処分可能見込額を控除し、その残額を計上しています。 また、現在は経営破綻の状況にないが、今後経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる債務者に係る債権については、債権額から担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額のうち、債務者の支払能力を総合的に判断して必要と認められる額を計上しています。 上記以外の債権については、貸出金等の平均残存期間の予想損失額を見込んで計上しており、予想損失額は平均残存期間の貸倒実績または倒産実績を基礎とした貸倒実績率または倒産確率の過去の一定期間における平均値に基づき損失率を求め、これに将来見込み等必要な修正を加えて算定しています。 すべての債権は、資産査定要領に基づき、資産査定部署が資産査定を実施し、当該部署から独立した資産監査部署が査定結果を監査しており、その査定結果に基づいて上記の引当を行っています。</p> <p>② 賞与引当金 職員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額のうち当期負担分を計上しています。</p> <p>③ 退職給付引当金 職員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、当事業年度末に発生していると認められる額を計上しています。</p> <p>ア. 退職給付見込額の期間帰属方法 退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度までの期間に帰属させる方法については、期間定額基準によっています。</p> <p>イ. 数理計算上の差異及び過去勤務費用の処理方法 数理計算上の差異については、各事業年度の発生時における職員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（5年）による定額法により按分した額を、それぞれ発生翌事業年度から費用処理することとしています。 過去勤務費用は、その発生時の職員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（5年）による定額法により費用処理しています。</p>	<p>1. 連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項に関する注記</p> <p>(1) 連結の範囲に関する事項</p> <p>① 連結子会社等の数 1社 連結子会社等の名称 株式会社なんさい ふぁー夢</p> <p>② 非連結子会社等の名称 該当する項目なし</p> <p>(2) 持分法の適用に関する事項 該当する項目なし</p> <p>(3) 連結される子会社及び子法人等の事業年度に関する事項 すべての連結子会社等の営業年度の末日は、連結決算日と一致しています。</p> <p>(4) のれんの償却方法及び償却期間 該当する項目なし</p> <p>(5) 剰余金処分項目等の取扱いに関する事項 連結剰余金計算書は、連結会計期間において確定した利益処分に基づいて作成しています。</p> <p>(6) 連結キャッシュ・フロー計算書における現金及び現金同等物の範囲 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲は、貸借対照表（連結貸借対照表）上の「現金」及び「預金」中の当座預金、普通預金及び通知預金となっています。</p> <p>2. 重要な会計方針に係る事項に関する注記</p> <p>(1) 次に掲げる資産の評価基準及び評価方法</p> <p>① 有価証券（株式形態の外部出資を含む）</p> <p>ア. 満期保有目的の債券：償却原価法（定額法）</p> <p>イ. 子会社株式：移動平均法による原価法</p> <p>ウ. その他有価証券</p> <p> a. 時価のあるもの：時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定しています。）</p> <p> b. 市場価格のない株式等：移動平均法による原価法</p> <p>② 棚卸資産</p> <p>ア. 購買品 主として移動平均法による原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）</p> <p>イ. その他の棚卸資産 最終仕入原価法による原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）</p> <p>(2) 固定資産の減価償却の方法</p> <p>① 有形固定資産（リース資産を除く） 定率法を採用しています。ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備は除く）並びに平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しています。</p> <p>② 無形固定資産（リース資産を除く） 定額法によっています。</p> <p>(3) 引当金の計上基準</p> <p>① 貸倒引当金 貸倒引当金は、予め定められている経理規程、資産査定要領及び資産の償却・引当基準により、次のとおり計上しています。 破産、特別清算等法的に経営破綻の事実が発生している債務者（破綻先）に係る債権及びそれと同等の状況にある債務者（実質破綻先）に係る債権については、債権額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額を計上しています。 また、現在は経営破綻の状況にないが、今後経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる債務者に係る債権については、債権額から担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額のうち、債務者の支払能力を総合的に判断して必要と認められる額を計上しています。 上記以外の債権については、貸出金等の平均残存期間の予想損失額を見込んで計上しており、予想損失額は平均残存期間の貸倒実績または倒産実績を基礎とした貸倒実績率または倒産確率の過去の一定期間における平均値に基づき損失率を求め、これに将来見込み等必要な修正を加えて算定しています。 すべての債権は、資産査定要領に基づき、資産査定部署が資産査定を実施し、当該部署から独立した資産監査部署が査定結果を監査しており、その査定結果に基づいて上記の引当を行っています。</p> <p>② 賞与引当金 職員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額のうち当期負担分を計上しています。</p> <p>③ 退職給付引当金 職員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しています。</p> <p>ア. 退職給付見込額の期間帰属方法 退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度までの期間に帰属させる方法については、期間定額基準によっています。</p> <p>イ. 数理計算上の差異及び過去勤務費用の処理方法 数理計算上の差異については、各事業年度の発生時における職員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（5年）による定額法により按分した額を、それぞれ発生翌事業年度から費用処理することとしています。 過去勤務費用は、その発生時の職員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（5年）による定額法により費用処理しています。</p>

<p>④ 役員退職慰労引当金 役員の退職慰労金の支給に備えるため、役員退職慰労金規程に定めるところにより期末要支給額を計上しています。</p> <p>⑤ ポイント引当金 更なる組合員サービスの向上を目的とする総合ポイント制度に基づき、組合員・利用者に対するポイントの使用による費用発生に備えるため、当事業年度末において将来使用されると見込まれる額を計上しています。</p> <p>(4) 消費税及び地方消費税の会計処理の方法 消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっています。 ただし、固定資産に係る控除対象外消費税等は雑資産に計上し、5年間で均等償却を行っています。</p> <p>(5) 計算書類等に記載した金額の端数処理の方法 記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しており、金額千円未満の科目については「0」で表示しています。</p> <p>(6) その他計算書類等の作成のための基本となる重要な事項 (追加情報) 改正企業会計基準第24号会計方針の開示、会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用に伴い、事業別収益・事業別費用の内部取引の処理方法に関する事項をその他計算書類等の作成のための基本となる重要な事項に記載しております。</p> <p>① 事業別収益・事業別費用の内部取引の処理方法について 当組合は、事業別の収益及び費用について、事業間取引の相殺表示を行っていません。よって事業別の収益及び費用については、事業間の内部取引も含めて表示しています。 ただし、損益計算書の事業収益、事業費用については、農業協同組合法施行規則にしたがい、各事業間の内部損益を除去した額を記載しています。</p> <p>3. 表示方法の変更に関する注記 新設された農業協同組合法施行規則第126条の3の2に基づき「会計上の見積りの開示に関する会計基準」(企業会計基準第31号 2020年3月31日)を適用し、当該事業年度より見積りに関する情報を「会計上の見積りに関する注記」に記載しています。</p>	<p>④ 役員退職慰労引当金 役員の退職慰労金の支給に備えるため、役員退職慰労金規程に定めるところにより期末要支給額を計上しています。</p> <p>(4) 収益及び費用の計上基準</p> <p>① 収益認識関連 当組合は、「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日改正)及び「収益認識に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第30号 2021年3月26日改正)を適用しており、約束した財またはサービスの支配が利用者等に移転した時点で、もしくは、移転するにつれて当該財またはサービスと交換に受け取る見込まれる金額で収益を認識しています。 主要な事業における主な履行義務の内容及び収益を認識する通常の時点は以下のとおりです。</p> <p>ア 購買事業 農業生産に必要な資材と生活に必要な物資を共同購入し、組合員に供給する事業であり、当組合は利用者等との契約に基づき、購買品を引き渡す義務を負っています。この利用者等に対する履行義務は、購買品の引き渡し時点で充足することから、当該時点で収益を認識しています。</p> <p>イ 販売事業 組合員が生産した農畜産物を当組合が集荷して共同で業者等に販売する事業であり、当組合は利用者等との契約に基づき、販売品を引き渡す義務を負っています。この利用者等に対する履行義務は、販売品の引き渡し時点で充足することから、当該時点で収益を認識しています。</p> <p>ウ 利用事業 カントリーエレベーター、ライスセンター、共同選果場、農産物等の施設を設置して、共同で利用する事業であり、当組合は利用者等との契約に基づき、役務提供する義務を負っています。この利用者等に対する履行義務は、各種施設の利用が完了した時点で充足することから、当該時点で収益を認識しています。</p> <p>(5) 消費税及び地方消費税の会計処理の方法 消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっています。 ただし、固定資産に係る控除対象外消費税等は雑資産に計上し、5年間で均等償却を行っています。</p> <p>(6) 計算書類等に記載した金額の端数処理の方法 記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しており、金額千円未満の科目については「0」で表示しています。</p> <p>(7) その他計算書類等の作成のための基本となる重要な事項</p> <p>① 事業別収益・事業別費用の内部取引の処理方法について 当組合は、事業別の収益及び費用について、事業間取引の相殺表示を行っていません。よって事業別の収益及び費用については、事業間の内部取引も含めて表示しています。 ただし、損益計算書の事業収益、事業費用については、農業協同組合法施行規則にしたがい、各事業間の内部損益を除去した額を記載しています。</p> <p>② 米共同計算 当組合は生産者が生産した農産物を無条件委託販売により販売を行い、販売代金と販売による経費をプール計算することで生産者に支払いをする共同計算を行っています。 そのうち、米については販売をJAが行いプール計算を行う「JA共同計算」を行っています。 共同計算の会計処理については、貸借対照表の経済受託債権に、受託販売について生じた委託者に対する立替金及び販売品の販売委託者に支払った概算金、仮精算金を計上しています。 また、経済受託債務に受託販売品の販売代金(前受金を含む)を計上しています。 共同計算に係る収入(販売代金等)と支出(概算金、販売手数料、倉庫保管料、運搬費等)の計算を行い、当組合が受け取る販売手数料を控除した残額を精算金として生産者に支払った時点において、経済受託債権及び経済受託債務の相殺後の経済受託債務残高を減少する会計処理を行っています。</p> <p>③ 当組合が代理人として関与する取引の損益計算書の表示について 購買事業収益のうち、当組合が代理人として購買品の供給に関与している場合には、純額で収益を認識して、購買手数料として表示しています。また、販売事業収益のうち、当組合が代理人として販売品の販売に関与している場合には、純額で収益を認識して、販売手数料として表示しています。</p> <p>3. 会計方針の変更に関する注記 (1) 会計基準等の改正に伴う変更について</p> <p>① 収益認識に関する会計基準 当組合は、「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)及び「収益認識に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第30号 2021年3月26日)を当事業年度の期首から適用し、約束した財またはサービスの支配が利用者等に移転した時点で、当該財またはサービスと交換に受け取る見込まれる金額で収益を認識することといたしました。</p> <p>ア 代理人取引 財またはサービスを利用者等に移転する前に支配していない場合、すなわち、利用者等に代わって調達の手配を代理人として行う取引については、従来、利用者等から受け取る対価の総額を収益として認識しておりましたが、利用者等から受け取る額から受入先(仕入先)に支払う額を控除した純額で収益を認識する方法に変更しています。</p> <p>イ 米の県域共同計算 販売事業の米穀県域共同計算において、従来は、生産者に概算金を支払った時点で収益を認識しておりましたが、県域全体での販売実績進捗率に基づき収益を認識する方法に変更しています。</p>
---	---

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第 84 項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、当事業年度の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、当事業年度の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。ただし、収益認識会計基準第 86 項に定める方法を適用し、当事業年度の期首より前までに従前の取扱いに従ってほとんどすべての収益の額を認識した契約については、新たな会計方針を遡及適用していません。

この結果、当事業年度の購買事業収益が 1,031,403 千円減少し、購買事業費用が 1,031,403 千円減少、販売事業収益が 2,250 千円減少し、販売事業総利益が 2,250 千円減少、利用事業収益が 1,909 千円減少し、利用事業費用が 1,909 千円減少しています。これにより、事業収益が 1,035,563 千円減少し、事業費用が 1,033,312 千円減少、事業利益、経常利益及び税引前当期利益がそれぞれ 2,250 千円減少しています。また、利益剰余金の当期首残高が 9,952 千円減少しています。

② 時価の算定に関する会計基準

「時価の算定に関する会計基準」（企業会計基準第 30 号 2019 年 7 月 4 日。以下「時価算定会計基準」という。）等を当事業年度の期首から適用し、時価算定会計基準第 19 項及び「金融商品に関する会計基準」（企業会計基準第 10 号 2019 年 7 月 4 日）第 44-2 項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することといたしました。これによる当事業年度の計算書類への影響はありません。

4. 会計上の見積りに関する注記

(1) 固定資産の減損

① 当事業年度の計算書類に計上した金額
減損損失 143,340 千円

② 会計上の見積りの内容に関する理解に資する情報

資産グループに減損の兆候が存在する場合には、当該資産グループの割引前将来キャッシュ・フローと帳簿価額を比較することにより、当該資産グループについての減損の要否の判定を実施しています。

減損の要否に係る判定単位であるキャッシュ・フロー生成単位については、他の資産または資産グループのキャッシュ・インフローから概ね独立したキャッシュ・インフローを生成させるものとして識別される資産グループの最小単位としています。

固定資産の減損の要否の判定において、将来キャッシュ・フローについては、令和 4 年 3 月に作成した中期経営計画を基礎として算出しており、中期計画以降の将来キャッシュ・フローや、割引率等については、一定の仮定を設定して算出しています。

これらの仮定は将来の不確実な経営環境及び組合の経営状況の影響を受け、翌事業年度の計算書類に重要な影響を与える可能性があります。

(2) 貸倒引当金に関する会計上の見積り

① 当事業年度の計算書類に計上した金額
貸倒引当金 204,687 千円

② 会計上の見積りの内容に関する理解に資する情報

ア 算定方法
「1 重要な会計方針に係る事項に関する注記」の「(3) 引当金の計上基準」の「貸倒引当金」に記載しています。

イ 主要な仮定

主要な仮定は、「債務者区分の判定における貸出先の将来の業績見通し」であります。「債務者区分の判定における貸出先の将来の業績見通し」は、各債務者の収益獲得能力を個別に評価し、設定しています。

ウ 翌事業年度に係る計算書類に与える影響

個別貸出先の業績変化等により、当初の見積りに用いた仮定が変化した場合、翌事業年度に係る計算書類における貸倒引当金に重要な影響を及ぼす可能性があります。

5. 連結貸借対照表に関する注記

(1) 資産に係る圧縮記帳額

有形固定資産の取得価額から直接控除した圧縮記帳額は、次のとおりです。

建 物	269,990 千円
機械装置	55,435 千円
車 両	1,458 千円
土 地	402,000 千円
工具器具備品	28,062 千円
計	756,945 千円

(2) リース契約により使用する重要な固定資産

貸借対照表に計上した固定資産のほか、車両 187 台については、リース契約により使用しています。

(3) 担保に供している資産

以下の資産は、次のとおり担保に供しています。

種 類	金 額	目 的
系統預金	4,000,000 千円	為替決済に関する保証金

(4) 役員との間の取引による役員に対する金銭債権及び金銭債務

理事及び監事に対する金銭債権の総額	255,803 千円
理事及び監事に対する金銭債務の総額	— 千円

(5) 債権のうち農業協同組合法施行規則第 204 条第 1 項第 1 号ホ (2) (i) から (iv) までに掲げるものの額及びその合計額

債権のうち、破産更生債権及びこれらに準する債権額は 41,709 千円、危険債権額は 219,627 千円です。

なお、破産更生債権及びこれらに準する債権とは、破産手続開始、更生手続開始、再生手続開始の申立て等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準する債権です。

また、危険債権とは、債務者が経営破綻の状態には至っていないものの、財政状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取りができない可能性の高い債権（破産更生債権及びこれらに準する債権を除く。）です。

債権のうち、三月以上延滞債権はありません。なお、三月以上延滞債権とは、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から三月以上遅延し

4. 会計上の見積りに関する注記

(1) 固定資産の減損

① 当事業年度の計算書類に計上した金額 27,296 千円

② その他の情報

資産グループに減損の兆候が存在する場合には、当該資産グループの割引前将来キャッシュ・フローと帳簿価額を比較することにより、当該資産グループについての減損の要否の判定を実施しております。

減損の要否に係る判定単位であるキャッシュ・フロー生成単位については、他の資産または資産グループのキャッシュ・インフローから概ね独立したキャッシュ・インフローを生成させるものとして識別される資産グループの最小単位としています。

固定資産の減損の要否の判定において、将来キャッシュ・フローについては、令和 3 年 3 月に作成した中期経営計画を基礎として算出しており、中期計画以降の将来キャッシュ・フローや、割引率等については、一定の仮定を設定して算出しております。

これらの仮定は将来の不確実な経営環境及び組合の経営状況の影響を受け、翌事業年度以降の計算書類に重要な影響を与える可能性があります。

5. 連結貸借対照表に関する注記

(1) 資産に係る圧縮記帳額

有形固定資産の取得価額から直接控除した圧縮記帳額は、次のとおりです。

建 物	269,990 千円
機械装置	55,435 千円
車 両	1,458 千円
土 地	402,000 千円
工具器具備品	28,062 千円
計	756,945 千円

(2) リース契約により使用する重要な固定資産

貸借対照表に計上した固定資産のほか、車両 193 台については、リース契約により使用しています。

(3) 担保に供している資産

以下の資産は、次のとおり担保に供しています。

種 類	金 額	目 的
系統預金	4,000,000 千円	為替決済に関する保証金

(4) 役員との間の取引による役員に対する金銭債権及び金銭債務

理事及び監事に対する金銭債権の総額	218,238 千円
理事及び監事に対する金銭債務の総額	— 千円

(5) 貸出金のうちリスク管理債権の合計額及びその内訳

貸出金のうち、破綻先債権額はなく、延滞債権額は 322,241 千円です。

なお、破綻先債権とは、元本又は利息の支払いの遅延が相当期間継続していることその他の事由により元本又は利息の取立て又は弁済の見込みがないものとして未収利息を計上しなかった貸出金（貸倒償却を行った部分を除く。以下「未収利息不計上貸出金」という。）のうち、法人税法施行令（昭和 40 年政令第 97 号）第 96 条第 1 項第 3 号イからホまでに掲げる事由又は同項第 4 号に規定する事由が生じている貸出金です。

また、延滞債権とは、未収利息不計上貸出金であって、破綻先債権及び債務者の経営再建または支援をはかることを目的として利息の支払を猶予した貸出金以外の貸出金です。

貸出金のうち、3か月以上延滞債権はありません。なお、3か月以上延滞債権とは、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から3か月以上遅延している貸出金で破綻先債権及び延滞債権に該当しないものです。

貸出金のうち、貸出条件緩和債権額はありせん。
 なお、貸出条件緩和債権とは、債務者の経営再建又は支援をはかることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金で破綻先債権、延滞債権及び3か月以上延滞債権に該当しないものです。
 破綻先債権額、延滞債権額、3か月以上延滞債権額及び貸出条件緩和債権額の合計額は322,241千円です。
 なお、上記に掲げた債権額は、貸倒引当金控除前の金額です。

ている貸出金で破綻先債権及び延滞債権に該当しないものです。
 債権のうち、貸出条件緩和債権額はありせん。
 なお、貸出条件緩和債権とは、債務者の経営再建又は支援をはかることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金で破産更生債権及びこれらに準ずる債権、危険債権及び三月以上延滞債権です。
 破産更生債権及びこれらに準ずる債権、危険債権、三月以上延滞債権及び貸出条件緩和債権額の合計額は261,336千円です。
 なお、上記に掲げた債権額は、貸倒引当金控除前の金額です。

6. 連結損益計算書に関する注記

(1) 子会社等との取引高の総額

① 子会社等との取引による収益総額	24,188千円
うち事業取引高	19,668千円
うち事業取引以外の取引高	4,519千円
② 子会社等との取引による費用総額	24千円
うち事業取引高	24千円
うち事業取引以外の取引高	0千円

(2) 減損損失に関する注記

① 共用資産として位置づけた資産及び資産をグループ化した方法の概要
 当組合では、投資の意思決定を行う単位として固定資産のグルーピングを実施した結果、営業店舗については支店ごとに、また、業務外固定資産（遊休資産と賃貸固定資産）については、各固定資産をグルーピングの最小単位としています。
 JA全体の共用資産は、本店、催事センター、食材センター、農機センター、燃料配送センターとし、各地域の共用資産は、管内を統括する統括支店、営農経済センター、RC、CE、選果場、集出荷所としています。

② 当該資産又は資産グループの概要並びに減損損失の金額及びその内訳
 当期に減損を計上した固定資産は、次のとおりです。

場 所	用 途	種 類・金 額	その他
食堂	営業店舗	建物 23,444千円	
久喜江面支店	営業店舗	建物 3,851千円	

③ 減損損失を認識するに至った経緯
 久喜江面支店については、事業の継続により得られる回収可能価額が帳簿価額を下回るため帳簿価額を回収可能価額まで減損しています。
 食堂については、店舗の廃止に伴い、帳簿価額を回収可能価額まで減損しています。

④ 回収可能価額の算定方法
 久喜江面支店の回収可能価額は正味売却可能価額を採用しており、食堂の回収可能価額は使用価値を採用しており、適用した割引率は3.4%です。

(2) 事業別収益・事業別費用の内部取引の処理方法に関する追加情報の注記
 (追加情報)

当組合は、事業別の収益及び費用について、事業間取引の相殺表示を行っていません。よって事業別の収益及び費用については、事業間の内部取引も含めて表示しています。
 ただし、損益計算書の事業収益、事業費用については、農業協同組合法施行規則にしたがい、各事業間の内部損益を除去した額を記載しています。

7. 金融商品に関する注記

(1) 金融商品の状況に関する事項

① 金融商品に対する取組方針

当組合は農家組合員や地域から預かった貯金を原資に、農家組合員、地域内の企業や団体などへ貸付け、残った余裕金を埼玉県信用農業協同組合連合会へ預けているほか、国債や地方債などの債券、投資信託等の有価証券による運用を行っています。

② 金融商品の内容及びそのリスク

当組合が保有する金融資産は、主として当組合管内の組合員等に対する貸出金及び有価証券であり、貸出金は、組合員等の契約不履行によってもたらされる信用リスクに晒されています。また、有価証券は主に債券であり、満期保有目的及び純投資目的（その他有価証券）で保有しています。これらは発行体の信用リスク、金利の変動リスク及び市場価格の変動リスクに晒されています。

③ 金融商品に係るリスク管理体制

ア. 信用リスクの管理
 当組合は、個別の重要案件または大口案件については理事会において対応方針を決定しています。また、通常の貸出取引については、本店に企画管理部リスク管理課を設置し各支店との連携を図りながら、与信審査を行っています。審査にあたっては、取引先のキャッシュ・フローなどにより償還能力の評価を行うとともに、担保評価基準など厳格な審査基準を設けて、与信判定を行っています。貸出取引において資産の健全性の維持・向上をはかるため、資産の自己査定を厳正に行っています。不良債権については管理・回収方針を作成・実施し、資産の健全化に取組んでいます。また、資産自己査定の結果、貸倒引当金については「資産の償却・引当基準」に基づき必要額を計上し、資産及び財務の健全化につとめています。

イ. 市場リスクの管理

当組合では、金利リスク、価格変動リスクなどの市場性リスクを的確にコントロールすることにより、収益化及び財務の安定化をはかっています。このため、財務の健全性維持と収益力強化とのバランスを重視したALMを基本に、資産・負債の金利感応度分析などを実施し、金融情勢の変化に機敏に対応できる柔軟な財務構造の構築につとめています。

とりわけ、有価証券運用については、市場動向や経済見通しなどの投資環境分析及び当組合の保有有価証券ポートフォリオの状況やALMなどを考慮し、理事会において運用方針を定めるとともに、経営層で構成するALM委員会を定期的に開催して、日常的な情報交換及び意思決定を行っています。運用部門は、理事会で決定した運用方針及びALM委員会で決定された方針などに基づき、有価証券の売買やリスクヘッジを行っています。運用部門が行った取引についてはリスク管理部門が適切な執行を行っているかどうかチェックし定期的なリスク量の測定を行い経営層に報告しています。

(市場リスクに係る定量的情報)
 当組合で保有している金融商品はすべてトレーディング目的以外の金融商品です。当組合において、主要なリスク変数である金利リスクの影響を受ける主たる金融商品は、預金、有

6. 連結損益計算書に関する注記

(1) 子会社等との取引高の総額

① 子会社等との取引による収益総額	25,318千円
うち事業取引高	21,717千円
うち事業取引以外の取引高	3,600千円
② 子会社等との取引による費用総額	728千円
うち事業取引高	658千円
うち事業取引以外の取引高	70千円

(2) 減損損失に関する注記

① 共用資産として位置づけた資産及び資産をグループ化した方法の概要
 当組合では、投資の意思決定を行う単位として固定資産のグルーピングを実施した結果、営業店舗については支店ごとに、また、業務外固定資産（遊休資産と賃貸固定資産）については、各固定資産をグルーピングの最小単位としています。
 JA全体の共用資産は、本店、催事課、食材センター、農機センター、燃料配送センターとし、各地域の共用資産は、営農経済センター、RC、CE、選果施設、集出荷所としています。

② 当該資産又は資産グループの概要並びに減損損失の金額及びその内訳
 当期に減損を計上した固定資産は、次のとおりです。

場 所	用 途	種 類・金 額	その他
川通支店	営業店舗	建物 13,486千円 土地 45,074千円	
河合支店	営業店舗	建物 12,040千円	
春日部東支店	営業店舗	建物 13,514千円 土地 47,662千円	
菑浦支店	営業店舗	建物 11,561千円	

③ 減損損失を認識するに至った経緯
 川通支店、河合支店、春日部東支店、菑浦支店については、店舗廃止の意思決定に伴い帳簿価額を回収可能額まで減損し減損損失として計上しています。

④ 回収可能価額の算定方法
 菑浦支店の回収可能価額は正味売却可能価額を採用しており、川通支店、河合支店、春日部東支店の回収可能価額は使用価値を採用しており、適用した割引率は3.4%です。

7. 金融商品に関する注記

(1) 金融商品の状況に関する事項

① 金融商品に対する取組方針

当組合は組合員や地域から預かった貯金を原資に、組合員、地域内の企業や団体などへ貸付け、残った余裕金を埼玉県信用農業協同組合連合会へ預けているほか、国債や地方債などの債券、投資信託等の有価証券による運用を行っています。

② 金融商品の内容及びそのリスク

当組合が保有する金融資産は、主として当組合管内の組合員等に対する貸出金及び有価証券であり、貸出金は、組合員等の契約不履行によってもたらされる信用リスクに晒されています。また、有価証券は主に債券であり、満期保有目的及び純投資目的（その他有価証券）で保有しています。これらは発行体の信用リスク、金利の変動リスク及び市場価格の変動リスクに晒されています。

③ 金融商品に係るリスク管理体制

ア. 信用リスクの管理
 当組合は、個別の重要案件または大口案件については理事会において対応方針を決定しています。また、通常の貸出取引については、本店に企画管理部リスク管理課を設置し各支店との連携を図りながら、与信審査を行っています。審査にあたっては、取引先のキャッシュ・フローなどにより償還能力の評価を行うとともに、担保評価基準など厳格な審査基準を設けて、与信判定を行っています。貸出取引において資産の健全性の維持・向上をはかるため、資産の自己査定を厳正に行っています。不良債権については管理・回収方針を作成・実施し、資産の健全化に取組んでいます。また、資産自己査定の結果、貸倒引当金については「資産の償却・引当基準」に基づき必要額を計上し、資産及び財務の健全化につとめています。

イ. 市場リスクの管理

当組合では、金利リスク、価格変動リスクなどの市場性リスクを的確にコントロールすることにより、収益化及び財務の安定化をはかっています。このため、財務の健全性維持と収益力強化とのバランスを重視したALMを基本に、資産・負債の金利感応度分析などを実施し、金融情勢の変化に機敏に対応できる柔軟な財務構造の構築につとめています。

とりわけ、有価証券運用については、市場動向や経済見通しなどの投資環境分析及び当組合の保有有価証券ポートフォリオの状況やALMなどを考慮し、理事会において運用方針を定めるとともに、経営層で構成するALM委員会を定期的に開催して、日常的な情報交換及び意思決定を行っています。運用部門は、理事会で決定した運用方針及びALM委員会で決定された方針などに基づき、有価証券の売買やリスクヘッジを行っています。運用部門が行った取引についてはリスク管理部門が適切な執行を行っているかどうかチェックし定期的なリスク量の測定を行い経営層に報告しています。

(市場リスクに係る定量的情報)
 当組合で保有している金融商品はすべてトレーディング目的以外の金融商品です。当組合において、主要なリスク変数である金利リスクの影響を受ける主たる金融商品は、預金、有

債証券のうちその他有価証券に分類している債券・受益証券、貸出金、貯金です。
 当組合では、これらの金融資産及び金融負債について、期末後1年程度の金利の合理的な予想変動幅を用いた経済価値の変動額を、金利の変動リスクの管理にあたっての定量的分析に利用しています。
 金利以外のすべてのリスク変数が一定であると仮定し、当事業年度末現在、指標となる金利が0.01%下落したものと想定した場合には、経済価値が25,494千円減少するものと把握しています。
 当該変動額は、金利を除くリスク変数が一定の場合を前提としており、金利とその他のリスク変数の相関を考慮していません。
 また、金利の合理的な予想変動幅を超える変動が生じた場合には、算定額を超える影響が生じる可能性があります。

ウ、資金調達に係る流動性リスクの管理

当組合では、資金繰りリスクについては、運用・調達について月次の資金計画を作成し、安定的な流動性の確保につとめています。また、市場流動性リスクについては、投資判断を行う上での重要な要素と位置づけ、商品ごとに異なる流動性（換金性）を把握したうえで、運用方針などの策定の際に検討を行っています。

④ 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価（時価に代わるものを含む）には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額（これに準ずる価額を含む）が含まれています。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によつた場合、当該価額が異なることもあります。

(2) 金融商品の時価等に関する事項

① 金融商品の貸借対照表計上額及び時価等

当事業年度末における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額は、次のとおりです。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものについては、次表には含めず③に記載しています。

(単位：千円)

	貸借対照表計上額	時価	差額
預金	207,623,245	207,625,828	2,583
有価証券			
満期保有目的の債券	2,958,840	2,906,020	△52,820
その他有価証券	8,639,850	8,639,850	—
貸出金(*1,2)	61,973,645		
貸倒引当金(*3)	△196,480		
貸倒引当金控除後	61,777,164	62,828,039	1,050,875
経済事業未収金	451,870		
貸倒引当金(*4)	△1,695		
貸倒引当金控除後	450,174	450,174	—
資産計	281,449,274	281,449,913	1,000,639
貯金	279,684,498	279,691,972	7,473
負債計	279,684,498	279,691,972	7,473

- (*1) 貸出金には、貸借対照表上雑資産に計上している職員厚生貸付金 57,568千円を含めています。
 (*2) 貸出金には、貸付留保金を控除していません。
 (*3) 貸出金に対応する一般貸倒引当金及び個別貸倒引当金です。
 (*4) 経済事業未収金に対応する一般貸倒引当金及び個別貸倒引当金です。

② 金融商品の時価の算定方法

【資産】

ア、預金

満期のない預金については、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によつています。満期のある預金については、期間に基づく区分ごとに、リスクの極めて少ない期待利回りである標準的な金利（円Libor・スワップレート）で割り引いた現在価値を時価に代わる金額として算定しています。

イ、有価証券

債券は取引金融機関等から提示された価格により算定しています。また、投資信託については、公表されている基準価格によつています。

ウ、貸出金

貸出金のうち、変動金利によるものは、短期間で市場金利を反映するため、貸出先の信用状態が実行後大きく異ならない限り、時価は帳簿価額と近似していることから当該帳簿価額によつています。
 一方、固定金利によるものは、貸出金の種類及び期間に基づく区分ごとに、元利金の合計額をリスクの極めて少ない期待利回りである標準的な金利（円Libor・スワップレート）で割り引いた額から貸倒引当金を控除して時価に代わる金額として算定しています。
 また、延滞の生じている債権・期限の利益を喪失した債権等について、帳簿価額から貸倒引当金を控除した額を時価に代わる金額としています。

エ、経済事業未収金

経済事業未収金については短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によつています。
 また、延滞の生じている債権・期限の利益を喪失した債権等について、帳簿価額から貸倒引当金を控除した額を時価に代わる金額としています。

【負債】

ア、貯金

要求払貯金については、決算日に要求された場合の支払額（帳簿価額）を時価とみなしています。また、定期性貯金については、期間に基づく区分ごとに、将来のキャッシュ・フローをリスクの極めて少ない期待利回りである標準的な金利（円Libor・スワップレート）で割り引いた現在価値を時価に代わる金額として算定しています。

債証券のうちその他有価証券に分類している債券・受益証券、貸出金、貯金です。
 当組合では、これらの金融資産及び金融負債について、期末後1年程度の金利の合理的な予想変動幅を用いた経済価値の変動額を、金利の変動リスクの管理にあたっての定量的分析に利用しています。
 金利以外のすべてのリスク変数が一定であると仮定し、当事業年度末現在、指標となる金利が0.01%下落したものと想定した場合には、経済価値が12,711千円減少するものと把握しています。
 当該変動額は、金利を除くリスク変数が一定の場合を前提としており、金利とその他のリスク変数の相関を考慮していません。
 また、金利の合理的な予想変動幅を超える変動が生じた場合には、算定額を超える影響が生じる可能性があります。

ウ、資金調達に係る流動性リスクの管理

当組合では、資金繰りリスクについては、運用・調達について月次の資金計画を作成し、安定的な流動性の確保につとめています。また、市場流動性リスクについては、投資判断を行う上での重要な要素と位置づけ、商品ごとに異なる流動性（換金性）を把握したうえで、運用方針などの策定の際に検討を行っています。

④ 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価（時価に代わるものを含む）には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額（これに準ずる価額を含む）が含まれています。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によつた場合、当該価額が異なることもあります。

(2) 金融商品の時価等に関する事項

① 金融商品の貸借対照表計上額及び時価等

当事業年度末における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額は、次のとおりです。なお、市場価格のない株式等は、次表には含めておりません。

(単位：千円)

	貸借対照表計上額	時価	差額
預金	200,071,405	200,073,205	1,800
有価証券			
満期保有目的の債券	3,163,457	2,974,630	△188,827
その他有価証券	12,977,160	12,977,160	—
貸出金(*1,2)	65,365,219		
貸倒引当金(*3)	△203,085		
貸倒引当金控除後	65,162,134	64,967,280	△194,854
経済事業未収金	453,473		
貸倒引当金(*4)	△1,429		
貸倒引当金控除後	452,043	452,043	—
資産計	281,826,201	281,444,320	△381,881
貯金	281,419,498	281,415,043	△4,455
負債計	281,419,498	281,415,043	△4,455

- (*1) 貸出金には、貸借対照表上雑資産に計上している職員厚生貸付金 57,621千円を含めています。
 (*2) 貸出金には、貸付留保金を控除していません。
 (*3) 貸出金に対応する一般貸倒引当金及び個別貸倒引当金です。
 (*4) 経済事業未収金に対応する一般貸倒引当金及び個別貸倒引当金です。

② 金融商品の時価の算定方法

【資産】

ア、預金

満期のない預金については、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によつています。満期のある預金については、期間に基づく区分ごとに、リスクフリーレートである翌日物金利スワップ（Overnight Index Swap 以下 OIS という）レートで割り引いた現在価値を時価に代わる金額として算定しています。

イ、有価証券

債券は取引金融機関等から提示された価格により算定しています。投資信託は、公表されている基準価格、または、取引金融機関等から提示された価格によつており、「時価の算定に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第31号2019年7月4日）第26項に従い、経過措置を適用しています。

ウ、貸出金

貸出金のうち、変動金利によるものは、短期間で市場金利を反映するため、貸出先の信用状態が実行後大きく異ならない限り、時価は帳簿価額と近似していることから当該帳簿価額によつています。
 一方、固定金利によるものは、貸出金の種類及び期間に基づく区分ごとに、元利金の合計額を OIS で割り引いた額から貸倒引当金を控除して時価に代わる金額として算定しています。
 なお、分割実行案件で未実行額がある場合には、未実行額も含めた元利金の合計額を OIS で割り引いた額に、帳簿価額に未実行額を加えた額に対する帳簿価額の割合に乘じ、貸倒引当金を控除した額を時価に代わる金額として算定しています。
 また、延滞の生じている債権・期限の利益を喪失した債権等について、帳簿価額から貸倒引当金を控除した額を時価に代わる金額としています。

エ、経済事業未収金

経済事業未収金については短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によつています。
 また、延滞の生じている債権について、帳簿価額から貸倒引当金を控除した額を時価に代わる金額としています。

【負債】

ア、貯金

要求払貯金については、決算日に要求された場合の支払額（帳簿価額）を時価とみなしています。また、定期性貯金については、期間に基づく区分ごとに、将来のキャッシュ・フローを OIS で割り引いた現在価値を時価に代わる金額として算定しています。

③ 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品は次のとおりであり、これらは①の金融商品の時価情報には含まれていません。

(単位：千円)

貸借対照表計上額	
外部出資(*)	12,763,813

(*)外部出資のうち、市場価格のある株式以外のものについては、時価を把握することが極めて困難であると認められるため、時価開示の対象とはしていません。

④ 金銭債権及び満期のある有価証券の決算日後の償還予定額

(単位：千円)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
現金	207,623,245	-	-	-	-	-
有価証券	-	-	-	-	-	-
満期保有目的債権	400,000	-	-	-	-	2,600,000
その他の有価証券のうち 満期があるもの	-	-	100,000	200,000	-	8,299,910
貸出金(*1,2)	4,434,506	3,551,203	3,402,218	3,210,284	3,065,192	44,251,375
経済事業未収金(*3)	451,529	-	-	-	-	-
合計	212,909,280	3,551,203	3,502,218	3,410,284	3,065,192	55,151,285

(*1) 貸出金のうち、当座貸越（融資型を除く）235,336千円については「1年以内」に含めています。

(*2) 貸出金のうち、3か月以上延滞の生じている債権・期限の利益を喪失した債権等 1,294千円は償還の予定が見込まれないため、含めていません。

(*3) 経済事業未収金のうち、延滞の生じている債権・期限の利益を喪失した債権等 341千円は償還の予定が見込まれないため、含めていません。

⑤ 有利子負債の決算日後の返済予定額

(単位：千円)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
貯金(*1)	269,696,188	3,484,194	5,345,534	771,223	387,357	-
合計	269,696,188	3,484,194	5,345,534	771,223	387,357	-

(*1) 貯金のうち、要求払貯金については「1年以内」に含めています。

8. 有価証券に関する注記

(1) 有価証券の時価及び評価差額に関する事項

① 満期保有目的の債券で時価のあるもの

満期保有目的の債券において、種類ごとの貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりです。

(単位：千円)

		貸借対照表 計上額	時価	差額
時価が貸借対 照表計上額を 超えるもの	国債	791,159	808,200	17,040
	政府保証債	199,734	205,840	6,105
	小計	990,894	1,014,040	23,145
時価が貸借対 照表計上額を 超えないもの	国債	1,967,946	1,891,980	△75,966
計		2,958,840	2,906,020	△52,820

② その他有価証券で時価のあるもの

その他有価証券において、種類ごとの取得原価または償却原価、貸借対照表計上額及びこれらの差額については、次のとおりです。

(単位：千円)

		貸借対照表 計上額	取得原価または 償却原価	差額
貸借対照表計上 額が取得原価ま たは償却原価を 超えるもの	国債	927,040	898,741	28,298
	地方債	2,488,980	2,374,327	114,652
	政府保証債	102,120	100,000	2,120
	社債	305,530	300,000	5,530
	小計	3,823,670	3,673,068	150,601
貸借対照表計上 額が取得原価ま たは償却原価を 超えないもの	国債	3,045,700	3,166,501	△120,801
	地方債	485,520	498,983	△13,463
	社債	985,050	1,009,418	△24,368
	受益証券	299,910	300,000	△90
	小計	4,816,180	4,974,903	△158,723
合計	8,639,850	8,647,972	△8,122	

なお、上記差額から繰延税金資産 2,241千円を差し引いた額△5,880千円を、「その他有価証券評価差額金」に計上しています。

(2) 当年度中に売却したその他有価証券

(単位：千円)

	売却額	売却益	売却損
国債	998,710	5,698	-
政府保証債	205,064	5,734	-
合計	1,203,774	11,432	-

(3) 当年度中に減損処理を行った有価証券

当年度において 3,499千円減損処理を行っています。

時価を把握することが極めて困難と認められる非上場の減損処理に当たっては、財政状態の悪化により実質価額が著しく低下した場合には、回収可能性等を考慮して減損処理を行っております。

③ 市場価格のない株式等は次のとおりであり、これらは①の金融商品の時価情報には含まれていません。

(単位：千円)

貸借対照表計上額	
外部出資(*)	12,763,783

(*)外部出資のうち、市場において取引されていない株式や出資金等については、「金融商品の時価等の開示に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第19号 2019年7月4日)第5項に基づき、時価開示の対象とはしていません。

④ 金銭債権及び満期のある有価証券の決算日後の償還予定額

(単位：千円)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
現金	200,071,365	-	-	-	-	-
有価証券	-	-	-	-	-	-
満期保有目的債権	-	-	-	-	-	3,163,457
その他の有価証券のうち 満期があるもの	-	101,180	204,780	-	98,590	12,572,610
貸出金(*1,2)	4,411,828	3,659,141	3,497,884	3,350,413	3,169,928	47,217,585
経済事業未収金(*3)	453,473	-	-	-	-	-
合計	204,936,666	3,760,321	3,702,664	3,350,413	3,268,518	62,953,652

(*1) 貸出金のうち、当座貸越（融資型を除く）220,512千円については「1年以内」に含めています。

(*2) 貸出金のうち、3か月以上延滞の生じている債権・期限の利益を喪失した債権等 816千円は償還の予定が見込まれないため、含めていません。

⑤ 有利子負債の決算日後の返済予定額

(単位：千円)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
貯金(*1)	272,104,630	5,480,839	2,992,336	407,837	433,853	-
合計	272,104,630	5,480,839	2,992,336	407,837	433,853	-

(*1) 貯金のうち、要求払貯金については「1年以内」に含めています。

8. 有価証券に関する注記

(1) 有価証券の時価及び評価差額に関する事項

① 満期保有目的の債券

満期保有目的の債券において、種類ごとの貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりです。

(単位：千円)

		貸借対照表 計上額	時価	差額
時価が貸借対 照表計上額を 超えるもの	国債	391,637	398,480	6,842
	政府保証債	199,750	201,580	1,829
	小計	591,387	600,060	8,672
時価が貸借対 照表計上額を 超えないもの	国債	2,572,070	2,374,570	△197,500
計		3,163,457	2,974,630	△188,827

② その他有価証券

その他有価証券において、種類ごとの取得原価または償却原価、貸借対照表計上額及びこれらの差額については、次のとおりです。

(単位：千円)

		貸借対照表 計上額	取得原価または 償却原価	差額
貸借対照表計上 額が取得原価ま たは償却原価を 超えるもの	国債	907,830	898,817	9,012
	地方債	2,242,570	2,158,547	84,022
	政府保証債	101,180	100,000	1,180
	社債	102,310	100,000	2,310
	小計	3,353,890	3,257,364	96,525
貸借対照表計上 額が取得原価ま たは償却原価を 超えないもの	国債	6,159,070	6,550,337	△391,267
	地方債	958,380	1,004,952	△46,572
	特別法人債	188,560	200,000	△11,440
	社債	1,748,040	1,811,810	△63,770
	受益証券	569,220	600,000	△30,780
小計	9,623,270	10,167,100	△543,830	
合計	12,977,160	13,424,465	△447,305	

なお、上記差額から繰延税金資産 123,456千円を差し引いた額△323,849千円を、「その他有価証券評価差額金」に計上しています。

(2) 当年度中に売却したその他有価証券

(単位：千円)

	売却額	売却益	売却損
国債	305,486	2,576	-
合計	305,486	2,576	-

9. 退職給付に関する注記

(1) 退職給付に関する注記

① 採用している退職給付制度の概要

職員の退職給付にあてるため、退職給与規程に基づき、退職一時金制度を採用しています。また、この制度に加え、同規程に基づき退職給付の一部にあてるため確定給付型年金制度(D B)及び特定退職金共済制度を採用しています。

② 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

期首における退職給付債務	2,356,148 千円
勤務費用	131,732 千円
利息費用	1,884 千円
数理計算上の差異の発生額	△2,030 千円
退職給付の支払額	△117,684 千円
期末における退職給付債務	2,370,051 千円

③ 年金資産の期首残高と期末残高の調整表

期首における年金資産	1,835,339 千円
期待運用収益	17,563 千円
数理計算上の差異の発生額	252 千円
確定給付型年金制度(D B)への拠出金	60,094 千円
特定退職金共済制度への拠出金	62,344 千円
退職給付の支払額	△101,593 千円
期末における年金資産	1,874,000 千円

④ 退職給付債務及び年金資産の期末残高と貸借対照表に計上された退職給付引当金の調整表

退職給付債務	2,370,051 千円
確定給付型年金制度(D B)	△1,119,078 千円
特定退職金共済制度	△754,921 千円
未積立退職給付債務	496,051 千円
未認識数理計算上の差異	67,873 千円
貸借対照表計上額純額	563,924 千円
退職給付引当金	563,924 千円

⑤ 退職給付費用及びその内訳項目の金額

勤務費用	131,732 千円
利息費用	1,884 千円
期待運用収益	△17,563 千円
数理計算上の差異の費用処理額	△4,357 千円
過去勤務費用の費用処理額	△19,449 千円
合計	92,247 千円

⑥ 年金資産の主な内訳

年金資産合計に対する主な分類ごとの比率は、次のとおりです(または、年金資産の主な分類ごとの金額は、次のとおりです)。

・確定給付型年金制度(D B)	
一般勘定	100%
・特定退職金共済制度	
債券	63%
年金保険投資	26%
現金及び預金	6%
その他	5%
合計	100%

※ 一般勘定とは、全国共済農業協同組合連合会において、企業年金制度の資産等を1つの勘定で運用していることをいいます。

⑦ 長期期待運用収益率の設定方法に関する記載

年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在及び予想される年金資産の配分と年金資産を構成する多様な資産からの現在及び将来期待される長期の収益率を考慮しています。

⑧ 割引率その他の数理計算上の計算基礎に関する事項

割引率	0.08%
長期期待運用収益率	
確定給付型年金制度	1.13%
特定退職金共済制度	0.70%

(2) 特例業務負担金の将来見込み額

人件費(うち福利厚生費)には、厚生年金保険制度及び農林漁業団体職員共済組合制度の統合をはかるための農林漁業団体共済組合法等を廃止する等の法律附則第57条に基づき、旧農林共済組合(存続組合)がおこなう特例年金等の業務に要する費用に充てるため拠出した特例業務負担金27,282千円を含めて計上しています。

なお、同組合より示された令和3年3月現在における令和14年3月までの特例業務負担金の将来見込み額は、296,463千円となっています。

9. 退職給付に関する注記

(1) 退職給付に関する注記

① 採用している退職給付制度の概要

職員の退職給付にあてるため、退職給与規程に基づき、退職一時金制度を採用しています。また、この制度に加え、同規程に基づき退職給付の一部にあてるため確定給付型年金制度(D B)及び特定退職金共済制度を採用しています。

② 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

期首における退職給付債務	2,370,051 千円
勤務費用	125,662 千円
利息費用	1,861 千円
数理計算上の差異の発生額	△56,678 千円
退職給付の支払額	△119,245 千円
期末における退職給付債務	2,321,651 千円

③ 年金資産の期首残高と期末残高の調整表

期首における年金資産	1,874,000 千円
期待運用収益	17,552 千円
数理計算上の差異の発生額	△389 千円
確定給付型年金制度(D B)への拠出金	56,755 千円
特定退職金共済制度への拠出金	61,251 千円
退職給付の支払額	△104,534 千円
期末における年金資産	1,904,636 千円

④ 退職給付債務及び年金資産の期末残高と貸借対照表に計上された退職給付引当金の調整表

退職給付債務	2,321,651 千円
確定給付型年金制度(D B)	△1,127,025 千円
特定退職金共済制度	△777,611 千円
未積立退職給付債務	417,015 千円
未認識数理計算上の差異	87,079 千円
貸借対照表計上額純額	504,095 千円
退職給付引当金	504,095 千円

⑤ 退職給付費用及びその内訳項目の金額

勤務費用	125,662 千円
利息費用	1,861 千円
期待運用収益	△17,552 千円
数理計算上の差異の費用処理額	△37,083 千円
合計	72,888 千円

⑥ 年金資産の主な内訳

年金資産合計に対する主な分類ごとの比率は、次のとおりです(または、年金資産の主な分類ごとの金額は、次のとおりです)。

・確定給付型年金制度(D B)	
一般勘定	100%
・特定退職金共済制度	
債券	64%
年金保険投資	27%
現金及び預金	4%
その他	5%
合計	100%

※ 一般勘定とは、全国共済農業協同組合連合会において、企業年金制度の資産等を1つの勘定で運用していることをいいます。

⑦ 長期期待運用収益率の設定方法に関する記載

年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在及び予想される年金資産の配分と年金資産を構成する多様な資産からの現在及び将来期待される長期の収益率を考慮しています。

⑧ 割引率その他の数理計算上の計算基礎に関する事項

割引率	0.08%
長期期待運用収益率	
確定給付型年金制度	1.13%
特定退職金共済制度	0.65%

(2) 特例業務負担金の将来見込み額

人件費(うち福利厚生費)には、厚生年金保険制度及び農林漁業団体職員共済組合制度の統合をはかるための農林漁業団体共済組合法等を廃止する等の法律附則第57条に基づき、旧農林共済組合(存続組合)がおこなう特例年金等の業務に要する費用に充てるため拠出した特例業務負担金26,809千円を含めて計上しています。

なお、同組合より示された令和4年3月現在における令和14年3月までの特例業務負担金の将来見込み額は、268,166千円となっています。

10. 税効果会計に関する注記

(1) 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生原因別の主な内訳

繰延税金資産	
退職給付引当金超過額	155,643千円
減損損失	52,578千円
賞与引当金超過額	27,661千円
減価償却超過額	13,747千円
子会社寄付金等調整額	13,380千円
未払事業税	10,238千円
借地権	9,976千円
役員退職慰労引当金	6,408千円
未払費用否認額	4,516千円
その他有価証券評価差額金	2,241千円
資産除去債務	2,214千円
貸倒引当金超過額	1,136千円
ポイント引当金	848千円
その他	1,490千円
繰延税金資産小計	302,082千円
評価性引当額	△77,283千円
繰延税金資産合計(A)	224,799千円
繰延税金負債	
全農外部出資評価益	△7,967千円
有形固定資産(除去費用)	△17千円
繰延税金負債合計(B)	△7,984千円
繰延税金資産の純額(A)+(B)	216,814千円

(2) 法定実効税率と法人税等負担率との差異の主な原因

法定実効税率	27.6%
(調整)	
交際費等の損金不算入額	0.7%
寄付金の損金不算入額	0.7%
受取配当等の益金不算入額	△2.4%
事業分量配当	△0.7%
住民税均等割額	0.9%
評価性引当額の増減	△0.1%
その他	△1.0%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	25.7%

11. 資産除去債務に関する注記

(1) 資産除去債務のうち貸借対照表に計上しているもの

① 当該資産除去債務の概要

当組合の一部の建物に使用されている有害物質を除去する義務に関して、資産除去債務を計上しています。また、建物の一部は、設置の際に土地所有者との事業用定期借地権契約を締結しており、貸借期間終了による原状回復義務に関し資産除去債務を計上しています。

② 当該資産除去債務の金額の算定方法

資産除去債務の見積りにあたり、支出までの見込期間は0年～4年、割引率は0.0%～2.2%を採用しています。

③ 当事業年度末における当該資産除去債務の総額の増減

期首残高	7,985千円
時の経過による調整額	39千円
期末残高	8,025千円

(2) 貸借対照表に計上している以外の資産除去債務

当組合は、事業所等に関して、不動産賃借契約に基づき、退去時における原状回復に係る義務を有していますが、当該事業所等は当組合が事業を継続する上で必須の施設であり、現時点で除去は想定していません。また、移転が行われる予定もないことから、資産除去債務の履行時期を合理的に見積ることができません。そのため、当該義務に見合う資産除去債務を計上していません。

12. その他の注記

(1) リース会計基準に基づく注記

① オペレーティング・リース

ファイナンス・リース取引以外の、所有権が当組合に移転しないオペレーティング・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっています。なお、未經過リース料は下記のとおりです。

未經過リース料残高相当額	
1年以内	2,916千円
1年超	1,287千円
合計	4,203千円

上記未經過リース料は、解約不能なオペレーティング・リース取引の未經過リース料と解約可能なオペレーティング・リース取引の解約金の合計額です。

10. 税効果会計に関する注記

(1) 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生原因別の主な内訳

繰延税金資産	
退職給付引当金超過額	139,130千円
その他有価証券評価差額金	123,456千円
減損損失	88,522千円
賞与引当金超過額	26,832千円
子会社寄付金等調整額	18,540千円
減価償却超過額	9,050千円
役員退職慰労引当金	8,636千円
借地権	8,573千円
未払費用否認額	4,461千円
未払事業税	3,723千円
資産除去債務	2,221千円
有価証券の有税評価損	965千円
棚卸資産の有税評価損	880千円
貸倒引当金超過額	828千円
その他	491千円
繰延税金資産小計	436,315千円
評価性引当額	△118,570千円
繰延税金資産合計(A)	317,745千円
繰延税金負債	
全農外部出資評価益	△7,967千円
有形固定資産(除去費用)	△11千円
繰延税金負債合計(B)	△7,978千円
繰延税金資産の純額(A)+(B)	309,766千円

(2) 法定実効税率と法人税等負担率との差異の主な原因

法定実効税率	27.6%
(調整)	
交際費等の損金不算入額	1.6%
寄付金の損金不算入額	2.0%
受取配当等の益金不算入額	△7.3%
事業分量配当	△1.8%
住民税均等割額	2.7%
評価性引当額の増減	15.8%
その他	△0.8%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	39.8%

11. 収益認識に関する注記

「重要な会計方針に係る事項に関する注記(4)収益及び費用の計上基準」に同一の内容を記載しているため、注記を省略しています。

12. 資産除去債務に関する注記

(1) 資産除去債務のうち貸借対照表に計上しているもの

① 当該資産除去債務の概要

当組合の一部の建物に使用されている有害物質を除去する義務に関して、資産除去債務を計上しています。また、建物の一部は、設置の際に土地所有者との事業用定期借地権契約を締結しており、貸借期間終了による原状回復義務に関し資産除去債務を計上しています。

② 当該資産除去債務の金額の算定方法

資産除去債務の見積りにあたり、支出までの見込期間は0年～3年、割引率は0.0%～2.2%を採用しています。

③ 当事業年度末における当該資産除去債務の総額の増減

期首残高	8,025千円
時の経過による調整額	23千円
期末残高	8,048千円

(2) 貸借対照表に計上している以外の資産除去債務

当組合は、事業所等に関して、不動産賃借契約に基づき、退去時における原状回復に係る義務を有していますが、当該事業所等は当組合が事業を継続する上で必須の施設であり、現時点で除去は想定していません。また、移転が行われる予定もないことから、資産除去債務の履行時期を合理的に見積ることができません。そのため、当該義務に見合う資産除去債務を計上していません。

13. その他の注記

(1) リース会計基準に基づく注記

① オペレーティング・リース

ファイナンス・リース取引以外の、所有権が当組合に移転しないオペレーティング・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっています。なお、未經過リース料は下記のとおりです。

未經過リース料残高相当額	
1年以内	5,046千円
1年超	12,106千円
合計	17,153千円

上記未經過リース料は、解約不能なオペレーティング・リース取引の未經過リース料と解約可能なオペレーティング・リース取引の解約金の合計額です。

■ 連結剰余金計算書

(単位：千円)

科 目	令和3年3月期	令和4年3月期
	(令和2年4月1日から令和3年3月31日まで)	(令和3年4月1日から令和4年3月31日まで)
(利益剰余金の部)		
1 利益剰余金期首残高	12,123,617	12,602,992
2 利益剰余金増加高	551,738	161,029
当期剰余金	551,738	161,029
3 利益剰余金減少高	62,410	45,786
配当金	62,410	45,786
4 利益剰余金期末残高	12,612,945	12,718,236

農協法に基づく開示債権

(単位：千円)

区 分	令和3年3月期	令和4年3月期	増 減
破産更生債権及びこれらに準ずる債権額	67,664	41,709	△25,955
危険債権額	254,577	219,627	△34,950
要管理債権額	—	—	—
三月以上延滞債権額	—	—	—
貸出条件緩和債権額	—	—	—
小 計	322,241	261,336	△60,905
正常債権額	61,633,589	65,086,656	3,453,067
合 計	61,955,831	65,347,992	3,392,161

- 注：1. 破産更生債権及びこれらに準ずる債権：破産手続開始、更生手続開始、再生手続開始の申立て等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権をいいます。
2. 危険債権：債務者が経営破綻の状態には至っていないが、財政状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取りができない可能性の高い債権をいいます。
3. 要管理債権：4. 「三月以上延滞債権」と5. 「貸出条件緩和債権」の合計額をいいます。
4. 三月以上延滞債権：元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から三月以上遅延している貸出金で、破産更生債権及びこれらに準ずる債権及び危険債権に該当しないものをいいます。
5. 貸出条件緩和債権：債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金で、破産更生債権及びこれらに準ずる債権、危険債権および三月以上延滞債権に該当しないものをいいます。
6. 正常債権：債務者の財政状態及び経営成績に特に問題がないものとして、上記に掲げる債権以外のものに区分される債権をいいます。

事業別経常収益等

(単位：千円)

区 分	項 目	令和2年度	令和3年度
信用事業	事業収益	1,816,465	1,771,630
	経常利益	509,538	455,666
	資産の額	288,095,458	289,552,961
共済事業	事業収益	1,138,146	1,118,228
	経常利益	246,447	204,937
	資産の額	5,502,955	5,392,556
農業関連事業	事業収益	2,193,202	1,686,598
	経常利益	△176,913	△148,971
	資産の額	2,370,780	2,471,362
その他事業	事業収益	1,436,219	857,210
	経常利益	△191,092	△149,138
	資産の額	1,442,501	1,461,975
計	事業収益	6,584,033	5,433,667
	経常利益	387,980	362,492
	資産の額	297,411,695	298,878,856

連結自己資本比率の状況

令和4年3月末における連結自己資本比率は、13.70%となりました。

当連結グループでは、適正なプロセスにより連結自己資本比率を正確に算出し、JAを中心に信用リスクやオペレーショナル・リスクの管理及びこれらのリスクに対応した十分な自己資本の維持を図るとともに、内部留保の積み増しにより自己資本の充実につとめています。

- 資本調達手段の種類 普通出資
 コア資本に係る基礎項目に算入した額 2,880,026千円（前年度 2,845,665千円）

(1) 自己資本の構成に関する事項

(単位：千円、%)

項 目	令和3年 3月期	令和4年 3月期
コア資本に係る基礎項目		
普通出資又は非累積的永久優先出資に係る組合員資本の額	15,403,282	15,533,483
うち、出資金及び資本剰余金の額	2,845,665	2,880,026
うち、再評価積立金の額	—	—
うち、利益剰余金の額	12,615,454	12,718,236
うち、外部流出予定額 (△)	45,786	45,479
うち、上記以外に該当するものの額	△12,050	△19,300
コア資本に算入される評価・換算差額等	—	—
うち、退職給付に係るものの額	—	—
コア資本に係る調整後非支配株主持分の額	—	—
コア資本に係る基礎項目の額に算入される引当金の合計額	178,131	187,410
うち、一般貸倒引当金コア資本算入額	178,131	187,410
うち、適格引当金コア資本算入額	—	—
適格旧資本調達手段の額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	—	—
公的機関による資本の増強に関する措置を通じて発行された資本調達手段の額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	—	—
土地再評価額と再評価直前の帳簿価額の差額の45%に相当する額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	—	—
非支配株主持分のうち、経過措置によりコア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	—	—
コア資本に係る基礎項目の額 (イ)	15,581,414	15,720,893
コア資本に係る調整項目		
無形固定資産（モーゲージ・サービシング・ライセンスに係るものを除く。）の額の合計額	14,741	15,038
うち、のれんに係るもの（のれん相当差額を含む）の額	—	—
うち、のれん及びモーゲージ・サービシング・ライセンスに係るもの以外の額	14,741	15,038
繰延税金資産（一時差異に係るものを除く。）の額	—	—
適格引当金不足額	—	—
証券化取引に伴い増加した自己資本に相当する額	—	—
負債の時価評価により生じた時価評価差額であって自己資本に算入される額	—	—
退職給付に係る資産の額	—	—
自己保有普通出資等（純資産の部に計上されるものを除く。）の額	—	—
意図的に保有している他の金融機関等の対象資本調達手段の額	—	—
少数出資金融機関等の対象普通出資等の額	—	—

項 目	令和3年 3月期	令和4年 3月期
特定項目に係る10%基準超過額	—	—
うち、その他金融機関等の対象普通出資等に該当するものに関するものの額	—	—
うち、モーゲージ・サービシング・ライツに係る無形固定資産に関するものの額	—	—
うち、繰延税金資産（一時差異に係るものに限る。）に関するものの額	—	—
特定項目に係る15%基準超過額	—	—
うち、その他金融機関等の対象普通出資等に該当するものに関するものの額	—	—
うち、モーゲージ・サービシング・ライツに係る無形固定資産に関するものの額	—	—
うち、繰延税金資産（一時差異に係るものに限る。）に関するものの額	—	—
コア資本に係る調整項目の額 (ロ)	14,741	15,038
自己資本		
自己資本の額 ((イ) - (ロ)) (ハ)	15,566,673	15,705,855
リスク・アセット等		
信用リスク・アセットの額の合計額	108,020,169	108,778,632
うち、経過措置によりリスク・アセットの額に算入される額の合計額	—	—
うち、他の金融機関等向けエクスポージャー	—	—
うち、土地再評価額と再評価直前の帳簿価額の差額に係るものの額	—	—
うち、上記以外に該当するものの額	—	—
オペレーショナル・リスク相当額の合計額を8%で除して得た額	5,998,980	5,826,251
信用リスク・アセット調整額	—	—
オペレーショナル・リスク相当額調整額	—	—
リスク・アセット等の額の合計額 (ニ)	114,019,149	114,604,884
連結自己資本比率		
連結自己資本比率 ((ハ) / (ニ))	13.65%	13.70%

(注)

1. 農協法第11条の2第1項第2号の規定に基づく組合の経営の健全性を判断するための基準に係る算式に基づき算出しております。
2. 当連結グループは、信用リスク・アセット額の算出にあつては標準的手法、適格金融資産担保の適用については信用リスク削減手法の簡便手法を、オペレーショナル・リスク相当額の算出にあつては基礎的手法を採用しています。
3. 当連結グループが有するすべての自己資本とリスクを対比して、連結自己資本比率を計算しています。

(2) 自己資本の充実度に関する事項

- ① 信用リスクに対する所要自己資本の額及び区分ごとの内訳

(単位：千円)

	令和3年3月期			令和4年3月期		
	エクスポージャーの期末残高	リスク・アセット額 a	所要自己資本額 b=a×4%	エクスポージャーの期末残高	リスク・アセット額 a	所要自己資本額 b=a×4%
現金	1,080,494	—	—	1,035,785	—	—
我が国の中央政府及び中央銀行向け	6,829,769	—	—	10,420,313	—	—
外国の中央政府及び中央銀行向け	—	—	—	—	—	—
国際決済銀行向け	—	—	—	—	—	—
我が国の地方公共団体向け	4,619,281	—	—	5,385,207	—	—
外国の中央政府等以外の公共部門向け	—	—	—	—	—	—
国際開発銀行向け	—	—	—	—	—	—
地方公共団体金融機構向け	100,002	—	—	100,002	—	—
我が国の政府関係機関向け	400,508	20,032	801	400,523	20,032	801
地方三公社向け	481,323	96,264	3,850	419,857	83,971	3,358
金融機関及び第一種金融商品取引業者向け	206,523,540	41,304,708	1,652,188	200,050,418	40,010,083	1,600,403
法人等向け	2,491,851	1,937,590	77,503	3,578,254	2,575,738	103,029
中小企業等向け及び個人向け	17,731,675	12,599,656	503,986	20,525,030	14,744,380	589,775

抵当権付住宅ローン	1,819,084	625,785	25,031	1,384,291	475,278	19,011	
不動産取得等事業向け	6,114	6,114	244	—	—	—	
三月以上延滞等	1,636	1,942	77	906	1,224	49	
取立未済手形	28,988	5,797	231	29,885	5,977	239	
信用保証協会等保証付	24,433,209	2,431,668	97,266	25,407,572	2,530,479	101,219	
株式会社地域経済活性化支援機構等による保証付	—	—	—	—	—	—	
共済約款貸付	—	—	—	—	—	—	
出資等	814,763	814,763	32,590	814,733	814,733	32,589	
（うち出資等のエクスポージャー）	814,763	814,763	32,590	814,733	814,733	32,589	
（うち重要な出資のエクスポージャー）	—	—	—	—	—	—	
上記以外	29,941,181	48,174,344	1,926,973	29,273,123	47,514,032	1,900,561	
（うち他の金融機関等の対象資本調達手段のうち対象普通出資等及びその他外部TLAC関連調達手段に該当するもの以外のものに関するエクスポージャー）	—	—	—	—	—	—	
（うち農林中央金庫又は農業協同組合連合会の対象資本調達手段に関するエクスポージャー）	11,949,050	29,872,625	1,194,905	11,949,050	29,872,625	1,194,905	
（うち特定項目のうち調整項目に算入されない部分に関するエクスポージャー）	222,433	556,084	22,243	225,592	563,980	22,559	
（うち総株主等の議決権の百分の十を超える議決権を保有している他の金融機関等に関するその他外部TLAC関連調達手段に関するエクスポージャー）	—	—	—	—	—	—	
（うち総株主等の議決権の百分の十を超える議決権を保有していない他の金融機関等に関するその他外部TLAC関連調達手段に関する5%基準額を上回る部分に関するエクスポージャー）	—	—	—	—	—	—	
（うち上記以外のエクスポージャー）	17,769,697	17,745,634	709,825	17,098,481	17,077,426	683,097	
証券化	—	—	—	—	—	—	
（うちSTC要件適用分）	—	—	—	—	—	—	
（うち非STC適用分）	—	—	—	—	—	—	
再証券化	—	—	—	—	—	—	
リスク・ウェイトのみなし計算が適用されるエクスポージャー	300,000	1500	60	600,000	2700	108	
（うちルックスルー方式）	300,000	1500	60	600,000	2700	108	
（うちマンドレート方式）	—	—	—	—	—	—	
（うち蓋然性方式250%）	—	—	—	—	—	—	
（うち蓋然性方式400%）	—	—	—	—	—	—	
（うちフォールバック方式）	—	—	—	—	—	—	
経過措置によりリスク・アセットの額に算入されるものの額	—	—	—	—	—	—	
他の金融機関等の対象資本調達手段に係るエクスポージャーに係る経過措置によりリスク・アセットの額に算入されなかったものの額（△）	—	—	—	—	—	—	
標準的手法を適用するエクスポージャー別計	297,603,425	108,020,169	4,320,806	299,425,905	108,778,632	4,351,145	
CVAリスク相当額÷8%	—	—	—	—	—	—	
中央清算機関関連エクスポージャー	—	—	—	—	—	—	
合計（信用リスク・アセットの額）	297,603,425	108,020,169	4,320,806	299,425,905	108,778,632	4,351,145	
オペレーショナル・リスクに対する所要自己資本の額 < 基礎的手法 >	オペレーショナル・リスク相当額を8%で除して得た額 a	5,998,980	所要自己資本額 b=a×4%	239,959	オペレーショナル・リスク相当額を8%で除して得た額 a	所要自己資本額 b=a×4%	5,826,251
所要自己資本額	リスク・アセット（分母）合計 a	114,019,149	所要自己資本額 b=a×4%	4,560,765	リスク・アセット（分母）合計 a	所要自己資本額 b=a×4%	4,584,195

(注)

1. 「リスク・アセット額」の欄には、信用リスク削減効果適用後のリスク・アセット額を原エクスポージャーの種類ごとに記載しています。
2. 「エクスポージャー」とは、リスクにさらされている資産（オフ・バランスを含む）のことをいい、具体的には貸出金や有価証券等が該当します。
3. 「三月以上延滞等」とは、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から3カ月以上延滞している債務者に係るエク

スポンジャー及び「金融機関向け及び第一種金融商品取引業者向け」、「法人等向け」等においてリスク・ウエイトが150%になったエクスポージャーのことで。

4. 「出資等」とは、出資等エクスポージャー、重要な出資のエクスポージャーが該当します。
5. 「証券化（証券化エクスポージャー）」とは、原資産に係る信用リスクを優先劣後構造のある二以上のエクスポージャーに階層化し、その一部または全部を第三者に移転する性質を有する取引に係るエクスポージャーのことで。
6. 「経過措置によりリスク・アセットの額に算入となるもの」とは、土地再評価差額金に係る経過措置によるリスク・アセットの額及び調整項目に係る経過措置によりなお従前の例によるものとしてリスク・アセットの額に算入したものが該当します。
7. 「上記以外」には、未決済取引・その他の資産（固定資産等）・間接清算参加者向け・信用リスク削減手法として用いる保証又はクレジット・デリバティブの免責額が含まれます。
8. 当連結グループでは、オペレーショナル・リスク相当額の算出にあたって、基礎的手法を採用しています。

＜オペレーショナル・リスク相当額を8%で除して得た額の算出方法（基礎的手法）＞

$$\frac{\text{粗利益（直近3年間のうち正の値の合計額）} \times 15\%}{\text{直近3年間のうち粗利益が正の値であった年数}} \div 8\%$$

（3）信用リスクに関する事項

① リスク管理の方法及び手続の概要

当連結グループでは、JA以外で与信を行っていないため、連結グループにおける信用リスク管理の方針及び手続等は定めていません。JAの信用リスク管理の方針及び手続等の具体的内容は、単体の開示内容をご参照ください。

（注）単体の「リスク管理の状況」の項目に記載。

② 標準的手法に関する事項

連結自己資本比率算出に係る信用リスク・アセット額は告示に定める標準的手法により算出しています。また、信用リスク・アセットの算出にあたって、リスク・ウエイトの判定に当たり使用する格付等は次のとおりです。

（ア）リスク・ウエイトの判定に当たり使用する格付は、以下の適格格付機関による依頼格付のみ使用し、非依頼格付は使用しないこととしています。

適 格 格 付 機 関
株式会社格付投資情報センター(R & I)
株式会社日本格付研究所(JCR)
ムーディーズ・インベスターズ・サービス・インク(Moody's)
S & Pグローバル・レーティング(S & P)
フィッチレーティングスリミテッド(F i t c h)

（注）「リスク・ウエイト」とは、当該資産を保有するために必要な自己資本額を算出するための掛目のことです。

（イ）リスク・ウエイトの判定に当たり使用する適格格付機関の格付またはカントリー・リスク・スコアは、主以下のとおりです。

エクスポージャー	適 格 格 付 機 関	カントリー・リスク・スコア
金融機関向けエクスポージャー		日本貿易保険
法人等向けエクスポージャー(長期)	R&I, Moody's, JCR, S&P, Fitch	
法人等向けエクスポージャー(短期)	R&I, Moody's, JCR, S&P, Fitch	

③ 信用リスクに関するエクスポージャー（地域別、業種別、残存期間別）及び三月以上延滞エクスポージャーの期末残高

（単位：千円）

		令和3年3月期				令和4年3月期			
		信用リスクに関するエクスポージャーの残高	うち貸出金等	うち債券	三月以上延滞エクスポージャー	信用リスクに関するエクスポージャーの残高	うち貸出金等	うち債券	三月以上延滞エクスポージャー
国内		297,303,425	62,009,686	11,321,512	1,632	298,825,905	65,401,824	16,007,066	906
国外		—	—	—	—	—	—	—	—
地域別残高計		297,303,425	62,009,686	11,321,512	1,632	298,825,905	65,401,824	16,007,066	906
法人	農業	6,394	5,244	—	—	5,127	3,977	—	—
	製造業	202,871	—	202,871	—	402,985	—	402,985	—
	建設・不動産業	1,801,761	1,801,761	—	—	1,793,745	1,793,745	—	—
	電気・ガス・熱供給・水道業	115,973	—	100,343	—	417,811	—	402,211	—
	運輸・通信業	709,351	1,438	707,913	—	808,569	1,031	807,538	—
	金融・保険業	218,801,850	—	300,271	—	212,329,623	—	300,269	—
	卸売・小売・飲食・サービス業	396,206	73,976	100,230	—	579,235	54,271	302,964	—
	日本国政府・地方公共団体	11,449,050	1,739,493	9,709,557	—	15,805,520	2,214,747	13,590,773	—
	上記以外	925,159	148,851	200,324	—	1,142,796	366,488	200,324	—
個人	58,239,257	58,238,919	—	1,632	60,967,651	60,967,561	—	906	
その他	4,655,546	—	—	—	4,572,837	—	—	—	
業種別残高計		297,303,425	62,009,686	11,321,512	1,632	298,825,905	65,401,824	16,007,066	906
残存期間別残高計		297,303,425	62,009,686	11,321,512	1,632	298,825,905	65,401,824	16,007,066	906
1年以下		207,656,116	731,211	401,364	—	200,716,568	666,149	—	—
1年超3年以下		1,111,253	1,011,250	100,002	—	1,193,477	892,929	300,548	—
3年超5年以下		1,817,551	1,617,017	200,533	—	1,841,435	1,741,363	100,071	—
5年超7年以下		2,355,016	1,732,871	622,144	—	3,162,106	1,499,819	1,662,287	—
7年超10年以下		4,729,533	3,177,858	1,551,675	—	3,401,077	2,796,932	604,145	—
10年超		61,830,192	53,384,400	8,445,791	—	70,811,457	57,471,443	13,340,014	—
期間の定めのないもの		17,803,762	355,076	—	—	17,699,782	333,186	—	—

（注）

1. 信用リスクに関するエクスポージャーの残高には、資産（自己資本控除となるもの、リスク・ウェイトのみなし計算が適用されるエクスポージャーに該当するもの、証券化エクスポージャーに該当するものを除く）並びにオフ・バランス取引及び派生商品取引の与信相当額を含みます。
2. 「貸出金等」とは、貸出金のほか、コミットメント及びその他のデリバティブ以外のオフ・バランスシート・エクスポージャーを含んでいます。「コミットメント」とは、契約した期間及び融資枠の範囲でお客様のご請求に基づき、金融機関が融資を実行する契約のことをいいます。「貸出金等」にはコミットメントの融資可能残高も含めています。
3. 「三月以上延滞エクスポージャー」には、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から3カ月以上延滞しているエクスポージャーをいいます。
4. 「その他」には、ファンドのうち個々の資産の把握が困難な資産や固定資産等が該当します。

④ 貸倒引当金の期末残高及び期中の増減額

（単位：千円）

	令和3年3月期					令和4年3月期				
	期首残高	期中増加額	期中減少額		期末残高	期首残高	期中増加額	期中減少額		期末残高
			目的使用	その他				目的使用	その他	
一般貸倒引当金	185,922	178,132	—	185,922	178,132	178,132	187,410	—	178,132	187,410
個別貸倒引当金	30,422	20,217	2,327	28,094	20,217	20,217	17,277	—	20,217	17,277

⑤ 業種別の個別貸倒引当金の期末残高・期中増減額及び貸出金償却の額

(単位：千円)

区 分	令和3年3月期						令和4年3月期					
	期首 残高	期中 増加額	期中減少額		期末残高	貸出金償却	期首 残高	期中 増加額	期中減少額		期末残高	貸出金償却
			目的使用	その他					目的使用	その他		
国 内	30,422	20,217	2,327	28,094	20,217	—	20,217	17,277	—	20,217	17,277	—
国 外	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
地域別計	30,422	20,217	2,327	28,094	20,217	—	20,217	17,277	—	20,217	17,277	—
法 人	2,951	—	2,327	624	—	—	—	—	—	—	—	—
卸売・小売・飲食・ サービス業	2,951	—	2,327	624	—	—	—	—	—	—	—	—
個 人	27,470	20,217	—	27,470	20,217	—	20,217	17,277	—	20,217	17,277	—
業種別計	30,422	20,217	2,327	28,094	20,217	—	20,217	17,277	—	20,217	17,277	—

(注) 貸出金償却は、すでに個別貸倒引当金を引き当てていた債権について、償却額と引当金戻入額を相殺した残額を表示しています。

⑥ 信用リスク削減効果勘案後の残高及びリスクウエイト1250%を適用する残高

(単位：千円)

		令和3年3月期			令和4年3月期		
		格付 あり	格付 なし	計	格付 あり	格付 なし	計
信用リス ク削減効 果勘案後 残高	リスク・ウエイト0%	—	13,363,271	13,363,271	—	17,597,059	17,597,059
	リスク・ウエイト2%	—	—	—	—	—	—
	リスク・ウエイト4%	—	—	—	—	—	—
	リスク・ウエイト10%	—	24,517,003	24,517,003	—	25,505,110	25,505,110
	リスク・ウエイト20%	100,151	207,204,892	207,305,044	100,151	200,664,754	200,764,906
	リスク・ウエイト35%	—	1,806,550	1,806,550	—	1,375,127	1,375,127
	リスク・ウエイト50%	910,953	1,331,015	2,241,968	1,815,615	1,311,583	3,127,199
	リスク・ウエイト75%	—	15,867,872	15,867,872	—	18,740,892	18,740,892
	リスク・ウエイト100%	100,343	19,928,592	20,028,935	—	19,540,060	19,540,060
	リスク・ウエイト150%	—	1,294	1,294	—	906	906
	リスク・ウエイト250%	—	12,171,483	12,171,483	—	12,174,642	12,174,642
	その他	—	—	—	—	—	—
リスク・ウエイト1250%	—	—	—	—	—	—	
計	1,111,447	296,191,977	297,303,425	1,915,767	296,910,138	298,825,905	

(注)

- 信用リスクに関するエクスポージャーの残高には、資産（自己資本控除となるもの、リスク・ウエイトのみなし計算が適用されるエクスポージャーに該当するもの、証券化エクスポージャーに該当するものを除く）並びにオフ・バランス取引及び派生商品取引の与信相当額を含みます。
- 「格付あり」にはエクスポージャーのリスク・ウエイト判定において格付を使用しているもの、「格付なし」にはエクスポージャーのリスク・ウエイト判定において格付を使用していないものを記載しています。なお、格付は適格格付機関による依頼格付のみ使用しています。
- 経過措置によってリスク・ウエイトを変更したエクスポージャーについては、経過措置適用後のリスク・ウエイトによって集計しています。また、経過措置によってリスク・アセットを算入したものについても集計の対象としています。
- 1250%には、非同時決済取引に係るもの、信用リスク削減手法として用いる保証又はクレジット・デリバティブの免責額に係るもの、重要な出資に係るエクスポージャーなどリスク・ウエイト1250%を適用したエクスポージャーがあります。

(4) 信用リスク削減手法に関する事項

① 信用リスク削減手法に関するリスク管理の方針及び手続の概要

連結自己資本比率の算出にあって、信用リスク削減手法を「自己資本比率算出要領」において定めています。信用リスク削減手法の適用及び管理方針、手続は、JAのリスク管理の方針及び手続に準じて行っています。JAのリスク管理の方針及び手続等の具体的内容は、単体の開示内容をご参照ください。

② 信用リスク削減手法が適用されたエクスポージャーの額

(単位：千円)

区 分	令和3年3月期		令和4年3月期	
	適格金融 資産担保	保証	適格金融 資産担保	保証
地方公共団体金融機構向け	—	100,002	—	100,002
我が国の政府関係機関向け	—	200,183	—	200,198
法人等向け	11,685	—	6,056	—
中小企業等向け及び個人向け	84,465	1,502,055	57,070	1,476,177
上記以外	—	—	—	—
合 計	96,150	1,802,241	63,126	1,776,378

(注)

1. 「エクスポージャー」とは、リスクにさらされている資産（オフ・バランスを含む）のことをいい、主なものとしては貸出金や有価証券等が該当します。
2. 「3ヵ月月以上延滞等」とは、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から3ヵ月以上延滞している債務者に係るエクスポージャー及び「金融機関向け及び第一種金融商品取引業者向け」、「法人等向け」等においてリスク・ウエイトが150%になったエクスポージャーのことです。
3. 「上記以外」には、現金・外国の中央政府及び中央銀行向け・国際決済銀行等向け・外国の中央政府等以外の公共部門向け・国際開発銀行向け・取立未済手形・未決済取引・その他の資産（固定資産等）等が含まれます。

(5) 派生商品取引及び長期決済期間取引の取引相手のリスクに関する事項

該当する取引はありません。

(6) オペレーショナル・リスクに関する事項

- ① オペレーショナル・リスクに関するリスク管理の方針及び手続の概要
連結グループに係るオペレーショナル・リスク管理は、子会社においてはJAのリスク管理及びその手続に準じたリスク管理を行っています。

(7) 出資その他これに類するエクスポージャーに関する事項

- ① 出資その他これに類するエクスポージャーに関するリスク管理の方針及び手続の概要
連結グループに係る出資その他これに類するエクスポージャーに関するリスク管理は、子会社においてはJAのリスク管理及びその手続に準じたリスク管理を行っています。

② 出資その他これに類するエクスポージャーの連結貸借対照表計上額及び時価

(単位：千円)

	令和3年3月期		令和4年3月期	
	連結貸借対照表 計上額	時価評価額	連結貸借対照表 計上額	時価評価額
上 場	—	—	—	—
非上場	12,763,813	12,763,813	12,763,783	12,763,783
合 計	12,763,813	12,763,813	12,763,783	12,763,783

③ 出資その他これに類するエクスポージャーの売却及び償却に伴う損益

単位：千円)

令和3年3月期			令和4年3月期		
売却益	売却損	償却額	売却益	売却損	償却額
—	—	—	—	—	—

④ 連結貸借対照表で認識され、連結損益計算書で認識されない評価損益の額
(保有目的区分をその他有価証券としている株式・出資の評価損益等)

(単位：千円)

令和3年3月期		令和4年3月期	
評価益	評価損	評価益	評価損
—	5,880	—	323,849

⑤ 連結貸借対照表及び連結損益計算書で認識されない評価損益の額
(子会社・関連会社株式の評価損益等)
該当する取引はありません。

(8) 金利リスクに関する事項

① 金利リスクの算定手方の概要

連結グループの金利リスクの算定方法は、JAの金利リスクの算定方法に準じた方法により行っています。JAの金利リスクの算定方法は、単体の開示内容をご参照ください。

② 金利リスクに関する事項

(単位：百万円)

IRRBB1：金利リスク					
項番		△EVE		△NII	
		当期末	前期末	当期末	前期末
1	上方パラレルシフト	1,978	1,575	7	10
2	下方パラレルシフト	0	0	0	0
3	スティープ化	2,368	1,923		
4	フラット化	0	0		
5	短期金利上昇	0	0		
6	短期金利低下	0	0		
7	最大値	2,368	1,923	7	10
		当期末		前期末	
8	自己資本の額		15,705		15,566

確 認 書

- 1 私は、令和3年4月1日から令和4年3月31日までの事業年度のディスクロージャー誌に記載した内容のうち、財務諸表作成に関するすべての重要な点において適正に表示されていることを確認しました。

- 2 当該確認を行うにあたり、財務諸表が適正に作成される以下の体制が整備され、有効に機能していることを確認しました。
 - (1) 業務分掌と所轄部署が明確化され、各部署が適切に業務を遂行する体制が整備されております。
 - (2) 業務の実施部署から独立した内部監査部門が内部管理体制の適切性・有効性を検証しており、重要な事項については理事会等に適切に報告されております。
 - (3) 重要な経営情報については、理事会等へ適切に附議・報告されております。

令和4年6月27日

南彩農業協同組合

代表理事組合長 菊池 義雄 ㊞

■会計監査人の監査

令和3年度の貸借対照表、損益計算書、剰余金処分計算書及び注記表は、農業協同組合法第37条の2第3項の規定に基づき、みのり監査法人の監査を受けております。

J A 南彩の沿革（あゆみ）

年 月 日	処 理 事 項
昭和 23 年 2 月から 7 月	昭和 22 年 12 月の農協法施行をうけ、各地区に農業協同組合が設立される。 （川通・柏崎・和土・新和・慈恩寺・河合・粕壁・内牧・豊春・武里・幸松・豊野・蓮田・黒 浜・平野・須賀・百間・日勝・篠津・大山・久喜中央・太田第一・太田・江面・清久・菖蒲・三 箇・小林・栢間・栢間第一）
昭和 36 年 6 月 1 日	農協合併助成法が制定される。
昭和 37 年 4 月 1 日	久喜中央・太田第一・太田・江面・清久農協が合併し、久喜町農協誕生
昭和 37 年 5 月 1 日	日勝・篠津・大山農協が合併し、白岡町農協誕生
昭和 38 年 4 月 1 日	菖蒲・三箇・小林・栢間・栢間第一農協が合併し、菖蒲町農協誕生
昭和 39 年 4 月 1 日	蓮田・黒浜・平野農協が合併し、蓮田町農協誕生
昭和 40 年 2 月 1 日	川通・柏崎・和土・新和・慈恩寺・河合農協が合併し、岩槻市農協誕生
昭和 40 年 4 月 1 日	春日部・豊春・武里・幸松・豊野農協が合併し、春日部市農協誕生
昭和 40 年 4 月 1 日	須賀・百間農協が合併し、宮代町農協誕生
平成 3 年 9 月 14 日	第 19 回全国農協大会において、農協の合併促進と体制整備が議決される。
平成 3 年 10 月 8 日	第 19 回埼玉農協大会において、強固な組織経営基盤の確立と新たな協同活動を展 開するための JA 合併推進に関する特別議決がなされた。
平成 4 年 5 月 22 日	農協合併構想により、南埼玉農協合併研究会が発足
平成 6 年 10 月 14 日	第 20 回埼玉農協大会において、JA 広域合併の実現に関する特別議決がなされた。
平成 7 年 2 月 1 日	南埼玉農協合併促進協議会が設立・同日合併準備室を設置
平成 7 年 12 月 2 日	南埼玉 7 農協の合併予備調印式
平成 7 年 12 月 19 日	組合ごとに臨時総会を開催し、合併を決議
平成 8 年 3 月 29 日	合併設立認可
平成 8 年 4 月 1 日	岩槻市・春日部市・蓮田市・宮代町・白岡町・久喜市・菖蒲町の 7 農協が合併し「JA 南彩」誕生
平成 9 年 3 月 11 日	臨時総代会開催（定款の一部変更）
平成 9 年 4 月 30 日	第 1 回通常総代会開催（8 年度決算・9 年度事業計画等）
平成 9 年 11 月 10 日	臨時総代会開催（執行体制及び監査体制の強化等に係る定款の一部変更等）
平成 10 年 4 月 30 日	第 2 回通常総代会開催（9 年度決算・10 年度事業計画等）
平成 11 年 3 月 29 日	第 3 回臨時総代会開催（11 年度事業計画等）
平成 11 年 6 月 10 日	第 3 回通常総代会開催（10 年度決算・定款の一部変更等）
平成 12 年 3 月 29 日	第 4 回臨時総代会開催（12 年度事業計画等）
平成 12 年 6 月 10 日	第 4 回通常総代会開催（11 年度決算・定款の一部変更等）
平成 13 年 3 月 29 日	第 5 回臨時総代会開催（13 年度事業計画等）
平成 13 年 6 月 10 日	第 5 回通常総代会開催（12 年度決算・定款の一部変更等）
平成 14 年 1 月 18 日	第 6 回臨時総代会開催（定款の一部変更）
平成 14 年 6 月 10 日	第 6 回通常総代会開催（13 年度決算・14 年度事業計画等）
平成 14 年 10 月 28 日	第 7 回臨時総代会開催（定款の一部変更）
平成 15 年 6 月 10 日	第 7 回通常総代会開催（14 年度決算・15 年度事業計画等）
平成 16 年 6 月 10 日	第 8 回通常総代会開催（15 年度決算・16 年度事業計画等）
平成 17 年 1 月 27 日	第 8 回臨時総代会開催（共済規程の全部変更）
平成 17 年 6 月 10 日	第 9 回通常総代会開催（16 年度決算・17 年度事業計画等）
平成 18 年 6 月 10 日	第 10 回通常総代会開催（17 年度決算・18 年度事業計画等）
平成 19 年 6 月 10 日	第 11 回通常総代会開催（18 年度決算・19 年度事業計画等）
平成 20 年 6 月 10 日	第 12 回通常総代会開催（19 年度決算・20 年度事業計画等）
平成 21 年 6 月 10 日	第 13 回通常総代会開催（20 年度決算・21 年度事業計画等）
平成 22 年 6 月 10 日	第 14 回通常総代会開催（21 年度決算・22 年度事業計画等）
平成 23 年 6 月 10 日	第 15 回通常総代会開催（22 年度決算・23 年度事業計画等）
平成 24 年 6 月 12 日	第 16 回通常総代会開催（23 年度決算・24 年度事業計画等）
平成 25 年 6 月 11 日	第 17 回通常総代会開催（24 年度決算・25 年度事業計画等）
平成 26 年 6 月 10 日	第 18 回通常総代会開催（25 年度決算・26 年度事業計画等）
平成 27 年 6 月 11 日	第 19 回通常総代会開催（26 年度決算・27 年度事業計画等）
平成 28 年 6 月 14 日	第 20 回通常総代会開催（27 年度決算・28 年度事業計画等）

年 月 日	処 理 事 項
平成 29 年 6 月 11 日	第 21 回通常総代会開催（28 年度決算・29 年度事業計画等）
平成 30 年 6 月 12 日	第 22 回通常総代会開催（29 年度決算・30 年度事業計画等）
令和 元 年 6 月 11 日	第 23 回通常総代会開催（30 年度決算・元年度事業計画等）
令和 2 年 6 月 11 日	第 24 回通常総代会開催（元年度決算・2 年度事業計画等）
令和 3 年 6 月 10 日	第 25 回通常総代会開催（2 年度決算・3 年度事業計画等）
令和 4 年 6 月 10 日	第 26 回通常総代会開催（3 年度決算・4 年度事業計画等）

店舗等一覧（JA南彩）

令和4年4月1日現在

店舗名	住所	電話番号	ATM設置数
本店	春日部市南二丁目4番30号	048-720-8051	—
岩槻城南支店	岩槻区城南四丁目1番39号	048-798-3345	3
岩槻営農経済センター	岩槻区大字柏崎802番地の1	048-798-0072	—
新和支店	岩槻区大字尾ヶ崎1081番地の1	048-798-0004	1
川通支店	岩槻区大字大口255番地	048-799-1063	1
慈恩寺支店	岩槻区大字慈恩寺256番地の8	048-794-1146	1
河合支店	岩槻区大字平林寺423番地の5	048-757-4033	1
春日部支店	春日部市南二丁目5番37号	048-736-5501	2
春日部営農経済センター	春日部市南二丁目4番30号	048-736-5506	—
春日部東支店	春日部市八丁目330番地の1	048-752-2234	2
蓮田支店	蓮田市東二丁目4番20号	048-768-2190	2
中部営農経済センター	蓮田市黒浜3108番地の1	048-768-5556	1
宮代支店	宮代町宮代三丁目790番地の1	0480-32-0102	1
白岡大山支店	白岡市白岡1176番地の1	0480-92-2315	2
久喜江面支店	久喜市北青柳73番地	0480-21-1101	2
		0480-21-0068	
久喜営農経済センター	久喜市下清久61番地	0480-25-1515	—
太田支店	久喜市吉羽二丁目15番地18	0480-21-0354	1
菖蒲支店	久喜市菖蒲町菖蒲902番地の1	0480-85-0040	1
菖蒲営農経済センター	久喜市菖蒲町下栢間948番地の1	0480-85-7334	—
菖蒲南支店	久喜市菖蒲町小林238番地	0480-85-1022	3
寺田支店	久喜市菖蒲町三箇2249番地	0480-85-3535	1
ローンセンター	春日部市上蛭田441番地の1	048-755-1900	1
農機センター	蓮田市大字関戸2938番地の1	048-766-3187	—
燃料配送センター	久喜市樋ノ口15番地の1	0480-23-0471	—
岩槻直売所	岩槻区城南四丁目1番40号	048-798-8311	—
久喜直売所	久喜市本町三丁目16番40号	0480-25-1183	—
菖蒲グリーンセンター	久喜市菖蒲町小林227番地	0480-85-4444	—
(株)なんさいふぁー夢	久喜市菖蒲町小林2302番地	0480-87-2022	—

*岩槻城南支店のATM2台は岩槻駅前ワッツ・旧東岩槻支店に、春日部東支店のATM1台は旧豊野支店に、蓮田支店のATM1台は旧平野支店に、白岡大山支店のATM1台は旧日勝支店に、久喜江面支店のATM1台は旧清久支店に、菖蒲南支店のATM1台は旧三箇支店に、それぞれ設置してあります。

開示項目一覧

農業協同組合法施行規則第204条（単体）

1	業務の運営の組織	16	(3) 担保の種類別(貯金等、有価証券、動産、不動産その他担保物、農業信用基金協会保証その他保証及び信用の区分)の貸出金残高及び債務保証見返額	42
2	理事、経営管理委員及び監事の氏名及び役職名	15	(4) 使途別(設備資金及び運転資金の区分)の貸出金残高	42
3	会計監査人の氏名又は名称	15	(5) 主要な農業関係の貸出実績	43
4	事務所の名称及び所在地	90	(6) 業種別の貸出金残高及び当該貸出金残高の貸出金の総額に対する割合	42
5	組合の主要な業務の内容	19	(7) 貯貸率の期末値及び期中平均値	54
6	直近の事業年度における事業の概況	28	【有価証券に関する指標】	
7	直近の5事業年度における主要な業務の状況を示す指標として次に掲げる事項	29	(1) 商品有価証券の種類別(商品国債、商品地方債、商品政府保証債及びその他の商品有価証券の区分)の平均残高	43
	(1) 経常収益(農業協同組合にあっては、第151条第2項第1号に定める事業の区分ごとの事業収益及びその合計)		(2) 有価証券の種類別(国債、地方債、社債、株式、外国債券及び外国株式その他の証券の区分)の残存期間別の残高	44
	(2) 経常利益又は経常損失		(3) 有価証券の種類別(国債、地方債、社債、株式、外国債券及び外国株式その他の証券の区分)の平均残高	44
	(3) 当期剰余金又は当期損失金		(4) 貯貸率の期末値及び期中平均値	54
	(4) 出資金及び出資口数		9 組合の業務の運営に関する事項	
	(5) 純資産額		(1) リスク管理の体制	8
	(6) 総資産額		(2) 法令遵守の体制	10
	(7) 貯金等残高		(3) 苦情処理措置及び紛争解決措置の内容	10
	(8) 貸出金残高		10 組合の直近の2事業年度における財産の状況に関する次に掲げる事項	
	(9) 有価証券残高		(1) 貸借対照表、損益計算書及び注記表、剰余金処分計算書又は損失金処理計算書	30
	(10) 単体自己資本比率		(2) 貸出金のうち次に掲げるものの額及びその合計額	45
	(11) 法第52条第2項の区分ごとの剰余金の配当の金額		① 破産更生債権及びこれらに準ずる債権に該当する貸出金	
	(12) 職員数		② 危険債権に該当する貸出金	
8	直近の2事業年度における事業の状況を示す指標として次に掲げる事項		③ 三月以上延滞債権に該当する貸出金	
	【主要な業務の状況を示す指標】		④ 貸出条件緩和債権に該当する貸出金	
	(1) 事業粗利益及び事業粗利益率、事業利益、実質事業純益、コア事業純益及びコア事業純益(投資信託解約損益を除く)	48	⑤ 正常債権に該当する貸出金	
	(2) 資金運用収支、役員取引等収支及びその他事業収支	48	(3) 自己資本(基本的項目に係る細目を含む。)の充実の状況	55
	(3) 資金運用勘定及び資金調達勘定の平均残高、利息、利回り及び総資金利ざや	49	(4) 次に掲げるものに関する取得価額又は契約価額、時価及び評価損益	44
	(4) 受取利息及び支払利息の増減	49	① 有価証券	
	(5) 総資産経常利益率及び資本経常利益率		② 金銭の信託	
	(6) 総資産当期純利益率及び資本当期純利益率	54	③ 金融先物取引等(店頭金融先物取引及び金融先物取引法第2条第9項に規定する金融先物取引等)	
	【貯金に関する指標】		④ 金融等デリバティブ取引(法第10条第13号に規定する金融等デリバティブ取引)	
	(1) 流動性貯金、定期性貯金、譲渡性貯金その他の貯金の平均残高	41	⑤ 有価証券店頭デリバティブ取引(法第10条第6項第15号に規定する有価証券店頭デリバティブ取引)	
	(2) 固定自由金利定期貯金、変動自由金利定期貯金及びその他の区分ごとの定期貯金の残高	41	(5) 貸倒引当金の期末残高及び期中の増減額	46
	【貸出金等に関する指標】		(6) 貸出金償却の額	46
	(1) 手形貸付、証書貸付、当座貸越及び割引手形の平均残高	41	(7) 会計監査人設置組合にあっては、法第37条の2第3項の規定に基づき会計監査人の監査を受けている旨	87
	(2) 固定金利及び変動金利の区分ごとの貸出金の残高	41		
	※ 当JA南彩は、信託業務を行っておりませんので、信託に関する事項は削除しています。			

農業協同組合法施行規則第205条（連結）

1	組合及びその子会社等の主要な事業の内容及び組織の構成	27/65	(3) 当期利益又は当期損失	
2	組合の子会社等に関する次に掲げる事項		(4) 純資産額	
	(1) 名称	表紙裏	(5) 総資産額	
	(2) 主たる営業所又は事務所の所在地	表紙裏	(6) 連結自己資本比率	
	(3) 資本金又は出資金	表紙裏	5 直近の2連結会計年度における組合及びその子会社等の連結貸借対照表、連結損益計算書及び連結注記表、連結剰余金計算書	67
	(4) 事業の内容	27	6 直近の2連結会計年度における組合及びその子会社等の貸出金のうち次に掲げるものの額及びその合計額	77
	(5) 設立年月日	表紙裏	(1) 破産更生債権及びこれらに準ずる債権に該当する貸出金	
	(6) 組合が有する子会社等の議決権の総株主、総社員又は総出資者の議決権に占める割合	表紙裏	(2) 危険債権に該当する貸出金	
	(7) 組合の一の子会社等以外の子会社等が有する当該一の子会社等の議決権の総株主、総社員又は総出資者の議決権に占める割合	表紙裏	(3) 三月以上延滞債権に該当する貸出金	
3	直近の事業年度における組合及びその子会社等の事業の概況	65	(4) 貸出条件緩和債権に該当する貸出金	
4	直近の5連結会計年度における主要な業務の状況を示す指標として次に掲げる事項	66	(5) 正常債権に該当する貸出金	
	(1) 経常収益(第143条第2項第1号に定める事業の区分ごとの事業収益及びその合計)		7 直近の2連結会計年度における組合及びその子会社等の自己資本(基本的項目に係る細目を含む。)の充実の状況	78
	(2) 経常利益又は経常損失			

ディスクロージャーとは...

ディスクロージャーとは、企業の信頼性を増し、出資者（組合員）をはじめ一般の方々にも安心して事業をご利用いただくために、財務内容や経営内容を公開することです。

JAにおいても、信用事業等の業務範囲の拡大に伴い、経営や財務に関する情報の開示を通じ、JAの運営の健全性をご判断いただくために、ここにディスクローズいたします。

この冊子が、JAの事業内容や経営・財務内容をより深くご理解いただく糧となるとともに、皆様方とJAとのパイプ役となりお役に立つことを願っております。

本ディスクロージャーについてのお問い合わせは
JA南彩 企画管理部
〒344-0064
春日部市南二丁目4番30号
TEL.048-720-8051（代表）
ホムン・ツアリス
<http://www.ja-nansai.or.jp>

